

平成 27 年度 健康栄養学科 シラバス目次

基礎教養ゼミ（教養基礎）	1
日本語表現法（教養基礎）	2
日本国憲法（教養基礎）	3
法学（教養基礎）	4
経済学（教養基礎）	5
社会学（教養基礎）	6
生涯健康論（教養基礎）	7
生涯学習概論（教養基礎）	9
生命と環境の科学（教養基礎）	11
国際関係論（教養基礎）	12
体育理論（教養基礎）	14
体育実技（教養基礎）	15
キャリア形成論（教養基礎）	17
哲学（人間理解）	19
倫理学（人間理解）	20
心理学（人間理解）	21
文学と人間（人間理解）	22
芸術論（人間理解）	23
ボランティア・市民活動論（人間理解）	24
人権論（人間理解）	26
人間関係論（人間理解）	28
ジェンダー論（人間理解）	29
共生の倫理（人間理解）	30
チーム医療アプローチ論（人間理解）	31
国際医療事情（人間理解）	32
Introduction to Healthcare Sciences（人間理解）	34
英語 I A（リテラシー）	36
英語 I B（リテラシー）	37
英語 I C（リテラシー）	38
英語 II A（リテラシー）	39
英語 II B（リテラシー）	41
英語 II C（リテラシー）	42
英語 III A（リテラシー）	43
英語 III B（リテラシー）	44
英語 III C（リテラシー）	45
英語 IV A（リテラシー）	46
英語 IV B（リテラシー）	47
英語 IV C（リテラシー）	48
Integrated English I（リテラシー）	49
Integrated English II（リテラシー）	50
ドイツ語（リテラシー）	51
フランス語（リテラシー）	52
ポルトガル語（リテラシー）	53
中国語（リテラシー）	54
ハンデル語（リテラシー）	55
コンピュータ入門 I（リテラシー）	56
コンピュータ入門 II（リテラシー）	57
コンピュータ実習 I（リテラシー）	58

コンピュータ実習Ⅱ（リテラシー）	59
世界の社会福祉発達史（専門教養科目）	60
国際保健医療論（専門教養科目）	61
世界の歴史と日本（専門教養科目）	63
人間行動学（専門教養科目）	64
健康運動実技（専門教養科目）	65
宗教と倫理（専門教養科目）	66
レクリエーション論（専門教養科目）	67
生物学（専門導入科目）	69
化学（専門導入科目）	70
有機化学Ⅰ（専門導入科目）	72
有機化学Ⅱ（専門導入科目）	74
管理栄養士実践入門（専門導入科目）	76
管理栄養士基礎実習（専門導入科目）	78
食物学特別講座Ⅰ（専門導入科目）	79
食物学特別講座Ⅱ（専門導入科目）	81
NR・サプリメントアドバイザー（専門導入科目）	83
公衆衛生学Ⅰ（専門基幹科目）	85
公衆衛生学Ⅱ（専門基幹科目）	86
栄養情報処理論（専門基幹科目）	87
栄養情報処理実習（専門基幹科目）	88
解剖生理学Ⅰ（専門基幹科目）	89
解剖生理学Ⅱ（専門基幹科目）	90
解剖生理学実習（専門基幹科目）	91
生化学Ⅰ（専門基幹科目）	93
生化学Ⅱ（専門基幹科目）	94
生化学実験Ⅰ（専門基幹科目）	95
生化学実験Ⅱ（専門基幹科目）	96
疾病の成り立ちⅠ（専門基幹科目）	97
疾病の成り立ちⅡ（専門基幹科目）	99
疾病の成り立ちⅢ（専門基幹科目）	101
疾病の成り立ち実習（専門基幹科目）	103
食品学Ⅰ（専門基幹科目）	105
食品学Ⅱ（専門基幹科目）	106
食べ物と健康基礎実験（専門基幹科目）	107
食品学実験（専門基幹科目）	108
食品加工学（専門基幹科目）	109
食品加工学実習（専門基幹科目）	110
食品衛生学（専門基幹科目）	112
食品衛生学実験（専門基幹科目）	113
調理学（専門基幹科目）	115
調理科学（専門基幹科目）	117
調理学実習Ⅰ（専門基幹科目）	119
調理学実習Ⅱ（専門基幹科目）	121
基礎栄養学（専門科目）	123
基礎栄養学実験（専門科目）	125
応用栄養学Ⅰ（専門科目）	127
応用栄養学Ⅱ（専門科目）	129
応用栄養学実習（専門科目）	131
スポーツ栄養学（専門科目）	133
栄養教育論Ⅰ（専門科目）	135

栄養教育論Ⅱ（専門科目）	137
栄養教育論Ⅲ（専門科目）	139
栄養教育論実習（専門科目）	141
臨床栄養学Ⅰ（専門科目）	143
臨床栄養学Ⅱ（専門科目）	144
臨床栄養管理論（専門科目）	145
臨床栄養活動論（専門科目）	147
臨床栄養学実習Ⅰ（食事療法実習）（専門科目）	149
臨床栄養学実習Ⅱ（臨床栄養ケアマネジメント実習）（専門科目）	151
公衆栄養学Ⅰ（専門科目）	152
公衆栄養学Ⅱ（専門科目）	154
公衆栄養学実習（専門科目）	156
給食経営管理Ⅰ（専門科目）	158
給食経営管理Ⅱ（専門科目）	160
給食経営管理実習Ⅰ（専門科目）	162
給食経営管理実習Ⅱ（専門科目）	164
総合演習Ⅰ（臨地実習前後教育）（専門科目）	166
総合演習Ⅱ（臨床栄養学実習事前事後学習）（専門科目）	168
総合演習Ⅲ（専門科目）	169
臨地実習Ⅰ（給食運営）（専門科目）	170
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）（専門科目）	172
臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）（専門科目）	174
臨地実習Ⅳ（公衆栄養学）（専門科目）	176
特別講座（食育・公衆栄養学コース）（卒業研究）	178
特別講座（食品科学コース）（卒業研究）	179
特別講座（栄養科学・スポーツ栄養学コース）（卒業研究）	180
特別講座（臨床栄養学コース）（卒業研究）	181
卒業研究（卒業研究）	182
栄養教諭論（教職関係科目）	184
学校食指導各論（教職関係科目）	185
教師論（教職関係科目）	186
教育基礎論（教職関係科目）	187
教育心理学（教職関係科目）	188
教育制度論（教職関係科目）	190
道德教育の研究（教職関係科目）	191
教育課程・方法論（教職関係科目）	192
教育課程・特別活動論（教職関係科目）	193
生徒指導論（教職関係科目）	194
教育相談（教職関係科目）	195
事前・事後指導（教職関係科目）	197
栄養教育実習（教職関係科目）	198
教職実践演習（栄養教諭）（教職関係科目）	199

基礎教養ゼミ（教養基礎）

担当者

案田順子、町田修三、内田幸子、小泉英明

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

「生徒」から「学生」へと、短期間で意識改革を要求される大学生活。入学直後からの「とまどい」を払拭し大学生活を充実させるために、学習方法の修得、大学生活の心得と改善の理解、さらには将来へのキャリアデザイン構築を図る。

到達目標

大学初年次生としての基礎的な学習方法を実践でき、発展的自己学習方法を目指すことができる。基礎学力確認試験を通じ、自分の現時点での実力を確認でき、自己学習の方向性を具体的に把握できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 大学で何を学ぶか（意義と目的）
- 第 2 回 書くためのスキル I（ノートテキング）
- 第 3 回 大学生としての自覚と認識 I（学びの意味）
- 第 4 回 コミュニケーションスキル I（ディベート）
- 第 5 回 コミュニケーションスキル II（敬語法）
- 第 6 回 大学生としての自覚と認識 II（社会を見つめる）
- 第 7 回 書くためのスキル II（レポート作成法）
- 第 8 回 大学生としての自覚と認識 III（安全教育）
- 第 9 回 コミュニケーションスキル III（プレゼンテーション）
- 第 10 回 書くためのスキル III（文章作成法）
- 第 11 回 コミュニケーションスキル IV（自己紹介・他者紹介）
- 第 12 回 大学生としての自覚と認識 IV（友人・教員との関係）
- 第 13 回 大学生としての自覚と認識 V（薬物・飲酒）
- 第 14 回 大学生としての自覚と認識 VI（キャリアデザイン）
- 第 15 回 基礎学力確認試験（文章読解・数的理解）・解説

評価方法

授業参加度 20%、学期末筆記試験 80%で総合的に評価する。詳しい評価基準は該当授業時に提示する。

使用教材

使用教材は、授業時に各担当教員から配布する。

授業外学習の内容

毎回異なるテーマで教員も入れ替わるが、同一教員のプリントはまとめてファイルしておくこと。

備考

受講ルール：私語・携帯電話の使用および飲食は厳禁とする。

キーワード：「初年次生」「学習方法」「学習意欲」

学習上の助言：大学生活での「不安」を「解消」するために多方面から指導するので、たとえ眠くなっても眠ってはいられないでしょう。

日本語表現法（教養基礎）

担当者

案田 順子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 2 単位
健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

日本人の極端な日本語能力の低下が問題視されている中で、主に「書きことば」における表現力を向上させるために、まず自分の「考え」をまとめ「書く」に至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と、生じやすい表現上のミスを具体的に認識し、「考え」をいかに「文章化」するかを修得する。

到達目標

日本語の基礎的知識を、表現・文法・語彙の三側面から把握し、活用することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 「考え」をまとめるための 5 段階
- 第 2 回 日本語表現の基礎知識Ⅰ 「公的」と「私的」
- 第 3 回 日本語表現の基礎知識Ⅱ 慣用句
- 第 4 回 日本語表現の基礎知識Ⅲ ことわざ・故事成語
- 第 5 回 日本語表現の基礎知識Ⅳ 四字熟語
- 第 6 回 日本語表現の基礎知識Ⅴ 比喩法
- 第 7 回 日本語表現のミスⅠ 主述関係
- 第 8 回 日本語表現のミスⅡ 修飾語・被修飾語
- 第 9 回 日本語表現のミスⅢ 重複表現
- 第 10 回 日本語表現のミスⅣ 副詞の誤用
- 第 11 回 日本語表現のミスⅤ 助詞の誤用
- 第 12 回 文章の組み立て方Ⅰ 起承転結
- 第 13 回 文章の組み立て方Ⅱ 5W1H
- 第 14 回 文章の組み立て方Ⅲ キーワード・キーセンテンス
- 第 15 回 文章の組み立て方Ⅳ 字数制限

評価方法

筆記試験（80%）・漢字テスト（10%）・授業参加度（10%）によって、総合的に評価する。評価方法の基準については、講義時に通達する。

使用教材

『文章表現テクニック』（教育弘報研究所）…漢字テストは、左記教材の付録 2・3 から出す。

授業外学習の内容

自ら学ぶ姿勢を身につけるため、次回の授業までにノート整理を行っておくこと。

備考

受講ルール：私語・携帯電話の使用および飲食は厳禁とする。

キーワード：「日本語」「自己表現」「基礎知識」「再確認」

学習上の助言：「日本語」の基礎を再確認し、実力をつけるラストチャンスと考え、授業には積極的に、しかしながら謙虚な姿勢で参加するように。担当者メールアドレス：janda@takasaki-u.ac.jp

日本国憲法（教養基礎）

担当者

金井 洋行

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位
健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

憲法に関する基本的な知識を習得することを目的とするが、特に社会人として要求される価値規範意識を醸成する。身近な生活の中から人権の保護や社会への参加の問題を探り出し、憲法上の課題を理解する

到達目標

- ・憲法が解決すべき紛争について、その歴史的・社会的背景を認識できる。
- ・政治の世界で起きるでき事について。具体的な憲法規定と結びつけられる。
- ・憲法学習を通じて、市民相互間のあり方と公的部門のあり方を考察できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 憲法とは何か ①憲法学習の意義②憲法の本質
- 第 2 回 国家・国民・政府－憲法を構成する基本要素の内容
- 第 3 回 日本国憲法の制定 ①日本国憲法の制定の経緯②日本国憲法の特徴
- 第 4 回 日本国憲法の理念 ①日本国憲法の全体構造②基本的人権の保障と統治機構の関係
- 第 5 回 基本的人権の本質 ①基本的人権の意味②人権の享有主体
- 第 6 回 個人主義と幸福追求権 ①個人主義の意味②人間の人格的権利の特徴
- 第 7 回 法の下での平等 ①平等の法的意味②合理的区別の問題点
- 第 8 回 精神的自由権 ①人間の精神活動の法的意味②報道の自由の課題
- 第 9 回 経済的自由権 ①人間の経済活動の法的意味②経済規制の立法の課題
- 第10回 社会権と教育権①文化的に生きる権利の意味②教育を受ける権利と学習権
- 第11回 国会と立法 ①国会の特徴②法律を制定することの意味
- 第12回 内閣と行政 ①内閣と内閣総理大臣の特徴②行政活動の統制
- 第13回 裁判所と司法 ①裁判所の構成と機能②司法権の意義と限界
- 第14回 民主制の選挙 ①民主主義の本質②選挙制度の問題点
- 第15回 憲法改正と憲法保障 ①憲法改正の手續と限界②憲法を守るための理念と制度

評価方法

授業に対する姿勢（30%） 期末試験（知識と思考の審査）（70%）

使用教材

『アトラス法学憲法』 金井洋行その他

授業外学習の内容

- ・テキスト内の演習課題は必ず行うこと。レジュメ次回「考えてみよう」を行っておくこと。

備考

法学（教養基礎）

担当者

金井 洋行

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 2 単位
健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

法の存在意義を法が権利と義務の変動の関係を規律しているという観点から理解する。法律関係の基本的システムを習得し、社会生活を営む者に要求される法規範意識を身に付ける。

到達目標

- ・身近に生じる生活上の課題から派生する法的問題を探ることができる。
- ・法的問題を解決するための法制度や法解釈の基礎を理解できる。
- ・法の仕組みや解釈の手法を通して、社会人としてのものの考え方ができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 法とは何か ①法の意義②法の機能
第 2 回 成人と法 ①人間の年齢の法的意味②人間の能力の法的意味
第 3 回 就職と法 ①採用の法的意味②選定の法的問題
第 4 回 労働と法 ①労働契約の法的意味②労働条件の保護の課題
第 5 回 結婚と法 ①婚姻の要件と障害②夫婦の権利義務関係
第 6 回 親子と法 その 1①子の出産をめぐる法律問題②親子関係の形成—嫡出性の問題
第 7 回 親子と法 その 2①親権関係②扶養関係
第 8 回 教育と法 ①義務教育の意義②就学過程において生じる法律問題
第 9 回 社会活動と法 ①社会生活上の団体の意味②団体生活において生じる法律問題
第10回 社会負担と法 ①租税や社会保険料の意味②公共生活上の法律問題
第11回 国際化と法 ①出入国の管理②涉外事件における法律問題
第12回 財産関係と法 ①物権取引において生じる法律問題②契約締結において生じる法律問題
第13回 犯罪と法 ①犯罪と刑罰の法的意味②科罰手続の問題
第14回 争い事と法 ①紛争の法的処理の方法②裁判の仕組み
第15回 老年期と法 ①老年期の介護と医療②人間の死の法的意味

評価方法

授業に対する姿勢を重視する。(30%) 期末試験（知識と思考力の審査）(70%)

使用教材

『アトラス法学憲法』金井洋行その他

授業外学習の内容

テキスト内の演習課題は必ず行うこと。日々社会のでき事を興味をもって考えられるようにしておくこと

備考

経済学（教養基礎）

担当者

町田 修三

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、ほとんどの学生は十分な知識を持っていない。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。

到達目標

- ①日本経済の現状を説明できる。
- ②新聞やテレビのニュースが難なく理解できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 インTRODクシヨN
- 第 2 回 日本経済の流れ（世界との比較のなかで）
- 第 3 回 経済政策の 2 大潮流－マーケット or ケインズ
- 第 4 回 需要と供給（需要曲線の意味）
- 第 5 回 市場メカニズムと価格（どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだろう？）
- 第 6 回 価格の変動（どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだろう？）
- 第 7 回 国民所得（国の経済力はどう測るんだろう？GDP って何？）
- 第 8 回 国民所得（あなたが 1 万円使うと GDP はいくら増える？）
- 第 9 回 財政（日本の借金は大丈夫？消費税は何%に？）
- 第10回 景気と失業（不景気で学生の就職はどうなる？）
- 第11回 金融（日本銀行は何をするところ？）
- 第12回 経済政策のしくみ
- 第13回 為替レートのメカニズム（円高、円安ってどうして起こるの？）
- 第14回 世界と日本（日本の貿易は黒字？赤字？）
- 第15回 まとめと確認のためのテスト

評価方法

筆記試験 80%、毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物 20%

使用教材

授業外学習の内容

本講義の理解を深めるためには、新聞やテレビで日々のニュースに触れることが効果的である。テキストを利用した予復習は課さないかわりに、日常的に新聞を読みテレビニュースを視聴すること

備考

社会学（教養基礎）

担当者

安達 正嗣

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

社会的なもの（モノ）の見方とは、どういうものか、社会的にものを考えるときに使用する専門的概念には、どのようなものがあるのかなどといった社会学の基本の理解を目指す。使用教材を中心にしながら、日常の具体的な事例から解説する。

到達目標

初めて社会学を学ぶ学生に対して、社会学の基礎的な知識ならびに考え方を理解させて習得させることが、この講義の到達目標である

講義内容と講義計画

- 第 1 回 社会学への招待
- 第 2 回 「私」という社会的存在
- 第 3 回 「自由」と個人主義化
- 第 4 回 対人関係の多様化の時代
- 第 5 回 対人関係とメディアの発達
- 第 6 回 「希薄な関係」と「濃密な関係」
- 第 7 回 テレビアニメからみる日本の家族と子ども像
- 第 8 回 恋愛・結婚・夫婦関係
- 第 9 回 少子高齢社会の家族と介護
- 第10回 会社と仕事
- 第11回 文化と社会
- 第12回 格差社会とは何か
- 第13回 社会保障のあり方
- 第14回 グローバリゼーションの時代
- 第15回 まとめ

評価方法

平常点（第 1 回目の講義で説明します） 50%、学期末試験 50%です。

使用教材

浅野智彦編著『図解 社会学のことが面白いほどわかる本』中経出版。

授業外学習の内容

毎回の内容について、事前に教科書を読んでおくこと。

備考

私語は、厳禁です。

生涯健康論（教養基礎）

担当者

鈴木 忠

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

生涯を幸せで豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約 10 年も短い。本講義では、健康寿命の延伸のための生涯にわたる健康増進法について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎能力を身に付けることを目的としている。

到達目標

各回の講義内容欄に〈 〉内に示す語句（キーワード）について理解し、説明できるようになる。

講義内容と講義計画

第 1 回 健康の定義と健康評価指標

WHO の提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、〈平均寿命〉、〈平均余命〉、〈健康寿命〉、〈最長寿命〉などの呼び方があり、これから重要なのは、健康寿命であることを理解する。

第 2 回 健康を維持するための構造と働き

健康を維持するための主たる生理機構は、〈物質代謝〉である。物質代謝に関わる体の構造とその働きについて理解する。

第 3 回 恒常性維持システムの役割と相互作用

物質代謝に関連する構造がバランスよく正常に機能するように統括する恒常性維持（〈ホメオスタシス〉）システムは、脳神経系、内分泌系及び免疫系で構成される。その働きと相互作用について理解する。

第 4 回 食物と健康

物質代謝のスタートは食物からの栄養摂取である。食物には健康に欠かすことのできない〈栄養素〉を含むものと健康を害する因子を含む食物とがあることを理解する。

第 5 回 〈運動と健康〉

運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立生活を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。

第 6 回 〈心のケアと健康〉

ストレスが、恒常性維持システムのバランスに悪影響を及ぼし、健康を害するメカニズムを理解し、ストレスを解消するための心のケアが健康維持にいかに重要であるかを理解する。

第 7 回 喫煙による健康障害

たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの〈喫煙と健康障害〉のメカニズムについて理解する。〈受動喫煙の影響〉についても考える。

第 8 回 生活環境と健康

放射能、排気ガス、温室効果ガス等の〈生活環境と健康〉についても考える。

第 9 回 21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21）

2000 年より、健康寿命の延伸を目指す健康づくり運動がスタートした。①食物・栄養、②運動及び③心の安静を〈健康維持の 3 本柱〉とし、これまでの早期発見・早期治療による二次予防及び確実な診断と治療・リハビリによる三次予防に対して、病気の発生そのものを防ぐ一次予防を重視する〈予防医学〉のスタートである。

第10回 特定健康診断の重要性及びメタボリックシンドローム

	<p>特定健康診断の結果の値を、発病予防のための健康管理の指標とできることを理解する。さらに、＜定期健康診断＞によって、疾患の早期発見あるいは疾患前状態を発見することで、二次予防にも繋がることを理解する。また、＜内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）＞の怖さを理解し、その予防法について考える。</p>
第11回	<p>生活習慣病の危険因子としての糖尿病 ＜糖尿病＞には、I型とII型があり、第12回で学習する冠状動脈や脳動脈における血液循環障害発生の危険因子となるのみならず、微小血管循環障害による腎障害、視力障害及び神経障害という＜三大合併症＞を引き起こす。人工透析が必要となる腎不全及び失明の原因の第1位は糖尿病である。危険因子としての糖尿病とその予防法について理解する。</p>
第12回	<p>生活習慣病（心疾患・脳卒中）と発症を予防する生活習慣 死亡原因の2位及び3位の＜心疾患（狭心症・心筋梗塞症）＞及び＜脳卒中＞は、＜血液循環障害＞による。これらの疾患の本態を知り、生活習慣との関係を理解し、その予防のための生活習慣を考える。</p>
第13回	<p>生活習慣病（がん）と発症を予防するための生活習慣 日本人の死亡原因の1位はがん、2位は心疾患、3位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起因する。ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣＜（がん発症危険因子）＞を知る。また、＜がん予防のための生活習慣＞及び早期発見・早期治療のための＜がん検診＞の重要性について理解する。</p>
第14回	<p>微生物感染症と感染・発症予防 日本人の死亡原因の第4位は肺炎と呼ばれる微生物感染症である。各種保健医療施設においては、入所（入院）者の＜院内感染症＞発症予防は、最重要課題である。輸血などの医療行為が微生物感染症の発生要因＜（医原性感染症）＞となる場合があること、感染症発生の予防法について理解する。</p>
第15回	<p>地域における健康支援チーム構成員とその役割：まとめ これまでは、健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが、地域における集団での支えあいに重点を置くとされた。地域における健康支援には、本人、家族を中心に、医療専門職者、診療情報管理士、管理栄養士、福祉専門職者、その他多数の職種者からなる＜健康支援チームによるチーム医療＞が必要である。どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えようとしているのかを理解する。</p>

評価方法

授業参加度（予習してきたの発表、質問、質問に対する回答等）：30点、レポート：30点、期末試験：40点

使用教材

テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。

授業外学習の内容

- ・講義は、できるだけ質疑・応答を中心として進めていくのでシラバスの中に示したキーワードについての予習をしてくること。
- ・グループに分け、各グループごとに課題を与え、発表してもらうので、全員で協力してまとめること。

備考

講義は、できるだけ質疑・応答を中心として進めていくのでシラバスの中に示したキーワードについての予習をしてくること。グループに分け、各グループごとに課題を与え、発表してもらうので、全員で協力してまとめること。

生涯学習概論（教養基礎）

担当者

森部 英生

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位
健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

教育水準の高度化や人々の意識、生活形態の急激な変化にともない、「生涯学習」が進展・定着する中で、「生涯学習」「生涯学習社会」とは何かを踏まえ、公民館・図書館・博物館をはじめとする社会教育施設社会における様々な学びの場での人々の学習について、学生グループの報告を交えてその理論・実際を学ぶ。

到達目標

生涯学習の意義、「生涯学習社会」の意義、社会教育と生涯学習の関係、公民館・図書館・博物館・美術館・青年の家の意味と実際、等のテーマを取り上げ、公教育における生涯学習の意義とその実際の活動について、学生の理解を深めるとともに、生涯学習の実践力を身につけることをめざす。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 「生涯教育」と「生涯学習」
- 第 3 回 「生涯学習社会」とは何か
- 第 4 回 「学習権」とは何か
- 第 5 回 社会教育と生涯学習 第 1 回小テスト予定
- 第 6 回 公民館とはどんな所か（学生グループ報告予定）
- 第 7 回 公民館をめぐる事件
- 第 8 回 図書館とはどんな所か（学生グループ報告予定）
- 第 9 回 図書館をめぐる事件
- 第 10 回 博物館とはどんな所か（学生グループ報告予定） 第 2 回小テスト予定
- 第 11 回 博物館をめぐる事件
- 第 12 回 美術館とはどんな所か（学生グループ報告予定）
- 第 13 回 美術館をめぐる事件
- 第 14 回 青年の家とはどんな所か（学生グループ報告予定）
- 第 15 回 青年の家をめぐる事件 第 3 回小テスト予定

評価方法

期間中行う 3 回の小テストに約 70%、授業に対する貢献度に約 30%を配分して総合評価する。

使用教材

自作のプリント。

授業外学習の内容

授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。また、5 回目ごとの小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。報告に当たった学生は、該当テーマについて十分な準備をしておくこと。

備考

人間が人間らしく生きる上で、いつでも・どこでも自由に学ぶことは不可欠です。生涯学習はこうした理念に

立つものです。これまで自分が行ったことのある博物館・動物園等の施設を思い返し、また、関係する文献・TV 番組・新聞記事等にも目を配って、その意義を確認してほしいと思います。

生命と環境の科学（教養基礎）

担当者

奥 浩之

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・今後の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造を学習するので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい。

到達目標

本講義を受講することにより、各自が生命や環境に関する事項についてニュースなどを鵜呑みにするのではなく、様々な文献や資料を参照することで自律的に理解・判断できるようになり、レポートなどの形式でまとめられるようになることを学習目標とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 生命と環境－地球における元素の循環
- 第 2 回 生命と環境－化学進化と生命における元素の役割
- 第 3 回 生命を構成する分子の構造－タンパク質、核酸、脂質など
- 第 4 回 生命を構成する分子の構造－タンパク質と核酸の分子グラフィックス
- 第 5 回 生命を構成する分子－タンパク質と核酸の結晶構造解析
- 第 6 回 生命を構成する分子－化学進化、金属タンパク質、ヘモグロビン
- 第 7 回 金属イオンとタンパク質－様々な酵素の活性中心構造
- 第 8 回 金属イオンとタンパク質－加水分解酵素の反応機構
- 第 9 回 バイオマスのエネルギー化－バイオエタノール
- 第10回 バイオマスの資源化－プラスチック：繊維
- 第11回 地球環境と資源－シェールガス、バイオディーゼル
- 第12回 地球環境と健康－グローバル化、インフルエンザ、新興再興感染症
- 第13回 地球環境と健康－さまざまな感染症の予防ワクチン
- 第14回 地球環境と健康－ワクチン成分と研究開発
- 第15回 まとめ

評価方法

レポート課題 50%、授業参加度 50%

使用教材

使用しない（講義にて用いるスライドを配布予定）

授業外学習の内容

備考

2 回に一度、講義に関連した自主学習としてレポート作成を課題とする予定。

国際関係論（教養基礎）

担当者

片桐 庸夫

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 選択 2 単位
健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

皆さんが生活する今日の世界とはどんなものかを理解することを目的としている。まず今日の世界の基本となっている戦後の冷戦について理解する。次に冷戦の何が変わって今日の世界が出来ているか理解する。それを通じ国際テロ、民族紛争、領土紛争、宗教対立といった現代世界の特徴と戦後日本の外交や国際貢献をめぐる課題について学ぶ。

到達目標

今日の世界情勢と日本外交や国際貢献問題について基本的に理解し、テレビや新聞のホットな話題やニュースを理解出来るようにすること。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 授業の展開の方法、出席の取り方、試験の方法、成績評価の方法等についてのガイダンスを行う。
- 第 2 回 「冷戦の特異性」の意味、大規模な戦争後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立について理解する。
- 第 3 回 「呉越同舟」の例えの典型的事例である戦勝同盟国間の対立の例としてのウイーン会議について理解する。
- 第 4 回 国際コミュニケーションにとって大切な言語、宗教、文化、国家体制といった共通の価値観の意味について理解する。
- 第 5 回 米ソ間の価値観の欠如、イデオロギー対立、体制間対立について理解する。
- 第 6 回 米ソ両国間の安全保障観の相違と戦争の性格の変化について理解する。
- 第 7 回 冷戦の定義、核の下での平和、冷戦後の現代世界の特徴について理解する。
- 第 8 回 終戦とアメリカの初期対日占領政策の特徴、日本の改革について理解する。
- 第 9 回 冷戦のアジアへの波及にともなうアメリカの対日占領政策の修正、日本国憲法、天皇制存置、象徴天皇制の関連性について理解する。
- 第 10 回 ジョージ・ケナンの Five Power Centers 構想、日本の再軍備について学ぶ。
- 第 11 回 サンフランシスコ講和条約による日本の独立回復、同条約の問題点、日米安保条約の問題点、不公平性などについて理解する。
- 第 12 回 戦後日本外交の課題である『戦後』の克服』の意味、日ソ国交正常化、国連加盟、未解決の北方領土問題について理解する。
- 第 13 回 日米安保改定による日米パートナーシップ関係の意味、日本の経済大国化について理解する。
- 第 14 回 沖縄返還、日中国交正常化、それらにともなう『戦後』の克服』について理解する。
- 第 15 回 中国の台頭と日本外交のゆくえ及び国際貢献の在り方について考える。

評価方法

小テスト結果と授業態度等を総合的に評価する。

使用教材

テキストを用いず、授業中にプリントを配布する。

授業外学習の内容

中国の軍事力増強や南シナ海制海権確立の動き、中国やロシアとの領土問題、沖縄基地移転の問題等についての

新聞やテレビのニュース、ドキュメント番組等を見て、日頃から国際問題や日本の課題等についての関心を育んでいて欲しい。

備考

体育理論（教養基礎）

担当者

大家 千枝子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 1 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 1 単位
健康栄養学科 1 年前期 必修 1 単位

講義目標

現代社会における運動・スポーツの意義を理解し、生涯にわたり健康づくり・体力づくりを実践するために必要な基礎知識を学ぶ。自らの健康・体力や生活を見つめるとともに、健康づくり・体力づくりに適した身体活動について、その効果や実践方法を知り、実際の生活に活用する能力を養う。

到達目標

- 1 自らの健康・体力を評価し、健康であることの大切さを理解することができる。
- 2 適切な運動プログラムを作成することができる。
- 3 ヒトの基本動作を理解し、自身の動きを評価することができる。
- 4 運動中に起こりうる事故を理解し、事故が起こらないように注意することができる。
- 5 現代社会における体育・スポーツの意義について理解することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 健康とは
- 第 2 回 体力を知る (1) 体力テスト
- 第 3 回 体力を知る (2) 体力テスト (続き)
- 第 4 回 体力とは、体力テストの評価
- 第 5 回 我が国における健康づくり施策 (1)
- 第 6 回 我が国における健康づくり施策 (2)
- 第 7 回 健康づくり運動 (1) 有酸素運動
- 第 8 回 健康づくり運動 (2) 筋力トレーニング
- 第 9 回 健康づくり運動 (3) ストレッチングほか
- 第10回 運動と栄養
- 第11回 運動とこころの健康
- 第12回 スポーツとは何か
- 第13回 スポーツと文化
- 第14回 体育・スポーツの歴史
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への参加度 30%、各授業時における提出物など 35%、最終課題 35%

使用教材

特別なテキストはなく、必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

必要に応じて授業終了時に配布する課題についてレポートを作成すること。

備考

初回のガイダンスで、具体的に受講中の態度、遅刻、途中退出の扱いなどを明確に示す。

体育実技（教養基礎）

担当者

大家 千枝子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 1 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 1 単位
健康栄養学科 1 年後期 必修 1 単位

講義目標

体を動かす具体的な体験をとおして理論と実践とを結びつける。

到達目標

- 1 知識・理解の観点：各スポーツ種目の歴史、ルール、マナーを理解する。
- 2 思考・判断の観点：安全に効率よく練習およびゲーム運営を思考・判断できる。
- 3 関心・意欲の観点：種目特性によって異なる身体感覚について関心をもつ。
- 4 態度の観点：積極的に取り組む。また、施設、器具を大切に扱う。
- 5 技能・表現の観点：基本スキルの獲得。相手の力量にあわせ、楽しみながらゲームができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス（体育館）
- 第 2 回 ストレッチとレジスタンストレーニング（体育館）
- 第 3 回 バレーボール（体育館）
- 第 4 回 バレーボール（体育館）
- 第 5 回 テニス（テニスコート）
- 第 6 回 テニス（テニスコート）
- 第 7 回 テニス（テニスコート）
- 第 8 回 フットサル（フットサルコート）
- 第 9 回 フットサル（フットサルコート）
- 第10回 フットサル（フットサルコート）
- 第11回 バスケットボール（体育館）
- 第12回 バスケットボール（体育館）
- 第13回 バドミントン（体育館）
- 第14回 バドミントン（体育館）
- 第15回 バドミントン（体育館）

評価方法

授業態度・授業への参加度 60%、レポート課題 30%、授業記録の管理 10%

使用教材

自作プリントを適宜配布する。また参考書を適宜紹介する。

授業外学習の内容

授業外学習のススメ：からだをしっかりと目覚めさせ、着替えや食後の消化にかかる時間などを確保するためにも、余裕をもって朝早く起きる習慣を身につける。また継続して運動を実施できるよう課外時間に大学体育施設（フィットネスルームを含む）を積極的に利用する。時間がとれない場合は、日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動の中で身体活動量を増やす工夫をする。

備考

受講上の注意点：1. トレーニングシャツ、パンツ、シューズ（体育館は室内用、テニスコート・フットサルコートは屋外用）を着用すること（ジーンズや普段着での受講は不可）。2. 原則として見学は認めません。また実技授業をすすめる上で配慮を必要とする学生は初回のガイダンス当日までに担当教員へ申し出ること。3. 貴重品の管理は各自で行うこと。4. 授業で実施するスポーツ種目の器具は大学で用意しますが、テニスやバドミントンのラケットなど個人で所有する器具があれば、積極的に持参してください。5. 天候により施設変更することがあります。教務課掲示板で確認してください

キャリア形成論（教養基礎）

担当者

小泉 英明

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

社会の仕組みはもとより、経済、雇用など私たちを取り巻く環境は目まぐるしく変わり、仕事の質や内容までも大きく変化しています。本講座では、社会（企業・組織）が大学生に求める「能力」について理解を深め、社会で実際に役立つ人材となるよう支援します。さらに、様々な事例紹介によって社会・職場適応力を養い、近い将来、社会人として適切なスタートを切ることができるよう“自身”の強化プラン策定と目標管理を促し、将来のキャリア形成につなげられるよう支援することも目標としています。

到達目標

- ①社会に通用する就業観、勤労観を持つ
- ②自己を正しく理解し、適切なキャリアデザインを描くことができるよう、基礎力と社会適応力を身につける
- ③コミュニケーション能力、論理的思考力、創造的思考力、問題解決能力など、社会から必要とされる力を身につける
- ④効果的な就職活動を遂行できるよう、自己変革のための目標管理を行う

講義内容と講義計画

- 第 1 回 キャリア形成のために必要なこと、私たちを取り諸環境
- 第 2 回 予測困難な時代が到来、社会（企業・職場）が求める人材
- 第 3 回 セルフ・ディベロップメントⅠ（自己の理解）
- 第 4 回 セルフ・ディベロップメントⅡ（未来視点による自己の確立）
- 第 5 回 身につけたいチカラⅠ [コミュニケーション力]
- 第 6 回 身につけたいチカラⅡ [気づく力]
- 第 7 回 身につけたいチカラⅢ [ロジカル・シンキングとクリティカル・シンキング]
- 第 8 回 身につけたいチカラⅣ [クリエイティブ・シンキング]
- 第 9 回 身につけたいチカラⅤ [創造力を伸ばすには]
- 第10回 身につけたいチカラⅥ [問題解決能力]
- 第11回 「就業力」と「仕事力」
- 第12回 社会・企業・職場の人間関係
- 第13回 キャリア・マニフェスト（自分自身の強化に向けて※具体策の立案）
- 第14回 セルフ・ディベロップメントⅢ（将来のキャリア形成に向けて）
- 第15回 ストレスマネジメント、まとめ

評価方法

最終レポート（60%）、各授業時における提出物（30%）、受講態度（10%）

使用教材

適宜プリントを配布する。

授業外学習の内容

授業外学習：配布プリントをもとに、毎回、復習をすること。配布物はしっかりファイルし、毎回持参すること。授業内外の課題は必ず提出すること。※わからないことがあったら積極的に質問してください。

備考

社会の出来事を理解できるよう、新聞等に目を通して受講すること。

哲学（人間理解）

担当者

大石 桂子

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

「他者とどう関わっていけばよいか」「生きることに意味はあるのか」「絶対に正しいことはあるのか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち研究するのが哲学である。本講義では身近な題材をもとに医療・福祉・健康分野に関わるものとして考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの議論や統計なども手引きとして、論理的に考えていくための基礎力を身につける。

到達目標

各トピックの基本的な問題点を理解し、様々に議論されてきた内容について知識を得る。また、現代的な視点から自己の主張を持ち、それを表現する力を養う。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 自分と他者 (1) 「人に認められたい」のは本能？
- 第 3 回 自分と他者 (2) 「本当の自分」はあるのか
- 第 4 回 自分と他者 (3) 人と人の関係性
- 第 5 回 ディスカッション
- 第 6 回 平等と共生 (1) 誰もが信じられる正しさはあるか
- 第 7 回 平等と共生 (2) 環境は人の心にどう影響するのか
- 第 8 回 自由はあるのか——正しい自己決定のために
- 第 9 回 心と身体 (1) 人間である条件とは理性か
- 第10回 心と身体 (2) 心と体の関係性——脳死を考える
- 第11回 エンハンスメント (1) 変化する「病」
- 第12回 エンハンスメント (2) 「弱さ」を否定する社会
- 第13回 「空気」を意識する
- 第14回 責任 (1) 責任の範囲はどこまで？
- 第15回 責任 (2) 「何もしなかった」ことに責任は問われるか

評価方法

定期試験（60%）、ミニ・レポート（40%）に、講義への参加態度を加えて総合的に評価する。

使用教材

講義中にプリントを配布。

授業外学習の内容

復習としてノート・資料を読み直し、ミニ・レポートを作成すること。

備考

本講義では老子規の習得だけでなく、各自が「哲学する」ために、ミニ・レポートを課しているため、主体的に取り組んでほしい。

倫理学（人間理解）

担当者

出雲 春明

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

現代の医療をめぐる問題を取りあげ、それぞれのトピックを通じて、倫理学の諸理論、人々の多様な価値観について学ぶ。

到達目標

医療に関連する論理的諸問題について正確な知識を習得し、自分の考えを表現することができる。また、自分と対立する考えについても理解を深める。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション：生命倫理学について
- 第 2 回 不妊治療（1）人工授精
- 第 3 回 不妊治療（2）体外受精、代理母
- 第 4 回 遺伝子操作（1）ヒトゲノム計画
- 第 5 回 遺伝子操作（2）遺伝子診断技術と優生思想
- 第 6 回 人工妊娠中絶：パーソン論
- 第 7 回 遺伝子操作（3）クローン技術
- 第 8 回 遺伝子操作（4）幹細胞研究と将来世代のための倫理
- 第 9 回 終末期医療（1）告知をめぐる問題
- 第10回 終末期医療（2）インフォームド・コンセント
- 第11回 終末期医療（3）安楽死とホスピスケア
- 第12回 臓器移植（1）生体臓器移植
- 第13回 臓器移植（2）死後移植と臓器移植法改正
- 第14回 エンハラスメント：薬剤の使用をめぐる問題
- 第15回 総括

評価方法

授業への参加とその態度（30%）、小テスト・期末レポート（70%）から評価する。

使用教材

講義中に資料を配布する。

授業外学習の内容

なるべく平易な表現を用いて講義を行う。予習は必ずしも求めないが、配付された資料を読込むなど復習は必ず行うこと。講義中、一つの問題をめぐる様々な、そしてしばしば対立する見解が示される。自分ならどの立場をとるか、対立する相手に対してどのように反論するか、常に考えながら講義に臨んでほしい。

備考

心理学（人間理解）

担当者

角野 善司

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

人間の心理的諸機能に関する理論・研究について学び、支援に必要な基礎的知識の習得を目指す。こころのしくみに関して心理的諸機能を概観し、心の発達や健康について理解したうえで、心理的支援の方法と実際を学ぶ。

到達目標

心理学理論による人の理解とその技法の基礎について説明できる。人の成長・発達と心理との関係について説明できる。日常生活と心の健康との関係について説明できる。心理的支援の方法と実際について説明できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 こころのしくみの理解 (1) : 心理学における主要な理論
- 第 2 回 こころのしくみの理解 (2) : 心と脳/情動・情緒
- 第 3 回 こころのしくみの理解 (3) : 欲求・動機づけと行動
- 第 4 回 こころのしくみの理解 (4) : 感覚・知覚・認知
- 第 5 回 こころのしくみの理解 (5) : 学習・記憶・思考/知能・創造性
- 第 6 回 こころのしくみの理解 (6) : 人格・性格/自己概念・自己実現
- 第 7 回 こころのしくみの理解 (7) : 集団
- 第 8 回 こころのしくみの理解 (8) : 適応/人と環境
- 第 9 回 人の成長・発達と心理: 発達の概念
- 第 10 回 日常生活と心の健康: ストレスとストレッサー
- 第 11 回 心理的支援の方法と実際 (1) : 心理検査の概要
- 第 12 回 心理的支援の方法と実際 (2) : カウンセリングの概念と範囲
- 第 13 回 心理的支援の方法と実際 (3) : カウンセリングとソーシャルワークとの関係
- 第 14 回 心理的支援の方法と実際 (4) : 心理療法の概要と実際
- 第 15 回 まとめ

評価方法

宿題 30% (復習課題 15%、予習課題 15%)、学期末テスト 50%、学期末レポート 20%。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テスト・レポートの得点に関わらず、単位を付与しない。

使用教材

精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー「心理学—心理学理論と心理的支援」へるす出版

授業外学習の内容

毎回、復習課題および予習課題を宿題として課すので、授業外での学習を怠らないこと。宿題の提出は C-learning による。

備考

社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士国家試験受験資格の該当科目
社会福祉学科学生に対する注意：専門導入科目「発達と老化の理解」は、心理学を同時履修中であることを前提に進めていく。また、専門関連科目「カウンセリング論」も、心理学を履修済みであることを前提として授業を進める。

文学と人間（人間理解）

担当者

斎藤 順二

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 選択 2 単位
健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

現代人の基礎教養として、日本の名作文学を朗読 CD とビデオで味わうことで、文章表現による心のコミュニケーションを図ることができる。

到達目標

視聴覚教材を活用して「文学と人間」への洞察を深めることで、歴史の諸相における人間と人間生活の理解に役立てることができる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 坪内逍遙『小説神髓』、二葉亭四迷『浮雲』
- 第 2 回 森鷗外『舞姫』『高瀬舟』
- 第 3 回 幸田露伴『五重塔』、樋口一葉『たけくらべ』
- 第 4 回 尾崎紅葉『金色夜叉』、徳富蘆花『不如帰』
- 第 5 回 泉鏡花『高野聖』、島崎藤村『破戒』
- 第 6 回 夏目漱石『坊っちゃん』『草枕』
- 第 7 回 伊藤左千夫『野菊の墓』、田山花袋『田舎教師』
- 第 8 回 学習の整理と展望（まとめのレポート①）
- 第 9 回 森鷗外『雁』、夏目漱石『こころ』
- 第10回 芥川龍之介『羅生門』『鼻』『杜子春』『地獄変』
- 第11回 有島武郎『或る女』、武者小路実篤『友情』
- 第12回 川端康成『伊豆の踊子』、小林多喜二『蟹工船』
- 第13回 林芙美子『放浪記』、谷崎潤一郎『春琴抄』
- 第14回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』、中島敦『山月記』
- 第15回 学習の整理と展望（まとめのレポート②）

評価方法

まとめのレポート 2 回分を各 50 点で加算し、それに授業参加度を加味して総合評価する。

使用教材

小田切進『日本の名作』（中央公論新社）定価（本体 720 円＋税）

授業外学習の内容

授業では、視聴覚教材を活用して作品の梗概を理解させ、人物相関図の板書とテキストの読解から作品鑑賞を深める。これをきっかけに、さらに各自が興味・関心を抱いて原作を読み、発展させた読書につなげること。

備考

芸術論（人間理解）

担当者

石原 綱成

開講学科と時期・単位

全・学科 1 年後期選択 2 単位

講義目標

芸術とは人間の内面の表出です。すなわち人間の心を映し出す「鏡」といっても良いでしょう。その表出されたもの、すなわち芸術作品がいかなる思想に基づいて現われたかを知ることは、人間性そのものを知ることになります。講義は、西洋近代における芸術概念の成立、そして 20 世紀における芸術概念の変容を見ることを通して、芸術の起源と役割をめぐる問題について考察します。また様々な地域の視覚芸術を比較検討することで、私たち「現代人」の芸術思想を浮き彫りにして見ましょう。

到達目標

芸術概念及び芸術に関連するさまざまな概念の成立・受容・変容という観点から、特に西洋近代以降におけるメディアとしての芸術の歴史を展望することによって、芸術論及び芸術学についての理解を深めることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 芸術の起源①ギリシャ・ローマ
- 第 3 回 芸術と宗教②ヨーロッパ中世とキリスト教
- 第 4 回 芸術論と神々宗教芸術概観
- 第 5 回 キリスト教芸術の特色①旧約聖書と芸術
- 第 6 回 キリスト教芸術の特色②新約聖書と芸術
- 第 7 回 芸術思想をめぐる①ルネサンスの芸術思想
- 第 8 回 芸術思想をめぐる②デューラーの芸術思想
- 第 9 回 カントの芸術思想と感性学『判断力批判』概観
- 第10回 芸術観の変容と近代哲学の関係
- 第11回 仏教芸術をめぐる①仏の世界
- 第12回 仏教芸術をめぐる②極楽と地獄
- 第13回 現代芸術の美学①遠近法への懐疑
- 第14回 現代芸術の美学②中心の喪失
- 第15回 総復習と総括

評価方法

授業の参加状況と授業中のレポート、学期末試験を総合的に判断して評価する。

使用教材

特になし

授業外学習の内容

- ・ 次回の授業のプリントを配布するので、専門用語等事前に予習しておくこと。
- ・ 今までの授業の理解度を確認するために小テストを行うのでよく復習しておくこと。

備考

興味・関心を持って積極的に参加して欲しい。質問は大歓迎

ボランティア・市民活動論（人間理解）

担当者

金井 敏

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 2 単位 選択 2 単位

講義目標

ボランティア・市民活動は、自主的な貢献活動として福祉分野に限らず環境や情報、国際協力まで幅広く取り組まれ、今日の社会に不可欠な存在となっている。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践することができる力を養成する。

到達目標

ボランティア・市民活動の実践例を理解するとともに、ボランティア・市民活動支援センターを活用し活動に参加し、活動ニーズを体得できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ボランティア・市民活動～新しい世界への誘い
- 第 2 回 ボランティアの力を活かす仕組み～ボランティアセンターの役割
- 第 3 回 子どもの明日をサポートする～子ども劇場の取り組み
- 第 4 回 人々はどのようにボランティアに取り組んだか～欧米と日本の歴史
- 第 5 回 ボランティアと NPO～学生でも創れる NPO 法人～
- 第 6 回 障害スポーツ・レクリエーションのすすめ
- 第 7 回 小中高校の福祉教育・ボランティア学習はこれでいいか
- 第 8 回 バリアフリー社会と心のバリアフリー
- 第 9 回 新しい支え合いの必要性～20 年後のあなたとへ
- 第 10 回 動物は人間のパートナー～動物愛護協会の取り組み
- 第 11 回 被災地に届け！災害支援ボランティア活動
- 第 12 回 分かちあう寄付の文化で花咲く貢献社会（共同募金・地域通貨）
- 第 13 回 地域支えあいのボランティア～ふれあい・いきいきサロン～
- 第 14 回 地域支えあいのボランティア～民生委員・児童委員の活躍～
- 第 15 回 ボランティア・市民活動から学べたこと

評価方法

- ・学期末に課すレポートによる評価（60 点相当）
- ・ボランティア実践＝実践から得た成果など学習内容の報告書による評価（25 点相当）
- ・授業のリアクションペーパーによる評価（15 点相当）
- ・授業開講数の 2/3 以上の出席について、評価対象とする。
- ・15 分以上の遅刻は欠席扱いとする。
- ・私語などのため授業を妨げる場合は、退出およびマイナス評価をする場合がある。

使用教材

テキストは使用しない。レジュメ・関係資料は授業にて配布する。

授業外学習の内容

- ・上記のボランティア実践に取り組むこと。
- ・次回のテーマに沿ったボランティア・市民活動について予習しておくこと。

備考

- ・ボランティア・市民活動は、社会に関心をもつ学生が実際の社会と関わりを持つことができるとともに、自分自身の可能性にチャレンジすることができる、とても良い機会です。
- ・ボランティア実践では、社会が求めているニーズに応えることを通じて、人々の問題を把握するとともに、その解決策を考えることもできます。このような体験は、将来の就職活動でも大いに活かすことができます。VSC を活用して参加すること。
- ・考えて行動する学生を目指して、一緒に学びましょう！

人権論（人間理解）

担当者

森部 英生

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

人権ないし基本的人権は、制度的・最終的には、憲法を頂点として構築されている人権法制によって保障される。この授業では、この点に着目し、憲法に定められている諸々の人権条項を概説するほか、国際的な人権文書にも言及し、同時に、単にそれら条文の開設に留まることなく、それら法条に関連する裁判事件を取り上げながら人権感覚を磨くことにする。

到達目標

もっぱら法的な側面から人権を眺めるとともに、日常生活における種々の差別や人権侵害の問題を、実例ないし裁判事例を通して学び、人権感覚を鋭くして、社会における人権尊重とその現実化をめざす。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 基本的人権の沿革
- 第 3 回 明治憲法における人権保障
- 第 4 回 日本国憲法における人権保障
- 第 5 回 人権の主体 第 1 回小テスト
- 第 6 回 幸福追求権
- 第 7 回 法の下での平等
- 第 8 回 請願権と国家賠償法
- 第 9 回 思想及び良心の自由
- 第 10 回 信教の自由 第 2 回小テスト
- 第 11 回 表現の自由
- 第 12 回 学問の自由
- 第 13 回 両性の平等
- 第 14 回 生存権
- 第 15 回 まとめ 第 3 回小テスト

評価方法

3 回の小テストに約 70%、授業に対する貢献度等に約 30%を配分し、これらを総合して評価する

使用教材

自作のプリント

授業外学習の内容

授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。事前にシラバスを見て、次回テーマについて然るべき予習をしておくこと。また、5 回目ごとの小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

この授業は、憲法に定める種々の人権条項を概観するものですが、単に条文を解説するだけでなく、それぞれの条文にまつわる裁判事件（人権裁判）を多く引用していきます。特に保育者・教育者をめざす学生諸君に有

益だろうと考えます。豊かな人権間隔を養うことをめざして授業に臨んで下さい。

人間関係論（人間理解）

担当者

宮内 洋

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

「人間関係論」とはホーソン実験によって得られた発見をもとに、経営組織の諸状況が人間関係によって規定され、その間の因果関係を体系化した理論である。当然のことながら、これらのことを講じるが、本科目においては、人間発達学部が保育者・教育者を養成する場であるということも鑑みて、子ども同士、保育者・教育者と子ども、保育者・教育者と保護者の関係についても焦点を当てる。また、子どもの相互のかかわりと関係作りなどについての理解を深めるなど、人間関係の発達の側面についても講じる。

到達目標

「人間関係論」の基礎的な知識を学ぶとともに、日常生活における人間関係に関する心理学・社会学・教育学の各領域の基礎的な知見を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 「人間関係論」の成立
- 第 3 回 職場と人間関係
- 第 4 回 社会的ジレンマ
- 第 5 回 乳幼児期の人間関係（1）
- 第 6 回 乳幼児期の人間関係（2）
- 第 7 回 乳幼児期の人間関係（3）
- 第 8 回 児童期の人間関係
- 第 9 回 青年期の人間関係
- 第10回 恋愛関係論（1）
- 第11回 恋愛関係論（2）
- 第12回 保育・教育現場の人間関係
- 第13回 差別と偏見
- 第14回 日本社会における人間関係：「空気を読む」ことについて
- 第15回 まとめ

評価方法

全講義終了後に実施される筆記試験と、講義期間中に課せられる課題、講義に臨む態度・参加する姿勢等によって、総合的に判断する。なお、授業を妨害し、他の受講者の学習を妨げる者は受講を認めない。

使用教材

教科書は特に指定しません。必要に応じて、資料を配付します。

授業外学習の内容

授業後に各自で復習をして、授業内容の正しい理解に努めてください。

備考

最初の講義の時間に約束をします。その約束を最終回まで守ってください。本科目では、いくつかの課題に取り組んでいただく予定ですので、授業に対する積極的な態度が望まれます。

ジェンダー論（人間理解）

担当者

前田 由美子

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

性別による社会の制度化を歴史的・文化的・社会的視点からとらえ直し、その制度化のもたらした問題を人権の問題として深く理解する。

到達目標

性別に関して存在する偏った社会の慣習や考え方によって妨げられている能力の発揮や、不自由な人生選択の実態を知り、その克服の方策を考えることで、自らの人生設計と社会創造に役立てることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義全体の説明
- 第 2 回 ジェンダーという概念
- 第 3 回 生き物としての性とその多様性
- 第 4 回 性的指向 セクシュアリティ
- 第 5 回 性役割と性規範
- 第 6 回 性的同一性（ジェンダー・アイデンティティ）
- 第 7 回 性別と経済社会
- 第 8 回 母親と子どもの関係
- 第 9 回 父親と子どもの関係
- 第10回 労働と性別秩序
- 第11回 過労問題 ワーク・ライフ・バランス
- 第12回 男性問題
- 第13回 セクシュアル・ハラスメント
- 第14回 ドメスティック・バイオレンス
- 第15回 まとめ

評価方法

講義日ごとに、ミニレポートを提出。約 25%ずつで 4 日間。

使用教材

プリント、映像資料、文献資料など

授業外学習の内容

配布された授業内容に関連する文献資料などをよく読み、課題にそってまとめること。

備考

共生の倫理（人間理解）

担当者

瓜巢 一美

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

福祉論、国際理解教育などを基礎にして、多民族、多文化共生社会を身近なところから考える。

到達目標

多文的、分断的な社会生活状況の中で、学習を通して、すべての人間が共に生まれ、育ちあい、学びあい、働きあい、暮らしていることの認識を深め、実践する共生を自覚する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 学習（研究）の方針、文献紹介、評価等について
- 第 2 回 共生の倫理 1) 共生の概念 2) 共生と倫理
- 第 3 回 多文化社会と共生の概要
- 第 4 回 外国人と共生の課題（アンケートなどから）
- 第 5 回 地域社会における多文化社会（事例Ⅰ）
- 第 6 回 地域社会における多文化社会（事例Ⅱ）
- 第 7 回 地域社会における多文化社会（事例Ⅲ）
- 第 8 回 教育における多文化共生（義務教育において）
- 第 9 回 教育における多文化共生（大学等において）
- 第10回 障害者との共生の倫理（生まれ・育つ）
- 第11回 障害者との施設生活（共生を考える）
- 第12回 高齢者の施設生活（人間の尊厳として）
- 第13回 共生の倫理（家族・地域・職場）
- 第14回 多民族・多文化等の共生にむけて（行政など）
- 第15回 学習のふりかえりと研究のあり方

評価方法

筆記試験 60%、授業への参加 10%、小レポート 30%（テストの範囲は原則として事前に口頭で伝えたい）

使用教材

参考文献を指示し、小レポートのテーマとすることもある。講義の要点をメモにし、その要点を中心にレポートする。

授業外学習の内容

前回の授業に提起された課題を学習しておくこと。図書館や現地踏査などで学習を深めておく。

備考

チーム医療アプローチ論（人間理解）

担当者

全学科担当教員

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 1 単位

講義目標

福祉・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解する。

到達目標

1. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。
2. 各専門職の役割と活動について理解できる。
3. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回：チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について
第 2 回：チーム医療における看護師・保健師の役割と活動
第 3 回：チーム医療における理学療法士の役割と活動
第 4 回：チーム医療における薬剤師の役割と活動
第 5 回：チーム医療における管理栄養士の役割と活動
第 6 回：チーム医療における社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の役割と活動
第 7 回：チーム医療における保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭の役割と活動
第 8 回：チーム医療における診療情報管理士の役割と活動

評価方法

評価方法：授業参加への積極性（40 点）、レポート（60 点）

- ・ レポート他職種の役割と活動を理解した上で、チーム医療を促進するために自分が目指す専門職としての役割と課題についてまとめる。
- ・ 各学科の単位認定者が各学科の学生のレポートを採点する。

使用教材

授業時に配布する資料

授業外学習の内容

自身が専攻する専門職の役割や活動およびチーム医療について事前に、自己学習を行うこと。

備考

健康・福祉・医療・教育のスペシャリストを目指している学生の皆さんは将来、人々の健康を維持・増進する役割を担います。各専門職が力を存分に発揮して協働して福祉・医療・教育を実践するチーム医療を推進することが求められます。他学科の学生と交流をしながら多職種の活動と役割を学習しましょう。

キーワード：専門職、チーム医療、チームアプローチ

国際医療事情（人間理解）

担当者

クリストファー・ターン、町田修三

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

学生の国際化促進とグローバル人材の養成を目的として設置された科目である。特に本学学生は医療系を専攻する者が多いため、海外の医療に関する様々な事項を経験的に学ぶことに重点を置いている。具体的な内容としては、海外諸国の健康・医療教育、健康・医療の実態、医療制度、病医院や医師・コメディカル等の供給体制、病医院や医療施設の世界比較等について学ぶ。国際化を促進するため、学生には英語で日本の文化や医療の説明をしたり、医療に関する基礎的なディスカッションをしたりすることを取り入れる。また、本講義では、学生が実際に海外に赴き実体験として国際医療事情を見聞することを強く推奨する。

到達目標

- ・ 諸外国の医療教育を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の医療の実態を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の医療制度を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の病医院について学び、日本との違いを説明できる。
- ・ 日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 医療の国際化とは
- 第 3 回 日本の医療教育、医療制度、医療事情
- 第 4 回 日本の医療教育、医療制度、医療事情を英語で説明してみよう
- 第 5 回 先進国（アメリカ、イギリス、ドイツ）の医療教育
- 第 6 回 先進国の医療事情 I
- 第 7 回 先進国の医療事情 II
- 第 8 回 先進国の病院
- 第 9 回 その他の先進国（北欧、カナダ、オーストラリアなど）の医療事情 I
- 第 10 回 その他の先進国の医療事情 II
- 第 11 回 中進国（台湾、シンガポール、中国など）、途上国（ベトナム、インドネシア、タイなど）の医療教育
- 第 12 回 中進国、途上国の医療事情 I
- 第 13 回 中進国、途上国の医療事情 II
- 第 14 回 学生プレゼンテーション
- 第 15 回 学生プレゼンテーションとまとめ

評価方法

最終レポート（50%）、提出物（20%）、発表、討論など授業参加度（30%）。
海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス（30%）、研修レポート（30%）、研修中のパフォーマンス（40%）

使用教材

特に指定はない。各自自分のリサーチ目的に沿った文献、教材を探すこと。

授業外学習の内容

本講義では学生主体の研究と発表やディスカッションを多く取り入れる。毎回十分な準備をしてくること。海外研修に参加する者は、受身ではなく積極的な参加意欲を常に意識すること。

備考

Introduction to Healthcare Sciences (人間理解)

担当者

小澤瀨司、町田修三、クリストファー・ターン、村上孝、今井純、長谷川恵子

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際して特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す。

到達目標

- ・ 医療に関する基礎的な内容に関して、英語での説明を理解できる。
- ・ 理解した内容について、第三者に説明できる。
- ・ 医療に関するトピックに関して、英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる。
- ・ 医療に関するトピックについて、外国の学生と話をすることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction of the course
- 第 2 回 Medical globalization Japan's healthcare system
- 第 3 回 Healthcare system of foreign countries
- 第 4 回 Contemporary Issues on Health in North America Society I
- 第 5 回 Contemporary Issues on Health in North America Society II
- 第 6 回 Using MedlinePlus to obtain medical information in English
- 第 7 回 Heavy-ion cancer therapy-the most advanced medical technology Developed in Japan-
- 第 8 回 Immunity and diseases I
- 第 9 回 Immunity and diseases II
- 第10回 Living environment and skin diseases
- 第11回 Healthcare in foreign countries I
- 第12回 Healthcare in foreign countries II
- 第13回 Mental health
- 第14回 Mental health and social skills
- 第15回 Summary and concluding remarks

評価方法

担当各教員による評価を総合して決定する。各教員は、毎回の授業参加度や講義終了時に課す提出物または小レポートにより、それぞれの持ち点に応じて学生を評価する。

使用教材

担当教員が授業中に配布する。

授業外学習の内容

教材は毎回次週のものをもつて配布するので、理解度を担保するためにも必ず予習しておくこと。分からない単語は調べておくこと。

備考

英語 I A (リテラシー)

担当者

柳澤 順一

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年前期 必修 1 単位

講義目標

厳選された現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。

到達目標

大学生に必要とされる基礎的な英語運用能力のうち、とりわけリーディング・スキル獲得のための講義を行う。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 Chapter 1 The Youngsters Behind YouTube ①
- 第 3 回 Chapter 1 The Youngsters Behind YouTube ②
- 第 4 回 Chapter 2 When to Use Female Nouns ①
- 第 5 回 Chapter 2 When to Use Female Nouns ②
- 第 6 回 Chapter 3 Your Negative Attitude Can Hurt Your Career ①
- 第 7 回 Chapter 3 Your Negative Attitude Can Hurt Your Career ②
- 第 8 回 Review Test
- 第 9 回 Chapter 4 The Colorful World of Synesthesia ①
- 第 10 回 Chapter 4 The Colorful World of Synesthesia ②
- 第 11 回 Chapter 5 What is Creative Thinking? ①
- 第 12 回 Chapter 5 What is Creative Thinking? ②
- 第 13 回 Chapter 6 Listen Up ①
- 第 14 回 Chapter 6 Listen Up ②
- 第 15 回 Review

評価方法

授業参加度 (10%) と小テスト/課題遂行度 (30%)、試験 (60%) から総合的に評価する。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると、試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

Linda Lee and Erilk Gundersen, Select Readings Second Edition: Pre-Intermediate (Oxford University Press, 2011)

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

英語 I B (リテラシー)

担当者

中村 博生

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年前期 必修 1 単位

講義目標

幅広い現代的トピックをあつかった、短めのテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。

到達目標

大学生初～中級レベルのリーディング・スキルと語彙力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 Chapter 1 Olympic Cities ①
- 第 3 回 Chapter 1 Olympic Cities ②
- 第 4 回 Chapter 2 Internet Communities ①
- 第 5 回 Chapter 2 Internet Communities ②
- 第 6 回 Chapter 3 Console Gaming ①
- 第 7 回 Chapter 3 Console Gaming ②
- 第 8 回 Chapter 4 Teleworking ①
- 第 9 回 Chapter 4 Teleworking ②
- 第 10 回 Chapter 5 Graffiti ①
- 第 11 回 Chapter 5 Graffiti ②
- 第 12 回 Chapter 6 E-books ①
- 第 13 回 Chapter 6 E-books ②
- 第 14 回 Chapter 7 Multiculturalism ①
- 第 15 回 Chapter 7 Multiculturalism ②

評価方法

授業参加度 (10%)、小テスト/課題遂行度 (30%)、試験 (60%)。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

Andrew E. Bennett, Reading Pass 1 (南雲堂、2015)

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

英語 I C (リテラシー)

担当者

岡田 和子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年前期 必修 1 単位

講義目標

幅広い現代的トピックをあつかった、短めのテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。

到達目標

大学生初～中級レベルのリーディング・スキルと語彙力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 Chapter 1 Olympic Cities ①
- 第 3 回 Chapter 1 Olympic Cities ②
- 第 4 回 Chapter 2 Internet Communities ①
- 第 5 回 Chapter 2 Internet Communities ②
- 第 6 回 Chapter 3 Console Gaming ①
- 第 7 回 Chapter 3 Console Gaming ②
- 第 8 回 Chapter 4 Teleworking ①
- 第 9 回 Chapter 4 Teleworking ②
- 第 10 回 Chapter 5 Graffiti ①
- 第 11 回 Chapter 5 Graffiti ②
- 第 12 回 Chapter 6 E-books ①
- 第 13 回 Chapter 6 E-books ②
- 第 14 回 Chapter 7 Multiculturalism ①
- 第 15 回 Chapter 7 Multiculturalism ②

評価方法

平常点 (出席状況・授業参加度・課題遂行度) と期末試験の得点を総合的に評価する。授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると、期末試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

Andrew E. Bennett, Reading Pass 1 (南雲堂、2015)

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

英語ⅡA（リテラシー）

担当者

ベアリー・キース

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年後期 必修 1 単位

講義目標

本講義の目的は学生の英語力を総合的に向上させることとともに学生の語彙力を高めることである。また、英語の本（多読教材）を読むことによって異文化理解や学生の教養を涵養する。英語を流暢に読めるように、読む速度を高めることに主眼を置く。具体的に、英語読本の「多読」を始め、語彙学習や速読訓練やリーディング・サークルでそれらについてグループ・ディスカッションし、自らの意見や解釈を発表することが主である。

到達目標

1. 英語を読む速度が早くなる（一分間 250 語を目指す）。
2. グループ・ディスカッションし、自らの意見や解釈を発表することができる。
3. 英単語の語彙力を 200 以上増やすこと。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Reading for Speed & Fluency 1; Vocabulary Test; Oxford Reading Level Test, Moodle Orientation
- 第 2 回 Reading for Speed & Fluency 2; Hand in Vocabulary Test & Oxford Reading Level Test Results
- 第 3 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 3; Book Spot 1
- 第 4 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 4; Reading Circle #1-1
- 第 5 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 5; Reading Circle #1-2
- 第 6 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 6; Book Spot 2
- 第 7 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 7; Reading Circle #2-1
- 第 8 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 8; Reading Circle #2-2
- 第 9 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 9; Book Spot 3
- 第 10 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 10; Reading Circle #3-1
- 第 11 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 11; Reading Circle #3-2; Reading list for Final Test
- 第 12 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 12; Book Spot 4
- 第 13 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 13; Reading Circle #4-1; Sign-up for Final Test
- 第 14 回 Vocabulary Quiz; Reading for Speed & Fluency 14; Reading Circle #4-2; Hand in Oxford Reading Level #2; Confirm Final Test
- 第 15 回 Reading for Speed & Fluency 15; Final Test & Reflection Paper

評価方法

多読プログラム 40%、平常点（単語小テスト、授業活動）30%、期末テスト 20%、リフレクション・ペーパー 10%

使用教材

テキスト：Reading for Speed & Fluency 1, 単語帳, 配布プリント

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

授業外学習の内容：リーディング・サークルの活動で、事前に読んでおいて、自らのディスカッションで発表する内容を責任もって発表すること。それと英語読本を授業時間以外にも読むこと。授業に単語帳や辞書必携。講義の妨害となる私語、お喋り、途中退席、等は厳禁。

英語ⅡB（リテラシー）

担当者

ジム・ヘイ

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年後期 必修 1 単位

講義目標

挨拶、ゲーム、歌、ヒヤリング、文法復習を通して英語を楽しく学ぼう！

到達目標

講義内容と講義計画

第 1 回 Introduction, rules, Greetings review

第 2 回 TV Reporter pair work unit

第 3 回 同上

第 4 回 be 動詞

第 5 回 Greetings unit

第 6 回 同上

第 7 回 He, she, it

第 8 回 過去形

第 9 回 songs, poems

第 10 回 "My Town" listening unit

第 11 回 "ing" form

第 12 回 body parts unit

第 13 回 body parts songs

第 14 回 opposites unit and games

第 15 回 "Words Game" team contest

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト／課題遂行度（30%）、試験（60%）。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

プリント配布

授業外学習の内容

備考

ノートをきちんととること。すべて記録し、聴き、話し、見て、覚えること。

英語ⅡC（リテラシー）

担当者

アンドリュー・カズンズ

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年後期 必修 1 単位

講義目標

This class's goal is to help students to enjoy basic conversational English for travel, work etc. Lessons consist of both written and spoken exercises. I don't generally give the students homework, but I advise them to work though the extra exercises given at the back of the textbook.

到達目標

To acquire basic conversational skills in English.

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction, Unit 1 Please Call Me Beth.
- 第 2 回 Unit 2 What Do you Do?
- 第 3 回 Unit 3 How Much Is It?
- 第 4 回 Unit 4 I Really Like Hip-Hop.
- 第 5 回 Unit 5 I Come from a Big Family.
- 第 6 回 Unit 6 How Often Do You Exercise?
- 第 7 回 Unit 7 We Had a Great Time!
- 第 8 回 Unit 8 What's Your Neighborhood Like?
- 第 9 回 Unit 9 What Does She Look Like?
- 第 10 回 Unit 10 Have You Ever Ridden a Camel?
- 第 11 回 Unit 11 It's a Very Exciting Place!
- 第 12 回 Unit 12 It Really Works!
- 第 13 回 Unit 13 May I Take Your Order?
- 第 14 回 Unit 14 The Biggest and the Best!
- 第 15 回 Unit 15 I'm Going to a Soccer Match.

評価方法

Assessment will be via a written 60 minute exam on the 15th lesson, which is based on material students will have studied in units 1-12 of the text book.

使用教材

Jack C. Richard, Interchange 4th Edition Level 1, Cambridge UP.

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

英語ⅢA（リテラシー）

担当者

真下 裕子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年前期 必修 1 単位

講義目標

今や事実上の国際標準語とも言える英語は、多くの人々の母語というだけでなく、英語圏以外の人々とのコミュニケーションの手段として、またインターネット上の共通言語としても必須である。こうした現状を踏まえ、本講義では、異文化理解にも役立つビデオ教材を用いて、学生の英語力（「読む」・「聞く」・「話す」能力）を総合的に向上させることを目的とする。

到達目標

英語による日常的コミュニケーション能力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 Chapter 1 : Where Do I Get the Bus?
- 第 3 回 Chapter 2 : Do You Have a Reservation, Ma' am?
- 第 4 回 Chapter 3 : Could You Repeat That?
- 第 5 回 Chapter 4 : I' ll Take the Wrangler Convertible
- 第 6 回 Review (1)
- 第 7 回 Chapter 5 : Would You Like Soup or Salad?
- 第 8 回 Chapter 6 : Where' s the Fitting Room?
- 第 9 回 Chapter 7 : Would You Mind Taking My Picture?
- 第 10 回 Review (2)
- 第 11 回 Chapter 8 : Good to See You!
- 第 12 回 Chapter 9 : I Enjoyed My Stay
- 第 13 回 Chapter 10 : Aisle Seat, Please
- 第 14 回 Review (3)
- 第 15 回 Review (4)

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト／課題遂行度（30%）、試験（60%）。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

大八木廣人・Timothy Kiggell, Viva! San Francisco: Video Approach to Survival English（マクミランランゲージハウス, 1998）

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

英語ⅢB（リテラシー）

担当者

高橋 栄作

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年前期 必修 1 単位

講義目標

本講義では、食事と食文化関連のテキストを読むことで、「現代の食をめぐる話題」と「英米の伝統的な食文化」に関する情報を英語で得る訓練を行う。また、テキスト中の英語表現や文法事項を習得することで、英文読解力と同時に、英語表現力の向上も目指す。

到達目標

栄養に関する初級レベルのリーディング・スキルを獲得する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 Unit 1 Counting Calories (1)
- 第 3 回 Unit 1 Counting Calories (2)
- 第 4 回 Unit 2 A New Sports Tradition (1)
- 第 5 回 Unit 2 A New Sports Tradition (2)
- 第 6 回 Unit 3 As American as Apple Pie (1)
- 第 7 回 Unit 3 As American as Apple Pie (2)
- 第 8 回 Review (1)
- 第 9 回 Unit 4 Use as Directed Drug Development and Approval (1)
- 第 10 回 Unit 4 Use as Directed Drug Development and Approval (2)
- 第 11 回 Unit 5 The End of Home Cooking (1)
- 第 12 回 Unit 5 The End of Home Cooking (2)
- 第 13 回 Unit 6 Just Follow the Recipe (1)
- 第 14 回 Unit 6 Just Follow the Recipe (2)
- 第 15 回 Review (2)

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト／課題遂行度（30%）、試験（60%）。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

須永紫乃生他『Food for Thought : Eating for Health and Happiness』（南雲堂、2010）

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

英語ⅢC（リテラシー）

担当者

アンドリュー・カズンズ

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年前期 必修 1 単位

講義目標

This class's goal is to help students to enjoy basic conversational English for travel, work etc. Lessons consist of both written and spoken exercises. I don't generally give the students homework, but I advise them to work though the extra exercises given at the back of the textbook

到達目標

To acquire basic conversational skills in English.

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction, Unit 1 Please Call Me Beth.
- 第 2 回 Unit 2 What Do you Do?
- 第 3 回 Unit 3 How Much Is It?
- 第 4 回 Unit 4 I Really Like Hip-Hop.
- 第 5 回 Unit 5 I Come from a Big Family.
- 第 6 回 Unit 6 How Often Do You Exercise?
- 第 7 回 Unit 7 We Had a Great Time!
- 第 8 回 Unit 8 What's Your Neighborhood Like?
- 第 9 回 Unit 9 What Does She Look Like?
- 第 10 回 Unit 10 Have You Ever Ridden a Camel?
- 第 11 回 Unit 11 It's a Very Exciting Place!
- 第 12 回 Unit 12 It Really Works!
- 第 13 回 Unit 13 May I Take Your Order?
- 第 14 回 Unit 14 The Biggest and the Best!
- 第 15 回 Unit 15 I'm Going to a Soccer Match.

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト／課題遂行度（30%）、試験（60%）

尚、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

Assessment will be via a written 60 minute exam on the 15th lesson, which is based on material students will have studied in units 1-12 of the text book.

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

英語ⅣA（リテラシー）

担当者

岡田 和子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年後期 必修 1 単位

講義目標

本講義では、食事と食文化関連のテキストを読むことで、「現代の食をめぐる話題」と「英米の伝統的な食文化」に関する情報を英語で得る訓練を行う。また、テキスト中の英語表現や文法事項を習得することで、英文読解力と同時に、英語表現力の向上も目指す。

到達目標

栄養に関する初級レベルのリーディング・スキルを獲得する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 Unit 1 Counting Calories (1)
- 第 3 回 Unit 1 Counting Calories (2)
- 第 4 回 Unit 2 A New Sports Tradition (1)
- 第 5 回 Unit 2 A New Sports Tradition (2)
- 第 6 回 Unit 3 As American as Apple Pie (1)
- 第 7 回 Unit 3 As American as Apple Pie (2)
- 第 8 回 Review (1)
- 第 9 回 Unit 4 Use as Directed Drug Development and Approval (1)
- 第 10 回 Unit 4 Use as Directed Drug Development and Approval (2)
- 第 11 回 Unit 5 The End of Home Cooking (1)
- 第 12 回 Unit 5 The End of Home Cooking (2)
- 第 13 回 Unit 6 Just Follow the Recipe (1)
- 第 14 回 Unit 6 Just Follow the Recipe (2)
- 第 15 回 Review (2)

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト／課題遂行度（30%）、試験（60%）。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

須永紫乃生他『Food for Thought : Eating for Health and Happiness』（南雲堂、2010）

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

英語IVB（リテラシー）

担当者

飛田 ルミ

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年後期 必修 1 単位

講義目標

英語Ⅲに引き続き、本講義では、食事と食文化関連のテキストを読むことで、「現代の食をめぐる話題」と「英米の伝統的な食文化」に関する情報を英語で得る訓練を行う。また、テキスト中の英語表現や文法事項を習得することで、英文読解力と同時に、英語表現力の向上も目指す。

到達目標

栄養に関する初級レベルのリーディング・スキルを獲得する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 Unit 7 Supplemental Health (1)
- 第 3 回 Unit 7 Supplemental Health (2)
- 第 4 回 Unit 8 Time for Tea (1)
- 第 5 回 Unit 8 Time for Tea (2)
- 第 6 回 Unit 9 Fresh from the Garden (1)
- 第 7 回 Unit 9 Fresh from the Garden (2)
- 第 8 回 Review (1)
- 第 9 回 Unit 10 Local Delicacies (1)
- 第 10 回 Unit 10 Local Delicacies (2)
- 第 11 回 Unit 11 Trick or Treat! (1)
- 第 12 回 Unit 11 Trick or Treat! (2)
- 第 13 回 Unit 12 Giving Thanks (1)
- 第 14 回 Unit 12 Giving Thanks (2)
- 第 15 回 Review (2)

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト／課題遂行度（30%）、試験（60%）。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

須永紫乃生他『Food for Thought : Eating for Health and Happiness』（南雲堂、2010）

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

英語IVC（リテラシー）

担当者

高橋 栄作

開講学科と時期・単位

健康栄養学科C 2年後期 必修1単位

講義目標

本講義では、食事と食文化関連のテキストを読むことで、「現代の食をめぐる話題」と「英米の伝統的な食文化」に関する情報を英語で得る訓練を行う。また、テキスト中の英語表現や文法事項を習得することで、英文読解力と同時に、英語表現力の向上も目指す。

到達目標

栄養に関する初級レベルのリーディング・スキルを獲得する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 Unit 1 Counting Calories (1)
- 第 3 回 Unit 1 Counting Calories (2)
- 第 4 回 Unit 2 A New Sports Tradition (1)
- 第 5 回 Unit 2 A New Sports Tradition (2)
- 第 6 回 Unit 3 As American as Apple Pie (1)
- 第 7 回 Unit 3 As American as Apple Pie (2)
- 第 8 回 Review (1)
- 第 9 回 Unit 4 Use as Directed Drug Development and Approval (1)
- 第10回 Unit 4 Use as Directed Drug Development and Approval (2)
- 第11回 Unit 5 The End of Home Cooking (1)
- 第12回 Unit 5 The End of Home Cooking (2)
- 第13回 Unit 6 Just Follow the Recipe (1)
- 第14回 Unit 6 Just Follow the Recipe (2)
- 第15回 Review (2)

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト／課題遂行度（30%）、試験（60%）。なお、授業回数の3分の1以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

須永紫乃生他『Food for Thought : Eating for Health and Happiness』（南雲堂、2010）

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

Integrated English I (リテラシー)

担当者

クリストファー・ターン

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 1 単位

講義目標

本講義では、海外英語研修参加希望者を対象に、海外での生活における様々な場面を想定した英会話練習を行う。また、海外英語研修の事前準備についての説明も行う。但し、海外英語研修参加希望者以外も履修可。

到達目標

英語による日常会話レベルのコミュニケーション能力を獲得する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 海外英語研修説明会 (1)
- 第 2 回 空港で : Can I have your passport, please?
- 第 3 回 両替所で : Can I change some money here?
- 第 4 回 道を尋ねる : Go straight along Seventh Avenue?
- 第 5 回 週末の予定を立てる : Are you free this weekend?
- 第 6 回 レストランで注文する : Are you ready to order?
- 第 7 回 海外英語研修説明会 (2)
- 第 8 回 家族の紹介 : My father works in a bank.
- 第 9 回 相手の趣味を尋ねる : What's your favorite food?
- 第 10 回 お店での支払い : How would you like to pay?
- 第 11 回 郵便局で : Can I send this airmail?
- 第 12 回 海外英語研修説明会 (3)
- 第 13 回 チケット売り場で : What time does the show start?
- 第 14 回 紛失物を探す : Where did you lose it?
- 第 15 回 別れの挨拶 : Goodbye and thanks!

評価方法

授業参加度 (10%)、小テスト/課題遂行度 (30%)、試験 (60%)

なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

開講時に指示する。

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

Integrated English II (リテラシー)

担当者

真下 裕子

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 1 単位

講義目標

実践問題演習を通して、TOEIC テストの全貌と特徴、傾向と対策をおさえるとともに、スコアアップのための受験のストラテジーも習得する。

到達目標

TOEIC テストの攻略法を理解し、実践できる。

講義内容と講義計画

第 1 回 Introduction (TOEIC テストの概略説明と学習法)

第 2 回 Part 1

第 3 回 Part 2

第 4 回 Part 3

第 5 回 Part 4

第 6 回 Part 5

第 7 回 Part 6

第 8 回 Part 7

第 9 回 Part 1, 2

第10回 Part 3, 4

第11回 Part 5, 6

第12回 Part 7

第13回 模擬テスト (リスニング)

第14回 模擬テスト (リーディング)

第15回 模擬テスト解答と解説

評価方法

平常点 (授業参加度・課題遂行度) 40%と、期末試験の得点 60%を総合的に評価する。全授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると、期末試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

開講時に指示する。

授業外学習の内容

授業で学んだことの復習を徹底すること

備考

授業には英語辞典とノートを持参すること (電子辞書可)

ドイツ語（リテラシー）

担当者

出雲 春明

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

初習者がドイツ語に親しみ、講義終了後も学習を持続していくための足がかりを築く。

到達目標

ドイツ語を正確に発音し、聞き取ることができる。また、初級文法を用いて基本的な会話を行い、読み書きすることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーションー日常のなかのドイツ語と、ドイツ語のアルファベットー
- 第 2 回 Lektion1 ドイツ語の発音
- 第 3 回 ドイツ語の発音についての補足 (1)
- 第 4 回 ドイツ語の発音についての補足 (2)
- 第 5 回 Lektion2 一般動詞の人称変化 (1)
- 第 6 回 Lektion2 一般動詞の人称変化 (2)
- 第 7 回 Lektion3 sein と haben (ドイツ語の be 動詞と have) (1)
- 第 8 回 Lektion3 sein と haben (ドイツ語の be 動詞と have) (2)
- 第 9 回 Lektion4 ドイツ語の名詞には性別がある (1)
- 第10回 Lektion4 ドイツ語の名詞には性別がある (2)
- 第11回 Lektion5 助動詞を用いて表現の幅を広げる (1)
- 第12回 Lektion5 助動詞を用いて表現の幅を広げる (2)
- 第13回 夏の旅行会話
- 第14回 Lektion6 名詞の格変化 (1)
- 第15回 Lektion6 名詞の格変化 (2)

評価方法

授業への参加とその態度 (30%)、小テスト・期末テスト (70%) で評価する。

使用教材

羽根田知子・熊谷知実『ネコと学ぶドイツ語』、三修社。¥2,400

授業外学習の内容

予習は諸君の自主性に任せる。ただし、復習は必ず行うこと。

備考

特になし。

フランス語（リテラシー）

担当者

カディオンボ・アナスタシア

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

フランス語にふれる

到達目標

文法が理解できて発音できるまで

講義内容と講義計画

- 第 1 回 フランス語のアルファベット 発音及び読み方
- 第 2 回 読み方の練習と名詞の性
- 第 3 回 読み方の練習と冠詞と形容詞
- 第 4 回 読み方の練習と複数形と現在形
- 第 5 回 動詞 *etre*、*evoir* 否定形 文章の作り方
- 第 6 回 第 1 回～第 5 回の総まとめ 動詞 *aller*、*faire*
- 第 7 回 読み方の練習と複合過去
- 第 8 回 読み方の練習と複合過去の否定
- 第 9 回 質問の作り方
- 第 10 回 読み方の練習と前置詞
- 第 11 回 第 1 回～第 10 回の総まとめ
- 第 12 回 読み方の練習と半過去
- 第 13 回 読み方の練習と未来形
- 第 14 回 読み方の練習と聞くことの練習
- 第 15 回 フリートーク、質問

評価方法

筆記試験

使用教材

ゼロから始める書き込み式フランス語 BOOK 成美堂出版

授業外学習の内容

テキストに沿って予習復習をすること

備考

ポルトガル語（リテラシー）

担当者

伊勢島セリア明美

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

ポルトガル語の基礎文法を習得すると共にブラジル文化を学ぶことを目標とします。

到達目標

初歩の会話ができるようになることを到達目標とします。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ALFABETO E PRONÚNCIA（アルファベット、アクセント記号、挨拶）
第 2 回 UM CAFÉ（名詞の性、名刺の数、冠詞、数字（0～30）、会話①）
第 3 回 SOU BRASILEIRO, SOU DE SÃO PAULO（主格人称代名詞、ser 動詞、疑問文と否定文、会話②）
第 4 回 A SUA MOCHILA É BONITA!（形容詞、所有形容詞、指示代名詞、指示形容詞、会話③）
第 5 回 VOCÊ FALA PORTUGUÊS MUITO BEM!（規則活用動詞、前置詞、前置詞と定冠詞の縮合形、会話④）
第 6 回 O QUE VOCÊ VAI FAZER AMANHÃ À NOITE?（ir 動詞、ter 動詞、fazer 動詞、疑問詞、会話⑤）
第 7 回 POSSO FALAR COM VOCÊ AGORA?（poder 動詞、querer 動詞、月日、曜日の表現、数字（31～100）、会話⑥）
第 8 回 ESTOU COM DOR DE CABECA（estar 動詞、現在分詞と現在進行形、会話⑦）
第 9 回 VOCÊ AINDA TEM TIDO CONTATO COM A CRISTINA?（完全過去、時間表現、前置詞と指示詞の縮合形、会話⑧）
第10回 EU ME DIVERTI MUITO NO CHURRASCO（再起動詞、完全過去不規則活用動詞、会話⑨）
第11回 ERA UMA MENININHA MUITO QUIETA（不完全過去、saber 動詞、conhecer 動詞、conseguir 動詞、会話⑩）
第12回 VOCÊ AINDA TEM TIDO CONTATO COM A CRISTINA?（目的格人称代名詞、過去憤死、現在完了、会話⑪）
第13回 EU FALO PORTUGUÊS MELHOR DO QUE ANTES（比較表現、数字（101～1000）、会話⑫）
第14回 文法補足（直説法未来、接続法現在）
第15回 まとめ

評価方法

ミニ会話の発表（50%）、小テスト（50%）

使用教材

ブラジル・ポルトガル語を話そう！ 重松由美著（株）朝日出版社¥2,300+税
毎回テキストに沿って授業を進めていきます。

授業外学習の内容

1 授業 1 レッソンのペースで進めるため、予習と復習が望ましいです。

備考

“頭”と“心”の柔軟性をもって学習に挑んで頂ければと思います。

中国語（リテラシー）

担当者

渡邊 賢

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な構文を身に付ける。同時に中国文化の全般に関する興味を喚起したい。

到達目標

15 回という限られた時間で最も基礎的かつ不可欠な事項を習得し、その後、継続して自力学習が可能な能力を育成することを旨とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス：授業の展開の仕方、中国およびその言語に関する概略的な説。
- 第 2 回 発音の基礎Ⅰ：ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。
- 第 3 回 発音の基礎Ⅱ：複合母音、「声（子音）」の唇音・舌尖音・舌根音などを学習する。
- 第 4 回 発音の基礎Ⅲ：鼻母音、「声（子音）」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。
- 第 5 回 発音の基礎Ⅳ：「軽声」および四声の組み合わせの学習。発音の基礎の総復習。
- 第 6 回 教科書基本編レッスン 1・レッスン 2：簡単なあいさつの学習。
- 第 7 回 教科書基本編レッスン 3・レッスン 4：名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習
- 第 8 回 教科書基本編レッスン 5・レッスン 6：指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習
- 第 9 回 教科書基本編レッスン 7・レッスン 8：中国語の主述構造（主謂構造）などについての学習。
- 第 10 回 教科書基本編レッスン 9・レッスン 10：疑問代詞、数詞などの学習。
- 第 11 回 教科書基本編レッスン 11・レッスン 12：数量や時刻を尋ねる疑問代詞などについての学習。
- 第 12 回 発音と語法の総復習Ⅰ
- 第 13 回 発音と語法の総復習Ⅱ
- 第 14 回 発音と語法の総復習Ⅲ
- 第 15 回 まとめ

評価方法

評価は、授業時毎回の小試験を 50%、学期末筆記試験の成績を 50%とする。

使用教材

小幡敏行「大学一年生のための合格中国語」朝日出版社

授業外学習の内容

机に向かって学習するには及ばない。通学時などわずかな余暇を利用して、10 分程度で構わぬので、必ず毎日、口や下を動かして毎回の授業の内容を消化することが望ましい。また習慣的学習を身に着けたい。

備考

中国語の一語は、日本語の子音にあたる「声」と母音にあたる「韻」と、および高低のトーンである「調」とから構成され、この三者が正確に発音されなければ、相手に伝わる「コトバ」にはなり得ない。したがって授業は、最も基礎的な構文の徹底した反復学習によって中国語の発音ができる口を作ることに力点を置いて展開する。外国語の発音の習得は、困難なことでは決してないが、習慣的な学習の蓄積と、ある程度の忍耐が肝要である。履修者にはこの点を心得てほしい。

ハンゲル語（リテラシー）

担当者

河 正一

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

韓国語で日常の基本的な会話ができるようになることである。取り分け、初級レベルの韓国語運用能力を身につける。

到達目標

正確な発音、正確な文字表記を習得する。基本的な韓国語の 4 技能の「聞く」「話す」「読む」「書く」能力を向上させる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 韓国語について、基本母音
- 第 2 回 基本子音、複合母音
- 第 3 回 パッチム、発音の変化
- 第 4 回 第 1 課、私は浅井ゆかりです。
- 第 5 回 第 2 課、出身はソウルです。
- 第 6 回 第 3 課、図書館ではありません。
- 第 7 回 第 4 課、時間がありますが。
- 第 8 回 第 5 課、インターネットをします。
- 第 9 回 第 6 課、貿易会社で働いています。
- 第 10 回 第 7 課、東大門市場に行きます。
- 第 11 回 第 8 課、しょっちゅうスーパーで買います。
- 第 12 回 第 9 課、それは 1 万ウォンです。
- 第 13 回 第 10 課、今何時ですか。
- 第 14 回 第 11 課、日本語を話されますか。
- 第 15 回 まとめ

評価方法

韓国語ノート 40%、小テスト 30%、期末試験 30%

使用教材

木内明（2004）『基礎から学ぶ韓国語講座初級』国書刊行会、2,205 円

授業外学習の内容

必ず予習・復習を行うこと。授業では、韓国語ノートの作成を義務化している。韓国語ノートは、授業中の板書や授業後の宿題を記入する。履修の人数によるが、概ね隔週で回収して確認する。毎回授業の最初に毎回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。

備考

質問等がある場合は hajeongil007@gmail.com までに連絡すること。メールを送る際は「件名」に「高崎健康福祉大学ハンゲル語：名前」を必ず記入すること。

コンピュータ入門 I (リテラシー)

担当者

中山 和夫

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

本講義では、J 検 情報活用試験の 1 級～3 級レベルの内容の理解を目指す。入門 I では特に、コンピュータの動作の本質、背景を理解するための基盤となる知識を習得する。

到達目標

コンピュータにおける情報表現について説明できる。
問題解決技法について説明できる。
コンピュータの基本構成とその取り扱いについて説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 導入
- 第 2 回 データと情報
- 第 3 回 数値データの表現方法
- 第 4 回 論理データの表現方法
- 第 5 回 情報収集と情報整理、分析
- 第 6 回 コンピュータの特徴と種類
- 第 7 回 コンピュータの仕組みと取り扱い
- 第 8 回 コンピュータの基本構成
- 第 9 回 オペレーティングシステム (1)
- 第 10 回 オペレーティングシステム (2)
- 第 11 回 入力装置
- 第 12 回 出力装置
- 第 13 回 主記憶装置と補助記憶装置
- 第 14 回 ソフトウェアの種類と役割
- 第 15 回 まとめ

評価方法

筆記試験 80%、課題等 20%

使用教材

「改訂版 J 検情報活用 1 級・2 級完全対策公式テキスト」日本能率協会マネジメントセンター

授業外学習の内容

授業内容に係る問題を解き、復習をしておくこと

備考

J 検の資格取得を奨励する。

コンピュータ入門Ⅱ（リテラシー）

担当者

中山 和夫

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

本講義では、J 検情報活用試験の 1 級～3 級レベルの内容の理解を目指す。入門Ⅱでは特に、コンピュータを活用していくために必要となる情報技術に関連した知識を習得する。

到達目標

インターネットの利用や基礎的な仕組みについて説明できる。
情報ネットワーク社会で必要となるモラルやセキュリティについて説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ネットワークの基礎
- 第 2 回 ネットワークの種類
- 第 3 回 ネットワークの構成
- 第 4 回 www の仕組みと利用
- 第 5 回 HTML
- 第 6 回 電子メールの仕組みと利用
- 第 7 回 インターネットを利用したサービス
- 第 8 回 情報ネットワーク社会
- 第 9 回 情報社会とコンピュータ
- 第 10 回 情報社会における課題
- 第 11 回 情報モラル
- 第 12 回 ネットワークセキュリティ
- 第 13 回 情報セキュリティ
- 第 14 回 情報社会をより豊かにするために
- 第 15 回 まとめ

評価方法

筆記試験 80%、課題等 20%

使用教材

「改訂版 J 検 情報活用 1 級・2 級完全対策公式テキスト」日本能率協会マネジメントセンター

授業外学習の内容

授業内容に係る問題を解き、復習をしておくこと

備考

J 検の資格取得を奨励する。

コンピュータ実習 I (リテラシー)

担当者

室賀 進也

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年前期 必修 1 単位

講義目標

情報社会の現在および未来を生きて活躍して行くために必要な情報通信技術 (ICT) の基礎知識・スキルを身につける。

到達目標

①ワープロソフトを使った各種実践的文書の作成を通して、コンピュータやインターネットを駆使し実社会で ICT を積極的に活用できるようになる。②実社会で情報通信技術 (ICT) を積極的に活用応用できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義概要およびコンピュータシステムの使用法について
- 第 2 回 Word による基礎的文書の作成
- 第 3 回 文章の編集・ファイルの保存などの基本機能について
- 第 4 回 文章の中に表を挿入した文書の作成と編集
- 第 5 回 文章の中に図形を挿入した文書の作成と編集
- 第 6 回 文章の中に画像と取り込んだ文書の作成と編集
- 第 7 回 使用教科書の例題・実習問題作成 (1)
- 第 8 回 使用教科書の例題・実習問題作成 (2)
- 第 9 回 各種実践的文書の作成 (1) : 行事案内書
- 第 10 回 各種実践的文書の作成 (2) : 社内報
- 第 11 回 各種実践的文書の作成 (3) : 広告
- 第 12 回 各種実践的文書の作成 (4) : 地図
- 第 13 回 オートシェイプ機能を使ったアート技法 (1) 花鳥画の描画
- 第 14 回 オートシェイプ機能を使ったアート技法 (2) 人物画の描画
- 第 15 回 オートシェイプ機能を使ったアート技法 (3) 風景画の描画

評価方法

授業参加度 20%、課題提出 60%、課題の出来具合 20% で評価する。具体的評価方法は授業で説明・明示する。

使用教材

「30 時間でマスター office2010」(実教出版)
教科書は毎回使用するので、必ず持参すること。

授業外学習の内容

指定した教科書の 3 章を事前に読んでおくこと。演習課題の提出が遅れる場合は、授業時間外にコンピュータ室を積極的に利用すること。自宅のパソコンで仕上げて来ても良い。

備考

学習上の注意：携帯電話、飲食物は禁止。机の上にも置かないこと。

コンピュータ実習Ⅱ（リテラシー）

担当者

室賀 進也

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年後期 選択 1 単位

講義目標

①情報社会の現在および未来を生きて活躍して行くために必要な情報通信技術（ICT）の基礎知識・スキルを身につける。②数学的な論理的思考能力を養う。

到達目標

①今日計算ソフトおよびプレゼンテーションソフトを使いこなすことができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Excel による表計算処理概論
- 第 2 回 表計算処理の基礎演習（1）データ入力等
- 第 3 回 表計算処理の基礎演習（2）各種健全式、各種書式の変更等
- 第 4 回 表計算処理の基礎演習（3）関数（合計、平均、最大、最少等）
- 第 5 回 表計算処理の基礎演習（4）関数（条件判定、順位付け等）
- 第 6 回 各種グラフの作成（1）
- 第 7 回 各種グラフの作成（2）
- 第 8 回 実践的表計算処理（1）：運動記録処理問題
- 第 9 回 実践的表計算処理（2）：生産販売統計処理問題
- 第10回 実践的表計算処理（3）：大学進学率推移問題
- 第11回 実践的表計算処理（4）：成績一覧表処理問題
- 第12回 Power Point によるプレゼンテーション資料作成の基礎
- 第13回 Power Point におけるアニメーションの基礎
- 第14回 Power Point によるプレゼンテーション資料作成（自由テーマ）（1）
- 第15回 Power Point によるプレゼンテーション資料作成（自由テーマ）（2）

評価方法

授業参加度 20%、課題提出 60%、課題の出来具合 20%で評価する。具体的評価方法は授業で説明・明示する。

使用教材

「30 時間でマスター office2010」（実教出版）
教科書は毎回使用するので、必ず持参すること。

授業外学習の内容

指定した教科書の 4 章を事前に読んでおくこと。演習課題の提出が遅れる場合は、授業時間外にコンピュータ室を積極的に利用すること。自宅のパソコンで仕上げて来ても良い。

備考

学習上の注意：携帯電話、飲食物は禁止。机の上にも置かないこと。

世界の社会福祉発達史（専門教養科目）

担当者

戸澤 由美恵

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 選択 2 単位、
健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

人々の生活を守るために存在する社会福祉が、その国の中でどのように発展してきたのか、各国の歴史的経緯を含めて理解する。

到達目標

各国の歴史的経緯をふまえた社会福祉の制度と現状を考えることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 アジアの社会福祉－マレーシア①その国と人々の生活を知ろう
- 第 3 回 マレーシア②福祉の歴史を学ぼう
- 第 4 回 マレーシア③現在の福祉を知ろう
- 第 5 回 西欧の社会福祉－英国①その国と人々の生活を知ろう
- 第 6 回 英国②福祉の歴史を学ぼう
- 第 7 回 英国③現在の福祉を知ろう
- 第 8 回 まとめ
- 第 9 回 北米の社会福祉－アメリカ合衆国①その国と人々の生活を知ろう
- 第10回 アメリカ合衆国②福祉の歴史を学ぼう
- 第11回 アメリカ合衆国③現在の福祉を知ろう
- 第12回 北欧の社会福祉－スウェーデン①その国と人々の生活を知ろう
- 第13回 スウェーデン②福祉の歴史を学ぼう
- 第14回 スウェーデン③現在の福祉を知ろう
- 第15回 まとめ

評価方法

期末試験の成績 80%、ミニ・レポートや授業参加姿勢等 20%

使用教材

テキストは使用せず、資料は適宜プリントして配布する。

授業外学習の内容

自筆ノートを作成し、毎週の内容を整理・復習すること。講義時に配布された資料に書き込みなどをしてノート又はルーズリーフに貼り付ける（1 ページに 3 枚以内）。自分で調べた資料等の貼り付けも認める。定期試験時にはこの自筆ノートのみを持ち込み可とする。（ホチキス止めは認めない）

備考

国際保健医療論（専門教養科目）

担当者

李孟蓉

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

世界における健康格差の実態を知り、医療従事者として世界平和・全人類の繁栄と福祉を願いつつ国際協力の必要性和意義を理解し、国際保健医療の活動の場を地球的視野で認識する。保健医療分野での国際協力の理論と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得する。

到達目標

1. 国際保健医療協力の概念を理解する。
2. 保健医療分野での国際協力の必要性和意義を理解する。
3. 世界の健康問題がわかり、それらに対する国際的戦略および課題を理解する。
4. 異文化を理解し、異文化適応のプロセスを理解する。
5. 国際保健医療協力の実践手法を理解する。
6. 在留外国人への健康支援を考察する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 国際保健医療協力の概念
- 第 2 回 保健医療関連の国際機関の取り組みと日本の国際協力
- 第 3 回 世界の保健医療事情
- 第 4 回 世界における健康の格差
- 第 5 回 発展途上国における疾病構造
- 第 6 回 事例検討
- 第 7 回 国際協力でのアセスメント①「地理・社会・教育」
- 第 8 回 国際協力でのアセスメント②「文化・宗教」
- 第 9 回 国際保健医療協力における世界の潮流
- 第10回 プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション
- 第11回 グローバルヘルスの展望と課題
- 第12回 問題解決手法：Project Cycle Management
- 第13回 国際協力の実際（対象国での協働）
- 第14回 在留外国人と多文化共生
- 第15回 異文化コミュニケーション

評価方法

レポート（70%）、授業参加度（30%）

使用教材

配布する資料

授業外学習の内容

授業資料は毎回使用します。事前に必読箇所を指定しますので、予習して臨んでください。授業の後にミニレポートを課します。前回の授業を踏まえて記述してもらいますので、復習して考えをまとめておいてください。

備考

授業の中でグループワーク／ディスカッションと発表を設けます。積極的な参加を期待しています。

世界の歴史と日本（専門教養科目）

担当者

山本 麻子

開講学科と時期・単位

全学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

本講座では、イギリスの諸側面をケーススタディとして扱いながら、他の国々に言及し、日本の諸側面と比較する。

到達目標

特に情報、技術、福祉等々の分野で将来活躍する者にとって大切である、物事を多角的に考え、実践することのできる能力を発展させることを目指す。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 序：歴史を学ぶ意義
- 第 2 回 現代のイギリスの動向
- 第 3 回 イギリスの教育（1）
- 第 4 回 イギリスの教育（2）
- 第 5 回 産業革命のころ（1）
- 第 6 回 産業革命のころ（2）
- 第 7 回 婦人の地位（1）
- 第 8 回 婦人の地位（2）
- 第 9 回 英語の歴史（1）
- 第10 回 英語の歴史（2）
- 第11 回 シェイクスピアの時代の前後（1）
- 第12 回 シェイクスピアの時代の前後（2）
- 第13 回 マガナカルタなど（1）
- 第14 回 マガナカルタなど（2）
- 第15 回 まとめ

評価方法

扱ったテーマについてのレポートを評価基準とする。また平常点も考慮する。

使用教材

教科書は指定しないが、講義に必要な資料は適宜プリントし、配布する。

授業外学習の内容

扱うテーマについて、これまで学んだことや知っていることを授業中質問するので、そのつもりで授業にのぞんでほしい。

備考

人間行動学（専門教養科目）

担当者

渡辺 俊之

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

講義、映画によるシネメディケーションを中心に臨床場面における患者行動や医療者としての行動と相互作用を理解する。

到達目標

医療場面における、ケアを受ける人の心理を理解し、適切な対人交流のための知識と技術を学ぶ

講義内容と講義計画

- 第 1 回 人間行動としての看護
- 第 2 回 患者の現実を把握する能力
- 第 3 回 人間関係をつくる能力（対象関係）
- 第 4 回 感情をコントロールする能力
- 第 5 回 自己愛と愛他主義
- 第 6 回 自我の機能（防衛）
- 第 7 回 ハンディキャップとスティグマ
- 第 8 回 ケアを受ける人の共通感情—否定的感情—
- 第 9 回 ケアを受ける人の共通感情—肯定的感情—
- 第10回 退行（心の子ども返り）
- 第11回 対象喪失とモーニング
- 第12回 転移について
- 第13回 逆転移について
- 第14回 疾病利得と心身症
- 第15回 まとめ

評価方法

記述試験

使用教材

「ケアを受けるための心を理解するために」 渡辺俊之著中央法規出版

授業外学習の内容

教科書の講義の担当頁を読んでくる。講義の後に参考文献を読む。

備考

病気の人、その家族、死別体験における心理を学ぶので、真摯な態度で授業に臨むこと。

健康運動実技（専門教養科目）

担当者

梶田 万里子

開講学科と時期・単位

全学科 2 年後期 選択 1 単位

講義目標

健康・体力づくりのための運動について理解し、基本的な運動が出来るようになる。

到達目標

個人の体力レベルに応じたプログラムを理解し、各自の目標とする運動強度で各種の運動が出来るようになる。
また自分の身体に気付き、自己管理が出来るようになる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス（筆記用具、室内シューズ着用）
- 第 2 回 ウォーキングの理論と実技①
- 第 3 回 ウォーキングの理論と実技②
- 第 4 回 ジョギングの理論と実技
- 第 5 回 ストレッチングの理解と実技
- 第 6 回 レジスタンス運動の理論と実技①
- 第 7 回 レジスタンス運動の理論と実技②
- 第 8 回 エアロビックエクササイズ実技①
- 第 9 回 エアロビックエクササイズ実技②
- 第10回 エアロビックエクササイズ実技③
- 第11回 エアロビックエクササイズ実技④
- 第12回 エアロビックエクササイズ実技⑤
- 第13回 チェアエクササイズの理論と実技①
- 第14回 チェアエクササイズの理論と実技②
- 第15回 健康運動実技のまとめ

評価方法

授業態度・授業内容の理解度 70%、レポート 30%

使用教材

必要に応じてプリントを配布する。

授業外学習の内容

日常生活においても正しい姿勢で歩いたり、軽い運動を行ったり、身体活動量を増加させ健康増進を心がけること。

備考

宗教と倫理（専門教養科目）

担当者

出雲 春明

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位
健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

東西の代表的な宗教・倫理思想に触れることで、世の多様な価値観への理解を養うことを目的とする。また、それによって自己の在り方に対する客観的・批判的な視座を養う。

到達目標

講義で取り扱った諸宗教・倫理思想の基本について説明することができる。そして、それを自己理解、他者理解に役立てることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 『聖書』の思想：一神教の系譜
- 第 3 回 善人とは何かー『旧約聖書』（『ヨブ記』）より（1）「応報主義」の論理
- 第 4 回 善人とは何かー『ヨブ記』より（2）生誕の災い
- 第 5 回 善人とは何かー『ヨブ記』より（3）自己の在り方を省みる
- 第 6 回 善人とは何かー『ヨブ記』より（4）現代の事例から考える
- 第 7 回 善人とは何かー『ヨブ記』より（5）「応報主義」を超えるもの
- 第 8 回 旧約から新約へ：イエスの教え
- 第 9 回 悪人とは何かー『歎異抄』より（1）『歎異抄』について
- 第10回 悪人とは何かー『歎異抄』より（2）罪の意識
- 第11回 悪人とは何かー『歎異抄』より（3）浄土思想の展開（1）
- 第12回 悪人とは何かー『歎異抄』より（4）浄土思想の展開（2）
- 第13回 悪人とは何かー『歎異抄』より（5）「悪人正機説」
- 第14回 悪人とは何かー『歎異抄』より（6）悪の不可避性とそれゆえの無力
- 第15回 総括

評価方法

授業への参加とその態度（30%）、課題・期末レポート（60%）から評価する。

使用教材

講義中に資料を配布する

授業外学習の内容

なるべく平易な表現を用いて講義を行う。特に予習は求めないが、配付された資料を読むなど復習は必ず行うこと。「宗教」は非日常的なものとして敬遠されることも多い。しかし、だからこそ、そこで語られる教えや物語は、私たちが日常を省みるためのもの機会を提供してくれる。自分が普段、どのような判断や行動をしているか常に考えつつ、講義に臨んでほしい。

備考

レクリエーション論（専門教養科目）

担当者

大家 千枝子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

レクリエーションという世界に関心・興味を持つ学生のための入門的な授業。

到達目標

- 1 知識・理解の観点：レクリエーションの意義、歴史、使命、仕組み、制度、現代社会の課題を確認する。またそのうえでレクリエーション支援が必要とされる具体的な場面について理解を深める。
- 2 思考・判断の観点：楽しさを原動力としたレクリエーション事業の類別ができる。
- 3 関心・意欲の観点：自らの経験を振り返りながらレクリエーション活動に積極的に関わり、問題意識をもつことができる。
- 4 態度の観点：積極的にレクリエーション事業に取り組むことができる。
- 5 技能・表現の観点：レクリエーション事業の計画・実施・評価を考える上で必要な資料や情報を収集し、適切な方法で表現できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス、レクリエーションとは
- 第 2 回 レクリエーションの基礎理論
- 第 3 回 レクリエーションの意義
- 第 4 回 レクリエーション運動を支える制度
- 第 5 回 レクリエーション支援の理論
- 第 6 回 ライフスタイルとレクリエーション
- 第 7 回 少子高齢化社会の課題とレクリエーション
- 第 8 回 レクリエーション事業論
- 第 9 回 レクリエーション事業とは
- 第10回 事業計画Ⅰ 集団を介して個人にアプローチする事業のつくり方 (1)
- 第11回 事業計画Ⅰ 集団を介して個人にアプローチする事業のつくり方 (2)
- 第12回 事業計画Ⅱ 市民を対象とした事業のつくり方 (1)
- 第13回 事業計画Ⅱ 市民を対象とした事業のつくり方 (2)
- 第14回 安全管理
- 第15回 まとめ

評価方法

レポート課題 50%、授業態度・授業への参加度 30%、授業内での発表 20%

使用教材

自作プリントを適宜配布する。また参考書を適宜紹介する。

授業外学習の内容

授業終了時に配布する課題についてレポートを作成すること。また、日頃から新聞やニュース、地域情報などをチェックし、学外のさまざまな分野で行われているレクリエーション活動に関心・興味をもつ。また、地元や身近な地域で開催されるレクリエーション事業に積極的に参加する。

備考

授業ごとの課題の配布、提出がある。授業を欠席した学生はその週のうちに課題を研究室まで取りに来ること。
(健康福祉学部 1 号館 3 階 302) また、積極的に C-Learning を活用する授業のため、ネット環境を整えておくこと。(無理な場合は大学 PC 室を利用してください)
受講上の注意：社会福祉学科の学生で「福祉レクリエーション・ワーカー」の資格取得を希望者は必ず履修すること。

生物学（専門導入科目）

担当者

下川 哲昭

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

現代生物学の基礎的事項について専門教育を受ける前に必要な生物学的知識を解説する。ただし、ヒトにおける食品・栄養学を履修する事を前提にヒトの生物学につながる事項を中心に講義を行う。生命現象の基本原則である「発生」「遺伝」「細胞」「進化」「代謝」等の理解を深めることを目標とする。

到達目標

1. ヒトにおける生物としての普遍的なシステムと特徴について正確に理解することができる。
2. 資料を基に各々の生命現象の物質的・機能的側面を統合し他人に説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 生物の分類：生物と無生物、多細胞生物と単細胞生物、動物・植物・微生物
 第 2 回 人体の概観と階層性：個体、器官、組織、細胞、分子
 第 3 回 組織：上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織
 第 4 回 器官と器官系：骨格系、筋系、免疫系、循環器系、呼吸器系、内分泌系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系
 第 5 回 細胞の構造と機能（1）：細胞膜と物質の移動、細胞膜の生物学的特性、拡散・浸透・濾過
 第 6 回 細胞の構造と機能（2）：各細胞小器官の役割
 第 7 回 体細胞分裂と減数分裂、細胞周期とその制御、細胞死、幹細胞
 第 8 回 配偶子形成、受精のメカニズム、体節の発生と分化、ヒトの発生
 第 9 回 呼吸器と循環器の発生と機能分化、肺胞と横隔膜、胎児循環（房室管、卵円孔、ボタロー管）
 第10回 遺伝学の基礎：メンデル遺伝学と集団遺伝学、ハーディー・ワインベルクの法則
 第11回 核酸の構造と機能：DNA と RNA、ゲノム、クロマチン
 第12回 複製、転写、翻訳、セントラルドグマ
 第13回 代謝と栄養、ATP、中間代謝、エネルギー代謝
 第14回 内部・外部環境の恒常性維持機構：フィードバック機構とホメオスタシス、外部環境への生物応答
 第15回 情報伝達システム：内分泌、傍分泌、神経、生殖

評価方法

筆記試験 100%

使用教材

テキスト：管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト（第 3 版）、岩堀修明著、文光堂、3000 円＋税。「解剖生理学 I・II」でも使用するテキストである。このテキスト内で「生物学」領域に該当する内容についてはこのテキストを使用する。それ以外の内容についての資料は適宜プリントにて配布する。

授業外学習の内容

指定したテキストと配布した資料を熟読・理解する。毎回の講義終了時に出される関連課題に取り組む。

備考

オフィスアワー：昼休み、放課後共に時間の許す限り質問等に応じる。

化学（専門導入科目）

担当者

永井 俊匡

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

生命現象の多くは化学的な知識で説明できる。本科目では化学の基礎（物理化学・無機化学）を学び、食品学・栄養学を理解するために必要な化学的知識を習得することを目標とする。

到達目標

1. 原子と分子の構造について、化学的に説明できる。
2. 物質量の概念を用いて、量的計算ができる。
3. 中和反応、酸化還元反応について、説明できる。
4. 発熱反応と吸熱反応について、説明できる。
5. 各種反応について、反応物の名称から反応式を記述できる。
6. 濃度計算ができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 物質は何からできているか
- 第 2 回 化学反応式、物質量
- 第 3 回 演習（1）物質量
- 第 4 回 中和反応と酸化還元反応
- 第 5 回 発熱反応と吸熱反応
- 第 6 回 演習（2）化学反応式
- 第 7 回 反応の速さ、可逆反応
- 第 8 回 物質の三態
- 第 9 回 気体の性質
- 第10回 物質の溶解
- 第11回 演習（3）物質の溶解
- 第12回 酸と塩基
- 第13回 演習（4）酸と塩基
- 第14回 コロイド
- 第15回 まとめ講義

評価方法

筆記試験 80%、平常点 20%

使用教材

「食を中心とした化学第 3 版」北原重登ら著、東京教学社 2008 年、2,000 円。
基本的にテキストに沿って授業を進める。補足の必要な内容については、適宜プリントを配布する。

授業外学習の内容

1. 事前にテキストを予習しておく。
2. 復習として、テキストの章末問題や配布する演習問題を演習する。

備考

キーワード：原子と分子、物質量、中和、酸化還元、濃度。

担当者とのコンタクト：1 号館 504 研究室または 1 号館 4F 栄養学研究室に常駐。時間がかかりそうな質問・相談は、メールでアポイントメントをとること。メールアドレス：tnagai@takasaki-u.ac.jp

有機化学 I (専門導入科目)

担当者

永井 俊匡

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

食品学・栄養学の基礎となる有機化学について、基礎知識を習得することを目標とする。

到達目標

1. 基本的な有機化合物について、構造式から IUPAC 名または慣用名を導ける。
2. 基本的な有機化合物について、IUPAC 名または慣用名から構造式を描ける。
3. 簡単な分子式から、考えられる異性体をすべて導ける。
4. 各種の有機化合物について、化学的な性質を説明できる。
5. 各種の有機化合物について、主要な反応の反応式を書ける

講義内容と講義計画

- 第 1 回 化学結合、分子の極性
- 第 2 回 炭化水素 (1) 炭化水素のクラス分け
- 第 3 回 炭化水素 (2) 炭化水素の性質と反応
- 第 4 回 炭化水素 (3) 構造式と命名法 (講義)
- 第 5 回 炭化水素 (4) 構造式と命名法 (演習)
- 第 6 回 分子の形
- 第 7 回 アルコール (1) 主要なアルコールと命名法
- 第 8 回 アルコール (2) アルコールの性質、アルデヒド、ケトン
- 第 9 回 カルボン酸
- 第 10 回 エステル
- 第 11 回 アミン、アミド
- 第 12 回 構造異性体 (1) 講義
- 第 13 回 構造異性体 (2) 演習
- 第 14 回 立体異性体 (1) 講義
- 第 15 回 立体異性体 (2) 演習

評価方法

筆記試験 80%、平常点 20%

使用教材

「食を中心とした化学第 3 版」北原重登ら著、東京教学社 2008 年、2,000 円。
基本的にテキストに沿って授業を進める。補足の必要な内容については、適宜プリントを配布する。

授業外学習の内容

1. 事前にテキストを予習しておく。
2. 復習として、テキストの章末問題や配布する演習問題を演習する。

備考

キーワード：炭化水素、アルコール、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステル、アミン、アミド。
担当者とのコンタクト：1 号館 504 研究室または 1 号館 4F 栄養学研究室に常駐。時間がかかりそうな質問・相談

有機化学Ⅱ（専門導入科目）

担当者

永井 俊匡

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

1. 生命を構成する化合物の性質・役割を、有機化学の知識を用いて理解することを目標とする。
2. 有機化学と生化学の中間領域を学ぶことで、より専門的な栄養学を学ぶ準備をすることを目標とする。

到達目標

1. 糖質の構造的特徴を説明できる。
2. 二糖類・多糖類の結合様式を説明できる。
3. 単純脂質の性質を説明できる。
4. タンパク質の構造を説明できる。
5. タンパク質合成に使われる 20 種類のアミノ酸の構造式が描ける。
6. DNA・RNA の構造を説明できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 糖質 (1) 単糖類
- 第 2 回 糖質 (2) 小糖類
- 第 3 回 糖質 (3) 多糖類
- 第 4 回 脂質 (1) 単純脂質
- 第 5 回 脂質 (2) その他の脂質、けん化価とヨウ素価
- 第 6 回 タンパク質 (1) アミノ酸
- 第 7 回 タンパク質 (2) タンパク質の構造
- 第 8 回 酵素
- 第 9 回 三大栄養素の消化・吸収・代謝
- 第10回 核酸 (1) ヌクレオチド、ATP
- 第11回 核酸 (2) DNA、RNA
- 第12回 核酸 (3) タンパク質の合成
- 第13回 ビタミン
- 第14回 ミネラル
- 第15回 まとめ講義

評価方法

筆記試験 100%

使用教材

「食を中心とした化学第 3 版」北原重登ら著、東京教学社 2008 年、2,000 円。
基本的にテキストに沿って授業を進める。補足の必要な内容については、適宜プリントを配布する。

授業外学習の内容

1. 事前にテキストを予習しておく。
2. 復習として、テキストの章末問題や配布する演習問題を演習する。

備考

受講資格：「有機化学 I」を履修済みであることが望ましい。

キーワード：糖質、脂質、タンパク質、アミノ酸、酵素、核酸。

担当者とのコンタクト：1 号館 504 研究室または 1 号館 4F 栄養学研究室に常駐。時間がかかりそうな質問・相談は、メールでアポイントメントをとること。メールアドレス：tnagai@takasaki-u.ac.jp

管理栄養士実践入門（専門導入科目）

担当者

五十嵐美絵・神戸美恵子・木村典代・竹内真理・村松芳多子 他

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

栄養学、管理栄養士の歴史を学び、社会における管理栄養士の使命や役割および活動分野の理解を通して管理栄養士を目指す気持ちを育むことを目的とする。

専門科目を学ぶ前の管理栄養士を目指す動機づけとした学習を行う。

関連する教員がオムニバスで行う。

到達目標

- ・ 日常生活の中で、食べ物、人間のからだの働きへの関心を深める。
- ・ 自分の食生活を振り返り、より良い食生活を実践する力を身につける。
- ・ 栄養学、栄養士活動の歴史を理解する。
- ・ 管理栄養士の使命、役割を医療、行政、学校などの分野別に説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション グループワーク（管理栄養士とは何か？）
- 第 2 回 栄養学の歴史・栄養士の歴史
- 第 3 回 食品をめぐる最近の問題と生活の中の「食」を考える
- 第 4 回 食品の成分を知る（日本食品標準成分表の使い方）
- 第 5 回 自分の食事を知る（測り・計量カップ・計量スプーンの使用） 記録の概要説明
- 第 6 回 自分の生活（身体活動）を知る（ライフコーダの使用）
- 第 7 回 グループワーク（自分の食生活を振り返る） テーマディスカッション
- 第 8 回 管理栄養士養成に必要なカリキュラム・実験・実習の心得
- 第 9 回 生命の尊厳と倫理観・管理栄養士の職業倫理
- 第10回 栄養士の使命と役割（1）医療施設・高齢者福祉施設で働く管理栄養士
- 第11回 栄養士の使命と役割（2）学校・幼稚園等で働く管理栄養士
- 第12回 栄養士の使命と役割（3）保健所、市町村等行政で働く管理栄養士
- 第13回 栄養士の使命と役割（4）スポーツ栄養等の新しい分野で働く管理栄養士
- 第14回 グループワーク（自分の食生活を振り返る） テーマディスカッション
- 第15回 グループワーク発表（管理栄養士とは何か？管理栄養士として修得すべき事は？）

評価方法

授業態度 30%、各担当教員が行うミニテスト又はレポートなどの課題 70%

使用教材

担当教員作成のプリント

授業外学習の内容

- ・ 自分の食事記録を作成すること
- ・ 関連する講義内容を自己学習しておくこと
- ・ ミニテスト、レポートなどに備えて毎回復習を行うこと

備考

管理栄養士基礎実習（専門導入科目）

担当者

臨地実習担当教員

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年前期(夏休み) 選択 1 単位

講義目標

1 年生前期の段階で、管理栄養士がどのような場（臨床栄養、福祉、学校、薬局、被災地、スポーツ現場において）でどのように活躍しているのかを見学・体験することを目的としている。3 年次以降の「臨地実習 I～IV」がスムーズに行えるようにする。

到達目標

管理栄養士という専門職に求められるニーズ（どのような技術や知識）を説明できる。
現場体験を踏まえて、専門科目への学習意欲を高める。
専門職に就くための意識を高める。

講義内容と講義計画

学内（実習前学修）

- 1) 実習の目的（身につけたいことは何か）
- 2) 実習先の選定（実習先の概要）
- 3) 実習現場におけるマナー
- 4) 実習計画書の作成

実習体験

- 1) 管理栄養士の役割
- 2) 管理栄養士の業務内容
- 3) 管理栄養士のニーズ
- 4) 管理栄養士の資質

学内（実習後学修）

- 1) 実習報告書の作成
- 2) 実習の反省と改善
- 3) 報告会

評価方法

実習報告書 80%、実習先管理栄養士の評価 20%

使用教材

担当教員作成のプリント等

授業外学習の内容

管理栄養士実践演習をよく復習してから望むこと
健康栄養学科 3,4 年生の臨地実習体験などを聞き取りしておくこと

備考

食物学特別講座 I (専門導入科目)

担当者

宮澤 紀子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年後期 選択 2 単位

講義目標

フードスペシャリストとしての要求される知識・技術および姿勢を修得することを目標とする。食生活に関する見識を深めることを目標とする。

到達目標

1. フードスペシャリストの仕事について説明できる
2. 人類の食物獲得の歴史を理解し、伝統的な食品加工・保存技術を説明できる
3. 世界の食作法や食事内容の多様性を理解する
4. 日本の食物史と食の地域差を理解する
5. 日本の食の状況や環境を理解し、「よりよい食生活の営み」の基本を説明できる
6. 食品産業の役割を説明できる
7. 食品の品質規格と表示を説明できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 フードスペシャリストとは 1 専門職の成立
- 第 2 回 フードスペシャリストとは 2 フードスペシャリストの活躍分野、責務
- 第 3 回 人類と食物 1 人類の歩みと食物
- 第 4 回 人類と食物 2 食品加工、保存技術史
- 第 5 回 世界の食 1 食作法
- 第 6 回 世界の食 2 世界各地の食事情
- 第 7 回 日本の食 1 日本食物史
- 第 8 回 日本の食 2 食の地域差
- 第 9 回 現代日本の食生活 1 戦後から現代まで
- 第 10 回 現代日本の食生活 2 食料の供給、環境
- 第 11 回 食品産業の役割 1 フードシステム
- 第 12 回 食品産業の役割 2 食品小売業、外食産業
- 第 13 回 食品の品質規格と表示 1 JAS 法、食品衛生
- 第 14 回 食品の品質規格と表示 2 健康増進法、その他
- 第 15 回 食情報と消費者の保護

評価方法

筆記試験 50%、認定試験 50%

使用教材

「四訂フードスペシャリスト論第 2 版」, (公社) 日本フードスペシャリスト協会編, 建帛社, 2014, 1900 円

授業外学習の内容

1. 教科書の指定した章を毎時間前に読んでおくこと
2. 理解度を確認する小テストを実施するので、復習しておくこと
3. 小テストで間違った問題は、次回の授業までにやり直し、理解しておくこと
4. 授業後に示す課題に取り組むこと

備考

※フードスペシャリストの認定試験受験資格を希望する学生は必ず本科目を受講すること。
※フードスペシャリストの資格は、フードスペシャリスト養成課程の必須科目を取得した後、(公社)フードスペシャリスト協会が実施する認定試験を受験し、合格することで取得することができる。
※フードスペシャリスト認定試験に合格しても、本学科を卒業しなければ資格証は取得できない。
※フードスペシャリスト認定試験の受験と認定証の発行(卒業時)には、別途、受験料と認定料が必要となる。
担当教員の連絡先: 1号館 4F 天秤室または栄養学研究室にいます。授業に関する質問や相談は、基本的に直接研究室を訪問すること。メールアドレス: miyazawa@takasaki-u.ac.jp

食物学特別講座II（専門導入科目）

担当者

阿部 雅子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年前期 選択 2 単位

講義目標

食に関する様々な場において、快適な食事を提供するために、料理・メニュー・食卓・食空間を含めた食のコーディネートができる、知識と技術を修得することを目標とする。

到達目標

1. フードコーディネートの基礎的内容について説明出来る。
2. フードコーディネートの計画を立てることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 フードコーディネートの基本理念
- 第 2 回 食事の文化
- 第 3 回 食卓のコーディネート 1
- 第 4 回 食卓のコーディネート 2
- 第 5 回 食卓のマナーとサービス 1
- 第 6 回 食卓のマナーとサービス 2
- 第 7 回 メニュープランニング
- 第 8 回 【フードコーディネートの現場】（外部講師）
- 第 9 回 食企画の実践コーディネート 1
- 第10回 食企画の実践コーディネート 2
- 第11回 食空間のコーディネート 1
- 第12回 食空間のコーディネート 2
- 第13回 フードサービスマネジメント 1
- 第14回 フードサービスマネジメント 2
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験 70%、レポート 30%

使用教材

日本フードスペシャリスト協会編「三訂フードコーディネート論」建帛社、1995 円

授業外学習の内容

1. 教科書の指定した章を、毎授業前に読んでおく。
2. 食の企画に関するレポートを期日までに提出する。

備考

- ※フードスペシャリストの認定試験受験資格を希望する学生は必ず本科目を受講すること。
- ※フードスペシャリストの資格は、フードスペシャリスト養成課程の必須科目を取得した後、（公社）フードスペシャリスト協会が実施する認定試験を受験し、合格することで取得することができる。
- ※フードスペシャリスト認定試験に合格しても、本学科を卒業しなければ資格証は取得できない。
- ※フードスペシャリスト認定試験の受験と認定証の発行（卒業時）には、別途、受験料と認定料が必要となる。

NR・サプリメントアドバイザー（専門導入科目）

担当者

曽根 保子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年前期 選択 2 単位

講義目標

NR・サプリメントアドバイザーとして、対象者・対象集団の栄養状態を評価し、保健機能食品およびサプリメントについて適切にアドバイスを行うために必要な知識を習得する。

到達目標

1. NR・サプリメントアドバイザーに必要な専門的知識を理解し、説明することができる。
2. NR・サプリメントアドバイザー認定試験を受験するために必要な規定研修単位を取得できる。
3. 認定試験を受験するために必要な所定の手続きを完了できる。

講義内容と講義計画

第 1 回 『NR・サプリメントアドバイザー』の役割と倫理，認定試験の概要

第 2 回 基礎の生理学

第 3 回 基礎の生化学

第 4 回 人間栄養学

第 5 回 生活習慣病概論

第 6 回 臨床栄養と臨床検査

第 7 回 身体活動と栄養

第 8 回 食品安全衛生学

第 9 回 健康食品

第10回 臨床薬理学

第11回 食品機能の科学的根拠

第12回 行動科学とカウンセリング

第13回 国内外の関連法規－食品の健康表示と安全性－

第14回 認定試験対策講座 1

第15回 認定試験対策講座 2

評価方法

期末試験（筆記試験）の結果を 100%として評価する。

全ての単位を受講することを前提とする。

必要な受講単位が不足すると、認定試験を受験できなくなる可能性がある。

使用教材

NR・サプリメントアドバイザー必携、一般社団法人日本臨床栄養協会/編集、第一出版、2015 年
本テキストは、試験のための公認テキストであり、NR・サプリメントアドバイザー認定単位を取得するための学習に使用する。また、試験対策用の参考書として利用する。

授業外学習の内容

1. 授業の該当箇所を予め読み、分からない事柄を調べておく。
2. 授業後は該当箇所の認定試験を想定した練習問題が完答できるまで繰り返し、復習を行う。

備考

キーワード：保健機能食品、サプリメント

オフィスアワー： 初回の講義でアナウンスする（1号館 306 研究室）

問い合わせメールアドレス： sone-y@takasaki-u.ac.jp

相談・質問がある場合はできるだけアポイントメントを取るようになしてください。

※ 健康栄養学科所属の 3 年生（4 年生も含む）を対象とする。

※ NR・サプリメントアドバイザーの取得を希望する学生は本科目を受講しないと資格取得はできません。

※ NR・サプリメントアドバイザーの資格には、本科目を受講した後、NR・サプリメントアドバイザー認定試験に合格することが必要です。

※ 本学を通して NR・サプリメントアドバイザー認定試験を受験するには、一定の予算が必要となります。

公衆衛生学 I (専門基幹科目)

担当者

渡辺 由美

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

公衆衛生の理念と実際を理解し、疾病予防と健康増進に関する知識と技術を習得することを目標とする。

到達目標

わが国における保健・医療の現状と問題点を認識し、保健医療行政の実際を理解し、説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 公衆衛生学概論
- 第 2 回 人口動態統計
- 第 3 回 傷病統計
- 第 4 回 疫学 (1) 疫学指標
- 第 5 回 疫学 (2) 疫学の方法
- 第 6 回 疫学 (3) スクリーニング
- 第 7 回 母子保健
- 第 8 回 成人保健
- 第 9 回 高齢者保健
- 第10回 精神保健
- 第11回 学校保健
- 第12回 感染症の予防
- 第13回 歯科保健
- 第14回 国際保健
- 第15回 まとめ

評価方法

期末試験 (筆記試験) 100% で評価する。

使用教材

健康・栄養科学シリーズ「社会・環境と健康」田中平三等編集、南江堂、3,456 円
その他、講義に必要な資料は適宜印刷し配布する。

授業外学習の内容

1. 授業後、教科書の授業内容と関連のある章を読み復習する。
2. 次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておく。
3. 日頃から新聞を読むこと。

備考

オフィスアワー：原則として、講義のある曜日の 13 : 00 - 17 : 00。
ただし、在室している場合はいつでも気軽に訪ねてください。(1 号館 304 研究室)

公衆衛生学Ⅱ（専門基幹科目）

担当者

渡辺 由美

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年前期 必修 2 単位

講義目標

人々の健康の維持・増進と社会および環境の関わりを理解するために必要な基礎知識と健康に関わる社会制度、労働者の保健対策について理解することを目標とする。

到達目標

1. 人間を取り巻く環境要因と健康障害について説明できる。
2. 労働者の健康の現状と問題および産業保健対策について説明できる。
3. わが国における社会保障制度の仕組みについて説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 環境と人間生活
- 第 2 回 環境汚染と健康
- 第 3 回 環境衛生 (1) 気候・大気・圧力・温度等
- 第 4 回 環境衛生 (2) 騒音・放射線・住居環境等
- 第 5 回 産業保健 (1) 産業保健の目的
- 第 6 回 産業保健 (2) 労働衛生管理
- 第 7 回 産業保健 (3) 職業病
- 第 8 回 社会保障制度
- 第 9 回 医療制度 (1) 医療保険制度
- 第 10 回 医療制度 (2) 国民医療費
- 第 11 回 介護保険制度 (1) 介護保険制度の概要
- 第 12 回 介護保険制度 (2) 介護保険サービス
- 第 13 回 高齢者福祉
- 第 14 回 関係法規
- 第 15 回 まとめ

評価方法

期末試験（筆記試験）100%で評価する。

使用教材

2 年生次の教科書（健康・栄養科学シリーズ「社会・環境と健康」田中平三等編集、南江堂、3,456 円）
その他、講義に必要な資料は適宜印刷し配布する。

授業外学習の内容

1. 授業後、教科書の授業内容と関連のある章を読み復習する。
2. 次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておく。
3. 日頃から新聞を読むこと。

備考

オフィスアワー：原則として、講義のある曜日の 13：00－17：00。
ただし、在室している場合はいつでも気軽に訪ねてください。（1 号館 304 研究室）

栄養情報処理論（専門基幹科目）

担当者

渡辺 由美

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

健康や栄養に関する情報を収集・分析し、正しい評価ができるような知識と技術を習得することを目標とする。

到達目標

健康・栄養に関する統計情報を収集し、現状および問題点を説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 栄養情報処理とは
- 第 2 回 統計の基礎 (1) データの種類
- 第 3 回 統計の基礎 (2) データの分布
- 第 4 回 統計の基礎 (3) 代表値
- 第 5 回 統計の基礎 (4) 散布度
- 第 6 回 統計の基礎 (5) クロス集計
- 第 7 回 統計の基礎 (6) 平均値の推定
- 第 8 回 統計の基礎 (7) 比率の推定
- 第 9 回 統計の基礎 (8) 仮説検定の考え方
- 第10回 調査の進め方
- 第11回 調査対象の選定
- 第12回 調査票の作成
- 第13回 データの集計方法
- 第14回 健康情報の信頼性
- 第15回 まとめ

評価方法

期末試験（筆記試験）100%で評価する。

使用教材

教科書は使用しない。講義に必要な資料は毎回配布する。

授業外学習の内容

授業後、授業内容を復習し理解を深め、特に計算問題は何回も解き、方法を身につける。

備考

オフィスアワー：原則として、講義のある曜日の 13：00－17：00。
ただし、在室している場合はいつでも気軽に訪ねて下さい。（1号館 304 研究室）

栄養情報処理実習（専門基幹科目）

担当者

渡辺 由美

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

「栄養情報処理論」で修得したことをもとに、本科目では、パソコンを使用して、栄養学分野におけるデータの取り扱い方、処理、解析手法を学び、情報を正しく有効に活用できるようになることを目標とする。

到達目標

1. 授業で取り上げた専門用語を説明できる。
2. パソコンを使用してデータの整理と集計ができる。
3. パソコンを使用して基本的な統計処理・解析ができる。
4. パソコンを使用してプレゼンテーション用の資料を作成できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 データの種類（量的データ・質的データ）、基礎統計量（代表値・散布度）
- 第 2 回 データの整理・集計
- 第 3 回 統計グラフ（量的・質的データの分布や変数間の関係を表すグラフ）
- 第 4 回 母平均の差の検定、分散分析
- 第 5 回 相関分析、回帰分析
- 第 6 回 独立性の検定
- 第 7 回 区間推定（母平均の区間推定、母比率の区間推定）
- 第 8 回 情報の収集と活用
- 第 9 回 食事調査方法
- 第10回 プレゼンテーション用資料の作成①
- 第11回 プレゼンテーション用資料の作成②
- 第12回 まとめ

評価方法

期末試験 90%、課題 10%で評価する。

使用教材

教員が作成したプリントとファイルを配布する

授業外学習の内容

次回の授業に備え復習しておくこと。

備考

受講資格：基本的なパソコン操作（エクセル、ワード、パワーポイント）ができること。コンピューター実習Ⅱ（1年生・後期）を履修していることが望ましい。

オフィスアワー：原則として、講義のある曜日。ただし、在室している場合はいつでも気軽に訪ねてください。（1号館 304 研究室）

解剖生理学I (専門基幹科目)

担当者

下川 哲昭

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

正常な人体の仕組みについて、個体とその機能を構成する細胞レベルから組織・器官レベルまでの構造や機能を学修する。「解剖生理学 I」では、人体の概観、生理的正常値の意味、骨および筋の構成、血液と免疫系の詳細、バイタルサインの基本である循環・呼吸器系を講義する。これら生命現象の基盤を系統的に理解することを目標とする。

到達目標

1. 人体の構成および構造、多様な生理機能の詳細を系統的に理解し説明できる。
2. ヒトにおける基本的活動（恒常性の維持・呼吸・エネルギー産生等）を理解し他人に説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 解剖生理学概論 (1) : 人体概観、体構成成分 (糖質・脂質・アミノ酸・核酸) の構造と機能
 第 2 回 解剖生理学概論 (2) : 生理学概論 (浸透圧、体液・電解質調節、酸-塩基平衡)
 第 3 回 骨格系の構造と機能 (1) : 骨組織の構成、骨の発生と成長、関節、カルシウム調節
 第 4 回 骨格系の構造と機能 (2) : 骨格の構成 (脊柱、胸郭、頭蓋、上肢・下肢の骨)
 第 5 回 筋系の構造と機能 (1) : 筋の形態と機能、筋収縮の仕組み
 第 6 回 筋系の構造と機能 (2) : 筋系の構成 (頭部、頸部、背部、胸部、腹部、上肢・下肢の筋)
 第 7 回 血液と免疫系 (1) : 血液の構成、血球、血漿と血清、造血機構
 第 8 回 血液と免疫系 (2) : 止血、血液凝固と線溶、血液型
 第 9 回 血液と免疫系 (3) : 免疫系器官の構成、自然免疫、獲得免疫、アレルギー
 第10回 循環器系 (1) : 循環器系の構成、心臓の構造、心臓の自動性、心臓の収縮力
 第11回 循環器系 (2) : 血管の構造、血管の機能的分類、循環の調節機構、心電図の基礎
 第12回 循環器系 (3) : 特殊循環 (脳循環、冠循環、肺循環、筋肉循環、リンパ循環)
 第13回 呼吸器系 (1) : 呼吸器系の構成、気管と肺の構造、肺胞の構造と機能
 第14回 呼吸器系 (2) : 呼吸運動と換気、ガス交換と運搬、ヘモグロビン、酸素解離曲線
 第15回 呼吸器系 (3) : 呼吸運動の神経性調節、呼吸の異常

評価方法

筆記試験 100%

使用教材

テキスト：管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト(第 3 版)、岩堀修明著、文光堂、3000 円+税。
 講義資料を適宜プリントにて配布する。

授業外学習の内容

指定したテキストと配布した資料を熟読・理解する。
 毎回の講義終了時に出される関連課題に取り組む。

備考

オフィスアワー：昼休み、放課後共に時間の許す限り質問等に応じる。

解剖生理学II (専門基幹科目)

担当者

下川 哲昭

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

正常な人体の仕組みについて、個体とその機能を構成する細胞レベルから組織・器官レベルまでの構造や機能を学修する。「解剖生理学II」では、内分泌・生殖系、消化器系および泌尿器系、神経系と感覚系の詳細を講義する。これら生命現象の基盤を系統的に理解することを目標とする。

到達目標

1. 人体の構成および構造、多様な生理機能の詳細を理解し系統的に説明できる。
2. ヒトにおける基本的活動（食事・排泄・生殖・神経活動等）を理解し他人に説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 内分泌系 (1) : 内分泌器官の構成、ホルモンと受容体、視床下部ホルモン、
第 2 回 内分泌系 (2) : 下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副腎のホルモン、ホルモンの分泌異常と疾患
第 3 回 内分泌系 (3) : 糖代謝ホルモン、カルシウム代謝ホルモン、性機能に関するホルモン
第 4 回 生殖系 (1) : 男性・女性生殖器官および胎盤の構造と機能、男性化のメカニズム
第 5 回 生殖系 (2) : 生殖機能の多様性（勃起、射精、性周期、妊娠、分娩、泌乳、更年期）とその障害
第 6 回 消化器系 (1) : 消化器系の構成、口腔・咽頭・食道・胃、小腸・大腸の構造と機能
第 7 回 消化器系 (2) : 膵臓、肝臓と胆のうの構造と機能、胆汁および消化液の役割、腸肝循環
第 8 回 消化器系 (3) : 消化器系の調節機構、各栄養素の消化と吸収、ビタミンと微量元素
第 9 回 泌尿器系 (1) : 泌尿器系の構成、腎臓の構造、ネフロンとその機能、尿細管における尿生成機構
第10回 泌尿器系 (2) : クリアランスと腎機能、尿の成分、蓄尿と排尿の制御
第11回 神経系 (1) : 神経細胞とグリア細胞、活動電位、興奮の伝導と伝達機構、シナプス、神経伝達物質
第12回 神経系 (2) : 中枢神経系（脳・脊髄）と末梢神経系（脳神経、脊髄神経、自律神経）の構造と機能
第13回 神経系 (3) : 脳室と脳脊髄液、神経路、体温調節、脳の機能とその障害
第14回 感覚器系 (1) : 感覚の分類と受容器、皮膚感覚、内臓感覚、
第15回 感覚器系 (2) : 視覚、平衡覚と聴覚、味覚、嗅覚

評価方法

筆記試験 100%

使用教材

テキスト：管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト(第3版)、岩堀修明著、文光堂、3000 円+税。
講義資料を適宜プリントにて配布する。

授業外学習の内容

指定したテキストと配布した資料を熟読・理解する。
毎回の講義終了時に出される関連課題に取り組む。

備考

オフィスアワー：昼休み、放課後共に時間の許す限り質問等に応じる。

解剖生理学実習（専門基幹科目）

担当者

下川 哲昭

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年後期 必修 1 単位

講義目標

「解剖生理学 I・II」の講義で学習した臓器構成や血液、呼吸器、消化器の基礎的事項について実際に実験で確認し系統的な理解を確立することを目標とする。

到達目標

人体の基礎的な構造と機能およびヒトの基本的な活動（呼吸・食事・神経活動等）の機構に関する実験データを適正に解釈し、その妥当性を他人と討論することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション：実習に使用する器具・装置の使用法、試薬の調整法
第 2 回 血液系：ラット（マウス）の採血法、血球の計算、ヘマトクリット、溶血反応
第 3 回 臓器構造と器官系：ラット（マウス）の解剖による主要臓器の構造と各器官系の確認
第 4 回 演習：結果の解析とレポートの作成
 (1) 血球の計算とヘマトクリット値の算出ができる。
 (2) 浸透圧の計算と溶血反応の説明ができる。
 (3) ヒトとラット（マウス）の臓器における位置関係の比較が説明できる。
第 5 回 呼吸器系：スパイロメーターによる呼吸・肺機能の測定
第 6 回 演習：結果の解析とレポートの作成
 (1) 呼吸曲線により肺気量分画を計算できる。
 (2) 肺機能障害を分類し説明できる。
第 7 回 消化器系（口腔）：舌の各部位における五味の味覚閾値の測定
第 8 回 消化器系（口腔）：ペーパーポイント法による唾液分泌量の測定
第 9 回 演習：結果の解析とレポートの作成
 (1) 味覚における舌上での部位差を説明できる。
 (2) 味覚の受容と神経伝達機構を説明できる。
 (3) 唾液腺、唾液の成分、分泌機序（反射）、分泌調節（自律神経系）を説明できる。
第10回 消化器系（小腸）：ハムスター摘出小腸標本による腸管運動の観察
第11回 消化器系（小腸）：ハムスター小腸反転腸管を用いた糖輸送の観察
第12回 演習：結果の解析とレポートの作成
 (1) 腸管の構造と運動の発生メカニズムを説明できる。
 (2) 腸管運動の神経性調節について説明できる。
 (3) 腸管における膜消化と二次性能動輸送を説明できる。
 (4) 糖能動輸送に対するウアバイン、フロリジンの阻害機構について説明できる。

評価方法

筆記試験 100%。提出したレポートは加点の対象とする。

使用教材

実習毎にプロトコールを配布する。

授業外学習の内容

実験毎に配布した資料を熟読・理解する。実験結果の解析とレポート作成に取り組む。

備考

オフィスアワー：昼休み、放課後共に時間の許す限り質問等に応じる。

生化学 I (専門基幹科目)

担当者

田中 進

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

人体の構造や機能を理解するための基礎として、生体分子（糖質、脂質、たんぱく質・アミノ酸、核酸、ビタミン、ホルモン）の化学構造や生体内機能に関する知識を修得することを目標とする。

到達目標

生体分子（糖質、脂質、たんぱく質・アミノ酸、核酸、ビタミン、ホルモン）の種類、化学構造、生体内機能について説明できる。生体内の酵素反応の特性と酵素活性調節機構を説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 生体と細胞
- 第 2 回 生体構成成分の化学糖質 (1)
- 第 3 回 生体構成成分の化学糖質 (2)
- 第 4 回 生体構成成分の化学脂質 (1)
- 第 5 回 生体構成成分の化学脂質 (2)
- 第 6 回 生体構成成分の化学タンパク質、アミノ酸 (1)
- 第 7 回 生体構成成分の化学タンパク質、アミノ酸 (2)
- 第 8 回 生体構成成分の化学ヌクレオチド・核酸 (1)
- 第 9 回 生体構成成分の化学ヌクレオチド・核酸 (2)
- 第10回 生体構成成分の化学ビタミン (1)
- 第11回 生体構成成分の化学ビタミン (2)
- 第12回 酵素
- 第13回 ホルモンの生化学
- 第14回 生体エネルギーと代謝 (1)
- 第15回 生体エネルギーと代謝 (2)

評価方法

筆記試験 90%、小テスト 10%

評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

使用教材

教科書 (N ブックス人体の構造と機能改訂生化学・林淳三・建帛社・2014・2700 円) とプリントを使用。

授業外学習の内容

授業終了時に提示した課題を毎授業前に行うこと。

備考

質問等がある場合には 1 号館 4F401 研究室に常駐。

生化学Ⅱ（専門基幹科目）

担当者

田中 進

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

人体の構造や機能を理解するために、生体を構成する成分（糖質、脂質、たんぱく質・アミノ酸、核酸）の生体内での代謝に関する基本的知識を遺伝子レベル、細胞レベルで修得する。また、代謝調節と代謝異常を学習する。

到達目標

三大栄養素である糖質、脂質、たんぱく質・アミノ酸の代謝とエネルギー産生について説明でき、また生体内の代謝調節と代謝異常について栄養疾患、代謝疾患と関連づけて説明できる。さらに、核酸の合成・分解と遺伝情報の伝達（セントラルドグマ）について説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 糖質の代謝 (1)
- 第 2 回 糖質の代謝 (2)
- 第 3 回 脂質の代謝 (1)
- 第 4 回 脂質の代謝 (2)
- 第 5 回 アミノ酸の代謝 (1)
- 第 6 回 アミノ酸の代謝 (2)
- 第 7 回 ヌクレオチドの代謝 (1)
- 第 8 回 ヌクレオチドの代謝 (2)
- 第 9 回 遺伝子発現とその制御 (1)
- 第10回 遺伝子発現とその制御 (2)
- 第11回 代謝の調節と代謝異常 (1)
- 第12回 代謝の調節と代謝異常 (2)
- 第13回 遺伝子操作と解析法
- 第14回 個体のホメオスタシスとその調節機構
- 第15回 免疫の生化学

評価方法

筆記試験 90%、小テスト 10%

評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

使用教材

教科書（N ブックス人体の構造と機能改訂生化学・林淳三・建帛社・2014・2700 円）とプリントを使用。

授業外学習の内容

授業終了時に提示した課題を毎授業前に行うこと。

備考

質問等がある場合には 1 号館 4F401 研究室に常駐。

生化学実験 I (専門基幹科目)

担当者

田中 進

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年前期 必修 1 単位

講義目標

人体の構造や機能を理解するための基礎として、生体分子（糖質、脂質、たんぱく質・アミノ酸、核酸）の化学的性質とそれらを取り扱うための基本的技能を修得する。

到達目標

生体分子（糖質、脂質、たんぱく質・アミノ酸、核酸）の定性的試験法を理解し、生体内の機能と関連づけて、それぞれの実験原理が説明できる。また、代表的な酵素の活性測定ができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 細胞の観察
- 第 3 回 糖質実験呈色反応を利用した未知の糖溶液の判定実験説明
- 第 4 回 糖質実験呈色反応を利用した未知の糖溶液の判定実験
- 第 5 回 脂質実験 (1) 脂質の溶解度
- 第 6 回 脂質実験 (2) 脂質一重層の透過性に対する脂質組成の影響
- 第 7 回 タンパク質・アミノ酸実験 タンパク質・アミノ酸の定性実験
- 第 8 回 酵素実験 pH の影響、基質濃度の影響、拮抗阻害剤の影響説明
- 第 9 回 酵素実験 pH の影響、基質濃度の影響、拮抗阻害剤の影響
- 第 10 回 核酸実験 (1) ニワトリ肝からの DNA 抽出
- 第 11 回 核酸実験 (2) DNA 溶液の紫外外部吸収曲線
- 第 12 回 核酸実験 (3) 制限酵素による DNA の切断と電気泳動による解析
- 第 13 回 まとめ

評価方法

筆記試験 40%、レポート 20%、実習参加度 40%
評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

使用教材

教科書 (N ブックス実験シリーズ生化学実験・建帛社・後藤潔・2014・2052 円) とプリントを使用。

授業外学習の内容

1. 指定した実験書の章を毎授業前に読んでおく。
2. 実験結果についてレポートの作成を行う。

備考

質問等がある場合には 1 号館 4F401 研究室に常駐。

生化学実験Ⅱ（専門基幹科目）

担当者

田中 進

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年後期 必修 1 単位

講義目標

人体の構造や機能を理解するため基礎として、栄養素（糖質、脂質、たんぱく質・アミノ酸、ビタミン、ミネラル）の定量法と遺伝子の増幅法について基本的技能を修得する。

到達目標

糖質、脂質、たんぱく質・アミノ酸、ビタミン、ミネラルの定量法と遺伝子の増幅法を理解し、生体内の機能と関連づけて、それぞれの実験原理が説明できる。また、実際にそれぞれの測定を行うことができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 糖質実験グルコースの定量 (1)
- 第 3 回 糖質実験グルコースの定量 (2)
- 第 4 回 脂質実験遊離脂肪酸の定量 (1)
- 第 5 回 脂質実験遊離脂肪酸の定量 (2)
- 第 6 回 タンパク質、アミノ酸実験タンパク質・アミノ酸の定量 (1)
- 第 7 回 タンパク質、アミノ酸実験タンパク質・アミノ酸の定量 (2)
- 第 8 回 無機質実験リンの定量 (1)
- 第 9 回 無機質実験リンの定量 (2)
- 第10回 ビタミン実験各種ビタミンの定性実験 (1)
- 第11回 ビタミン実験各種ビタミンの定性実験 (2)
- 第12回 遺伝子実験 PCR による遺伝子増幅 (1)
- 第13回 遺伝子実験 PCR による遺伝子増幅 (2)

評価方法

筆記試験 40%、レポート 20%、実習参加度 40%
評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

使用教材

教科書（N ブックス実験シリーズ生化学実験・建帛社・後藤潔・2014・2052 円）とプリントを使用。

授業外学習の内容

1. 指定した実験書の章を毎授業前に読んでおく。
2. 実験結果についてレポートの作成を行う。

備考

質問等がある場合には 1 号館 4F401 研究室に常駐。

疾病の成り立ち I (専門基幹科目)

担当者

岡村 信一

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

管理栄養士として習得すべき疾病の成因・病態・診断・治療および栄養学との関わりについて学び、習得した知識を統合し臨床栄養管理に発展させられるようにする。「疾病の成り立ち I」では、診断のための検査、栄養・代謝系疾患、内分泌系疾患、消化管疾患を取り上げる。

到達目標

1. 代表的な疾病の成因について理解し説明できる。
2. 代表的な疾病の病態について理解し説明できる。
3. 代表的な疾病の診断について理解し説明できる。
4. 代表的な疾病の治療について理解し説明できる。
5. 代表的な疾病と栄養学との関わりについて理解し説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 診断のための検査 1
- 第 3 回 診断のための検査 2
- 第 4 回 診断のための検査 3
- 第 5 回 栄養・代謝系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 1
- 第 6 回 栄養・代謝系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 2
- 第 7 回 栄養・代謝系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 3
- 第 8 回 栄養・代謝系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 4
- 第 9 回 内分泌系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 1
- 第 10 回 内分泌系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 2
- 第 11 回 内分泌系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 3
- 第 12 回 消化管疾患の成因・病態・診断・治療の概要 1
- 第 13 回 消化管疾患の成因・病態・診断・治療の概要 2
- 第 14 回 消化管疾患の成因・病態・診断・治療の概要 3
- 第 15 回 疾病の成り立ち I のまとめ

評価方法

1. 筆記試験 100%
2. 評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

使用教材

1. 栄養科学イラストレイテッド臨床医学疾病の成り立ち・田中明ほか・羊土社・2013 年・2800 円
2. 教科書は授業および予習・復習で使用する。

授業外学習の内容

1. 授業前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。
2. 授業終了後復習をしておくこと。
3. 他教科で関連する項目を学ぶ際には、積極的にその部分を復習すること。

備考

疾病の成り立ちⅡ（専門基幹科目）

担当者

岡村 信一

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

管理栄養士として習得すべき疾病の成因・病態・診断・治療および栄養学との関わりについて学び、習得した知識を統合し臨床栄養管理に発展させられるようにする。「疾病の成り立ちⅡ」では、肝・胆・膵疾患、循環器系疾患、腎・尿路系疾患、神経・精神系疾患について取り上げる。

到達目標

1. 代表的な疾病の成因について理解し説明できる。
2. 代表的な疾病の病態について理解し説明できる。
3. 代表的な疾病の診断について理解し説明できる。
4. 代表的な疾病の治療について理解し説明できる。
5. 代表的な疾病と栄養学との関わりについて理解し説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 肝・胆・膵疾患の成因・病態・診断・治療の概要 1
- 第 2 回 肝・胆・膵疾患の成因・病態・診断・治療の概要 2
- 第 3 回 肝・胆・膵疾患の成因・病態・診断・治療の概要 3
- 第 4 回 肝・胆・膵疾患の成因・病態・診断・治療の概要 4
- 第 5 回 循環器系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 1
- 第 6 回 循環器系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 2
- 第 7 回 循環器系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 3
- 第 8 回 循環器系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 4
- 第 9 回 腎・尿路系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 1
- 第 10 回 腎・尿路系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 2
- 第 11 回 腎・尿路系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 3
- 第 12 回 腎・尿路系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 4
- 第 13 回 神経・精神系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 1
- 第 14 回 神経・精神系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 2
- 第 15 回 疾病の成り立ちⅡのまとめ

評価方法

1. 筆記試験 100%
2. 評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

使用教材

1. 栄養科学イラストレイテッド臨床医学疾病の成り立ち・田中明ほか・羊土社・2013 年・2800 円
2. 教科書は授業および予習・復習で使用する。

授業外学習の内容

1. 授業前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。
2. 授業終了後復習をしておくこと。
3. 他教科に関連する項目を学ぶ際には、積極的にその部分を復習すること。

備考

疾病の成り立ちⅢ（専門基幹科目）

担当者

岡村 信一

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年前期 必修 2 単位

講義目標

管理栄養士として習得すべき疾病の成因・病態・診断・治療および栄養学との関わりについて学び、習得した知識を統合し臨床栄養管理に発展させられるようにする。「疾病の成り立ちⅢ」では、呼吸器系疾患、血液・造血器系疾患、運動器系疾患、皮膚系疾患、免疫・アレルギー系疾患、婦人科系疾患について取り上げる。

到達目標

1. 代表的な疾病の成因について理解し説明できる。
2. 代表的な疾病の病態について理解し説明できる。
3. 代表的な疾病の診断について理解し説明できる。
4. 代表的な疾病の治療について理解し説明できる。
5. 代表的な疾病と栄養学との関わりについて理解し説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 呼吸器系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 1
- 第 2 回 呼吸器系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 2
- 第 3 回 呼吸器系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 3
- 第 4 回 血液・造血器系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 1
- 第 5 回 血液・造血器系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 2
- 第 6 回 血液・造血器系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 3
- 第 7 回 運動器疾患の成因・病態・診断・治療の概要 1
- 第 8 回 運動器疾患の成因・病態・診断・治療の概要 2
- 第 9 回 皮膚系疾患の成因・病態・診断・治療の概要
- 第10回 免疫・アレルギー系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 1
- 第11回 免疫・アレルギー系疾患の成因・病態・診断・治療の概要 2
- 第12回 婦人科疾患の成因・病態・診断・治療の概要 1
- 第13回 婦人科疾患の成因・病態・診断・治療の概要 2
- 第14回 症例検討
- 第15回 疾病の成り立ちⅢのまとめ

評価方法

1. 筆記試験 100%
2. 評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

使用教材

1. 栄養科学イラストレイテッド臨床医学疾病の成り立ち・田中明ほか・羊土社・2013 年・2800 円
2. 教科書は授業および予習・復習で使用する。

授業外学習の内容

1. 授業前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。
2. 授業終了後復習をしておくこと。
3. 他教科で関連する項目を学ぶ際には、積極的にその部分を復習すること。

備考

疾病の成り立ち実習（専門基幹科目）

担当者

岡村 信一

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年後期 必修 1 単位

講義目標

「疾病の成り立ちⅠ、Ⅱ、Ⅲ」で取得した基礎知識について、実習を通してさらに理解を深めることを目的とする。「疾病の成り立ち実習」では、臨床診査の実施方法、臨床検査（血圧測定、尿検査、血糖検査、心電図検査、超音波検査など）、栄養・代謝系疾患の症例検討、消化器系疾患の症例検討、循環器系疾患の症例検討、腎・尿路系疾患の症例検討などを取り上げる。

到達目標

1. 代表的な臨床診査や検査について実施することができる。
2. 検査データを解釈し栄養管理へ結びつけることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 臨床診査実習 1
- 第 3 回 臨床診査実習 2
- 第 4 回 臨床診査実習 3
- 第 5 回 臨床診査実習のまとめ
- 第 6 回 臨床検査実習 1
- 第 7 回 臨床検査実習 2
- 第 8 回 臨床検査実習 3
- 第 9 回 臨床検査実習 4
- 第 10 回 臨床検査実習のまとめ
- 第 11 回 症例検討 1
- 第 12 回 症例検討 2
- 第 13 回 症例検討 3

評価方法

1. 評価方法については初回講義でアナウンスする。
2. 実習参加および実習態度 50%、レポート提出物 50%とし、総合的に評価する。

使用教材

1. 適宜プリントを配布する。
2. 栄養科学イラストレイテッド臨床医学疾病の成り立ち・田中明ほか・羊土社・2013 年・2800 円
3. 栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方・考え方・ケーススタディ・奈良信雄・医歯薬出版・2014 年・2500 円
4. 教科書は授業および予習・復習で使用する。

授業外学習の内容

次回の実習内容について関連する教科書等により予め勉強しておくこと。
実習後には実習内容をまとめて、習得した点や不明点について明らかにするとともに、教科書・文献等を参照・引用しながら考察を加えること。

食品学I (専門基幹科目)

担当者

松岡 寛樹

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

食品成分表に掲載されている食品の一般成分及び、色素、味、香気、有害成分等を理解することを目標とする。

到達目標

食品の各種成分を理解し、説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 食品の分類と食品成分表について
- 第 2 回 水分、炭水化物及び脂質について
- 第 3 回 アミノ酸・ペプチドについて
- 第 4 回 タンパク質について
- 第 5 回 酵素について
- 第 6 回 油脂について
- 第 7 回 ビタミンについて
- 第 8 回 無機質について
- 第 9 回 食品の色素成分について
- 第10回 味成分について
- 第11回 香気成分について
- 第12回 有害成分について
- 第13回 食品成分の変化（多糖類・脂質の変化）について
- 第14回 タンパク質の変化について
- 第15回 まとめ

評価方法

期末筆記試験 100%で評価する

使用教材

食品学 (東京化学同人)

授業外学習の内容

日常生活において食に関わる情報はあふれているため、積極的に入手しておく。
授業前には、必ず関連事項について、教科書を 3 回以上熟読する。
配付した問題集は必ず自分で解答し、周辺知識を講義ノートにまとめておく。

備考

化学の知識がない学生は、1 年生次の化学・有機化学充分理解しておくこと。特に、有機化学の分野は重要である。

食品学Ⅱ（専門基幹科目）

担当者

松岡 寛樹

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

食品の各種成分とその機能性について理解を深めることを目標とする。

到達目標

食品の各種機能性について説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 食品の機能（食品に含まれる生体調節作用物質）
- 第 2 回 特別用途食品と保健機能食品
- 第 3 回 機能性物質と生体との関わり
- 第 4 回 機能性物質の探索と構造
- 第 5 回 食品の抗酸化機能
- 第 6 回 食品のガン予防効果
- 第 7 回 食品の抗アレルギー機能
- 第 8 回 食品の生活習慣病予防効果
- 第 9 回 植物性食品の特性と機能性について 1
- 第10回 植物性食品の特性と機能性について 2
- 第11回 動物性食品の特性と機能性について 1
- 第12回 動物性食品の特性と機能性について 2
- 第13回 甘味料・調味料の特性と機能性について
- 第14回 嗜好飲料・発酵食品の特性と機能性について
- 第15回 まとめ

評価方法

期末筆記試験 100%で評価する

使用教材

食品学（東京化学同人）

授業外学習の内容

日常生活において食に関わる情報はあふれているため、積極的に入手しておく。
授業前には、必ず関連事項について、教科書を 3 回以上熟読する。
配付した問題集は必ず自分で解答し、周辺知識を講義ノートにまとめておく。

備考

化学の知識がない学生は、1 年次の化学・有機化学充分理解しておくこと。特に、有機化学の分野は重要である。

食べ物と健康基礎実験（専門基幹科目）

担当者

松岡 寛樹

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

食品の各種成分を理解する。

食品の一般成分について理解するためには、食品に対する化学的アプローチが不可欠である。そのために本実験では化学実験全般の基礎となる知識と技術および考え方を修得することを目標とする。

到達目標

1. 食品試料の取り扱い方や実験器具の取り扱い方を理解できる。
2. 化学理論と実験の関係が理解できる。
3. 食品の基本的な栄養学的・化学的特性を説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 実験をはじめる前に
- 第 2 回 魅せる科学実験（デモ）
- 第 3 回 基礎化学（原子、化学量、pH）
- 第 4 回 基礎化学（原子、化学量、pH）
- 第 5 回 器具の取り扱い
- 第 6 回 試薬の調製
- 第 7 回 水分・灰分の定量 1
- 第 8 回 水分・灰分の定量 2
- 第 9 回 脂質の定量 1
- 第 10 回 脂質の定量 2
- 第 11 回 油脂の化学的試験 1
- 第 12 回 油脂の化学的試験 2
- 第 13 回 まとめ

評価方法

期末筆記試験 100%で評価する。レポート提出と出席は必須である。

使用教材

わかりやすい基礎食品分析法（アイ・ケイコーポレーション）及びプリントの配付

授業外学習の内容

授業前には、必ず関連事項について、教科書を 3 回以上熟読する。

配付した問題集は必ず自分で解答し、周辺知識を講義ノートにまとめておく。

備考

化学の知識がない学生は、高校の化学を充分理解しておくこと。特に、モル計算や濃度計算は重要である。

食品学実験（専門基幹科目）

担当者

松岡 寛樹

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

基礎実験の知識・技術を基に、より複雑な食品の一般成分・機能性成分について、分析機器を活用した実験を行い、実験の進め方、分析機器の原理や方法、さらに得られたデータの示す意味および食品の機能性成分について総合的に理解することを目的とする。

到達目標

1. 食品の評価に対する実験化学的アプローチ法を身につける。
2. 複雑な食品の機能性成分の機器分析法とその原理について理解できる。
3. 分析データを解釈し、食品機能の評価に結びつけることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 タンパク質の定量 1
- 第 2 回 タンパク質の定量 2
- 第 3 回 糖質の定量 1
- 第 4 回 糖質の定量 2
- 第 5 回 ポリフェノールの定量と抗酸化活性 1
- 第 6 回 ポリフェノールの定量と抗酸化活性 2
- 第 7 回 有機酸の分析（滴定酸度）
- 第 8 回 食塩の定量（1）試料調製と滴定法による定量分析
- 第 9 回 食塩の定量（2）原子吸光光度計、デジタル塩分計による比較分析
- 第10回 脂肪酸の分析前処理法とガスクロマトグラフィーによる分析
- 第11回 アミノ酸の分析（1）タンパク質の加水分解とアミノ酸の抽出
- 第12回 アミノ酸の分析（2）HPLC によるアミノ酸の分析
- 第13回 まとめ

評価方法

期末筆記試験 100%で評価する。レポート提出と出席は必須である。

使用教材

わかりやすい基礎食品分析法（アイ・ケイコーポレーション）及びプリントの配付

授業外学習の内容

授業前には、必ず関連事項について、教科書を 3 回以上熟読する。

備考

化学の知識がない学生は、高校の化学を充分理解しておくこと。特に、モル計算や濃度計算は重要である。

食品加工学（専門基幹科目）

担当者

村松 芳多子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年前期 必修 1 単位

講義目標

栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める各種食品の加工・貯蔵原理や方法、容器包装食品、食品加工貯蔵に関する法規等について理解することを目標とする。

到達目標

食品加工法と主な加工食品、食品の貯蔵法、食品の包装、加工食品の製造規格と品質表示、法令と規格などを理解し、説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 食品加工貯蔵入門（概要、加工貯蔵とは、食品加工貯蔵の新技术等）
- 第 2 回 食品加工貯蔵の原理（食品の変敗、加工と貯蔵による食品の変化、食品の保存法）
- 第 3 回 農産食品加工貯蔵（穀類・いも類・野菜類等の加工貯蔵）
- 第 4 回 畜産食品加工貯蔵（肉類・乳類・卵類の加工貯蔵）
- 第 5 回 水産食品加工貯蔵（魚介類・海藻類の加工貯蔵品）
- 第 6 回 発酵食品加工貯蔵（味噌、醤油、納豆、食酢、みりん、ソース類）
- 第 7 回 嗜好食品の加工貯蔵（茶、コーヒー、清涼飲料水、菓子、酒、副素材の製造）
- 第 8 回 容器包装食品（食品と包装素材）、食品加工貯蔵に関する法規（表示と関連法規）

評価方法

期末試験（100%）にて評価する。

使用教材

新版食品加工学概論（同文書院）

授業外学習の内容

日常生活において食に関わる情報はあふれているため、積極的に入手しておく。事前に、教科書をよく読んで、不明な点などをチェックしておく。毎回の授業開始時に理解度を確認するための小テストを実施するので、当日の授業内容との関連を含めて復習しておくこと。

備考

食品加工学実習（専門基幹科目）

担当者

村松 芳多子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

食品の生育・生産から、加工を経て人に摂取されるまでの過程を学び、人体に対しての栄養面や安全面への影響や評価を理解して修得する。

「食品学Ⅰ、Ⅱ」や「食品加工学」で学んだことを基礎として実習し、より実践的に食品の嗜好性・栄養性・機能性の変化および品質保持技術と安全性の確保についての知識を深めることを目的とする。

到達目標

1. 各種食品原料の特性、特有成分の栄養的・嗜好的・化学的性質を理解し説明できる。
2. 食品の安全な取扱いの基本を修得する。
3. 食品加工製造方法および原理を理解し、実際に製造できる。
4. 食品の評価および選択の方法を理解する。
5. 食品表示および食品添加物について説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 農産物の加工 1 いちごジャム, マーマレード
- 第 2 回 農産物の加工 2 豆腐
- 第 3 回 農産物の加工 3 パン
- 第 4 回 農産物の加工 4 みかんの缶詰, 缶詰規格
- 第 5 回 農産物の加工 5 こんにゃく
- 第 6 回 農産物の加工 6 トマトケチャップ, ピクルス
- 第 7 回 農産物の加工 7 パスタ, うどん, 中華麺
- 第 8 回 畜産物の加工 1 ソーセージ
- 第 9 回 発酵食品の加工 1 ヨーグルト, 乳酸飲料
- 第 10 回 発酵食品の加工 2 納豆
- 第 11 回 発酵食品の加工 3 チーズ
- 第 12 回 水産物の加工 1 さつま揚げ
- 第 13 回 水産物の加工 2 魚の大和煮
- 第 14 回 嗜好飲料の加工 1 リキュール

評価方法

レポート (30%)、授業参加度 (35%)、貢献度 (35%) にて評価する

使用教材

専用の実験ノート (実験マニュアル) を作成するので、これを使用する

授業外学習の内容

日常生活において食に関わる情報はあふれているため、積極的に入手しておく。

事前に、教科書をよく読んで、不明な点などをチェックしておく。

配布資料にあるレポートの課題を実施すること。

試作品は必ず官能評価を行い、市販品との違いを明確化させること。

備考

工場見学を予定

食品衛生学（専門基幹科目）

担当者

村松 芳多子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年前期・後期・通年 必修 2 単位

講義目標

食品の安全に関する基本的な知識と衛生的取扱いやその原理に関する知識を習得し、人体に対しての栄養面や安全面等への影響や評価について理解することを目標とする。

到達目標

1. 食品における理化学的、微生物学的劣化の原理を理解し説明できる。
2. 食品の安全性を損なうウイルス、最近、かびなどの微生物の特徴や有害化学物質について説明できる。
3. 食品安全に関する基本的知識を説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 食品衛生学の概念（概要，食品中の微生物，食品の鮮度と保存）
- 第 2 回 食中毒 1（食中毒の発生状況，細菌性食中毒の概略，食品汚染）
- 第 3 回 食中毒 2（主な自然毒食中毒，化学物質による食中毒）
- 第 4 回 食品添加物 1（種類と用途）
- 第 5 回 食品添加物 2（食品添加物の安全性）
- 第 6 回 食品衛生関係法規 1（食品衛生法規，一般食品の規格）
- 第 7 回 食品衛生関係法規 2（食品の規格基準，国際食品規格）
- 第 8 回 食品衛生行政 1（食品等の検査，食品衛生監視，輸入食品監視）
- 第 9 回 食品衛生行政 2（環境汚染と食品公害，農薬の食品汚染，有害物質の生体内蓄積）
- 第10回 経口伝染病と寄生虫病等対策（赤痢，腸チフス，コレラ，伝染性下痢症，寄生虫病，有害昆虫，異物）
- 第11回 食品由来疾病対策（ウイルスによる嘔吐下痢症，リステリア菌感染症，狂牛病）
- 第12回 食品鮮度保持対策（危害分析重要管理事項；HACCP，食材料の仕入れから喫食までの汚染防止対策）
- 第13回 集団給食における衛生管理 1（施設衛生とその取扱）
- 第14回 集団給食における衛生管理 2（集団給食従事者の衛生管理，検食・保存食，事故発生時の対応）
- 第15回 まとめ

評価方法

期末試験により評価する。

使用教材

南江堂 定価 2,484 円（本体 2,300 円+税）新入門食品衛生学 改定第 2 版、著者：和泉喬／小田隆弘／貞包治夫／堀井正治／松岡麻男、ISBN978-4-524-26863-4 を毎授業で使用する。

参考文献：日本薬学会編集『衛生試験法注解 2010』（金原出版）

授業外学習の内容

事前に、教科書をよく読んで、不明な点などをチェックしておく。
食品衛生に関わるニュースや新聞記事に関心を持つことが大切である。

備考

食品衛生学実験（専門基幹科目）

担当者

村松 芳多子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

「食品衛生学」で習得した基礎知識について、実習を通してさらに理解を深めることを目的とする。「食品衛生学実験」では、化学物質の特性や検出方法、微生物の特性と取り扱い方、細菌やかびの検出、観察、取り扱い実験、保存料や発色剤などの食品添加物の検出実験を取り上げる。

到達目標

食品の衛生状態を維持する技術を身につけている。

1. 飲料水の水質検査ができる。
2. 食品の鮮度を測定できる。
3. 調理器具を衛生に管理することができる。
4. 食品の抗菌効果について理解できる。
5. 食品添加物の検出ができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 空中落下菌 1（実験の概要，微生物の取扱方等）
- 第 2 回 空中落下菌 2（集落の観察，グラム染色，鏡検）
- 第 3 回 飲料水の水質検査 1（残留塩素の測定，pH 測定，塩素イオン測定他）
- 第 4 回 飲料水の水質検査 2（硝酸性窒素，過マンガン酸カリウム消費量測定他）
- 第 5 回 食品の鮮度試験 1（食品の簡易鮮度試験，食品の生菌数測定他）
- 第 6 回 食品の鮮度試験 2（生菌数の算定，揮発性塩基窒素量の測定）
- 第 7 回 調理器具等の衛生検査 1（細菌手形，拭き取り検査）
- 第 8 回 調理器具等の衛生検査 2（食品中の大腸菌群数の測定）
- 第 9 回 調理器具等の衛生検査 3（大腸菌群の算定と分離，食器洗浄検査）
- 第10回 抗菌効果 1（保存料の抗菌力測定（ペーパーディスク法））
- 第11回 抗菌効果 2（防ばい剤の抗菌試験）
- 第12回 食品添加物の検出 1（食品防腐剤，食品中の発色剤・漂白剤の試験）
- 第13回 食品添加物の検出 2（食品中のソルビン酸の検出，タール色素の検出）
- 第14回 食中毒菌の分離検査 1（菌の培養，マンニット・ゼラチン分解能試験）
- 第15回 食中毒菌の分離検査 2（食中毒菌の鑑別，好塩性試験他）

評価方法

実験レポート（50%）及び期末試験（50%）により評価する。

使用教材

専用の実験ノート（実験マニュアル）を作成するので、これを使用する。

授業外学習の内容

実験内容を事前によく読み、実験の手順をイメージしておくこと。
また実施した実験の重要ポイントをメモにしてテキストに書き込んでおくこと。

備考

調理学（専門基幹科目）

担当者

綾部 園子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

調理とは、食品に手を加え、安全性・栄養性・嗜好性の高い食べ物にする過程である。「調理学」では人間と食べ物との関わりについての歴史の変遷、食べ物の嗜好性を学び、さらに栄養面・安全面・嗜好面の各特性を高める調理の方法を理解して修得することを目標とする。

到達目標

1. 食べ物のおいしさとその知覚について説明できる。
2. 種々の調理操作を理解し説明できる。
3. 食生活・食文化・食事計画について説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 調理学の概要：調理の意義・目的
- 第 2 回 食生活・食文化
- 第 3 回 食物の嗜好性（おいしさ）(1) おいしさとは・食べ物の特性要因
- 第 4 回 食物の嗜好性（おいしさ）(2) 食べる人の要因
- 第 5 回 食物の嗜好性（おいしさ）(3) おいしさの評価
- 第 6 回 調理操作 (1) 非加熱調理操作
- 第 7 回 調理操作 (2) 加熱調理操作（伝熱・湿式加熱）
- 第 8 回 調理操作 (3) 加熱調理操作（乾式加熱）
- 第 9 回 調理操作 (4) 加熱調理操作（誘電・誘導加熱）
- 第 10 回 調理操作 (5) 調味について
- 第 11 回 調理機器：調理機器
- 第 12 回 食事計画 (1) 食生活指針・食事バランスガイド・食事摂取基準
- 第 13 回 食事計画 (2) 食品成分表・食品構成
- 第 14 回 食事計画 (3) 献立作成・供食
- 第 15 回 これからの調理・食生活の行方

評価方法

筆記試験 60%、小テスト 30% (15%×2)、レポート 10%、授業時のコメントシートによる加点 (10 点まで) あり

使用教材

栄養管理と生命科学シリーズ「調理の科学」、吉田恵子、綾部園子編、理工図書、3000 円

授業外学習の内容

1. 教科書の指定箇所を授業時間前に読んでおくこと。
2. 单元ごとに小テストを行うので、復習しておくこと。

備考

キーワード：おいしさの要因、官能評価、伝熱、調理操作、食文化、食事の設計
担当者とのコンタクト：1 号館 405 研究室または調理学研究室に常駐。

時間がかかりそうな質問・相談は、メールでアポイントメントをとること。

メールアドレス：ayabe@takasaki-u.ac.jp

調理科学（専門基幹科目）

担当者

綾部 園子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

食品が調理を経て人に摂取されるまでの過程を学ぶとともに、人体に対しての栄養面や安全面等への影響や評価を理解する。

調理の要点は、調理操作による食品の物理的、化学的、組織学的変化を望ましい状態に制御することであり、そのためには個々の食品の調理特性を熟知しておく必要がある。「調理科学」では食品の調理特性を学び、栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める食品の調理の方法を理解して修得する。食品の物性および嗜好性とその評価方法について理解して修得する。

到達目標

1. 食品の調理特性、物性等について理解し説明できる。
2. 食品の嗜好面・栄養面の特性を高める調理の方法を理解し説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 調理科学とは（調理学の復習を含む）
- 第 2 回 食品の調理性（1）炭水化物を主成分とする食品 1 米
- 第 3 回 食品の調理性（2）炭水化物を主成分とする食品 2 小麦
- 第 4 回 食品の調理性（3）炭水化物を主成分とする食品 3 いも、豆
- 第 5 回 食品の調理性（4）たんぱく質を主成分とする食品 1 肉
- 第 6 回 食品の調理性（5）たんぱく質を主成分とする食品 2 魚、卵
- 第 7 回 食品の調理性（6）たんぱく質を主成分とする食品 3 乳、大豆
- 第 8 回 食品の調理性（7）ビタミン・無機質の給源となる食品
- 第 9 回 食品の調理性（8）成分抽出素材の調理性
- 第10回 食品の調理性（9）成分抽出素材の調理性
- 第11回 テクスチャーと咀嚼活動
- 第12回 レオロジー測定法
- 第13回 官能評価法
- 第14回 ゲル化剤の種類と特徴
- 第15回 ゲル化剤の種類と特徴

評価方法

筆記試験 60%、小テスト 30%（15%×2）、レポート 10%、授業時のコメントシートによる加点（10 点まで）あり

使用教材

栄養管理と生命科学シリーズ「調理の科学」、吉田恵子、綾部園子編、理工図書、3000 円

授業外学習の内容

1. 1 年生時の調理学で履修した内容と毎回の講義内容は全て関連し、食品学等の科目とも関連しているので調理学の教科書を予習復習するとともに、他科目の関連部分についても確認すること。
2. 単元ごとに小テストを行うので、復習しておくこと。

備考

キーワード：糊化、凝固、色、テクスチャー、官能評価

担当者とのコンタクト：1号館 405 研究室または調理学研究室に常駐。時間がかかりそうな質問・相談は、メールでアポイントメントをとること。メールアドレス：ayabe@takasaki-u.ac.jp

調理学実習 I (専門基幹科目)

担当者

綾部 園子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年前期 必修 1 単位

講義目標

食物摂取の最終段階である調理を通して、食品が人に摂取されるまでの過程を理解するとともに、人々の健康をサポートする管理栄養士として必要な調理の基礎について、実習をとおして学び、確かな知識と技術を習得することを目的とする。

到達目標

1. 衛生に留意し、安全に調理ができる
2. 日常の基礎的な調理を作ることが出来る

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス：調理実習の意義、調理実習室の使い方・実習心得
第 2 回 白飯、豆腐・なめこだけのみそ汁（煮干しだし汁）、厚焼き卵、ほうれん草のごま和え（野菜のゆで方）
第 3 回 塩さけとしその寿司（すし飯）、しめ卵のすまし汁（かつおだし汁）、若竹煮、水羊羹（寒天の調理）
第 4 回 食育実習
第 5 回 たきこみ飯（味付け飯）、えびしんじょうの吸い物（混合だし汁）、きゅうりの酢の物、鶏の照り焼き（肉の焼き物）
第 6 回 こわ飯（もち米）、あじの姿焼き（魚の扱い）、筑前煮（煮物）、三州みそ汁（みその種類）
第 7 回 西洋料理について、ハンバーグステーキ（ひき肉調理）、コンソメジュリエヌ（スープストックのとり方）、グリーンサラダ、ミルクピラフ（ピラフ）
第 8 回 カレーライス（ルウ）、マセドアンサラダ（マヨネーズ）、コーヒーゼリー（ゼラチンの扱い）
第 9 回 いわしのハーブ焼き（魚の手開き）、コーンポタージュ、ババロア（ゼラチンと生クリームでの扱い）、小豆のケーキ
第10回 中国料理について、清湯水蓮（湯のとり方）、棒棒鶏、鶏蛋ガオ（卵白のあわ立て）
第11回 白肉片（冷菜）、桂花蟹羹（湯菜）、高麗魚条（炸菜）、杏仁豆腐（点心）、白飯
第12回 青椒牛肉絲、かに玉、玉米湯、涼拌茄子
第13回 饅頭、蕃茄蛋花湯、涼拍黄瓜
第14回 小麦粉調理（手打ちうどん、てんぷら）、みぞれあえ
第15回 まとめ（調理技術と知識の到達度の確認）

評価方法

筆記試験 30%、実技試験 20%、レポート 30%、実習への積極性 20%

使用教材

「フード&クッキング」三訂版、実教出版 500 円

授業外学習の内容

1. 事前にテキストを読んで、調理手順を把握しておくこと。
2. 実習後レポートを提出する。
3. レポートには、調理のポイントと実習内容に関連した事項を調べてまとめること。

備考

1. ユニフォーム、クッキングシューズを着用すること。
 2. 実習内容をデモンストレーションで把握し、実習・試食・実習後片づけまで一連の作業を授業内容とする。
 3. キーワード：安全、衛生、味覚、基礎調理
- 担当者とのコンタクト：1号館 405 研究室または調理学研究室に常駐。

調理学実習Ⅱ（専門基幹科目）

担当者

綾部 園子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年後期 必修 1 単位

講義目標

前期の「調理学実習Ⅰ」を基礎として、栄養面・衛生面・嗜好面の各特性を高める調理を応用・発展する力を身につけ、人体に対して適切な食事を提供できる確かな知識と技術を修得することを目標とする。

到達目標

1. 応用的な調理技術を修得する
2. 安全で衛生的に調理をつくることができる
3. 主な食品の調理性を説明できる
4. 適切な調味、供卓方法ができる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 日本料理：かれの煮付け、白和え、豚汁、白飯、まんじゅう
第 2 回 日本料理：栗ご飯、茶碗蒸し、さばの竜田揚げ、ブロッコリーのからしゴマ和え、じょうよまんじゅう
第 3 回 日本料理：巻きずし、いなりずし、手まりずし、すまし汁、煮浸し
第 4 回 中華料理：鍋貼餃子、えびチリソース、酢辣菜、抜絲地瓜、白飯
第 5 回 中華料理：中華おこわ、古嚙肉、酢辣湯、拌蘿蔔竜、杏仁酥
第 6 回 中華料理：珍珠丸子、糖醋鱈魚、マンゴープリン、きのこスープ、白飯
第 7 回 西洋料理：スパゲッティミートソース（パスタの扱い）、クラムチャウダー（ホワイトルウ）、カスタードプディング（卵の凝固）、コールスロー
第 8 回 西洋料理：鶏のクリーム煮、ミネストローネ、パン
第 9 回 ドイツ料理、ウィーンナーシュニッツェル、カルトツフェルザラード、アプルストゥルーデル、ミルファンティ
第10回 韓国料理、ビビンバ、あじの韓国風照り焼き、オイキムチ、ミヨックク
第11回 行事食（クリスマス料理）：ブッシュドノエル、パンプキンスープ、ローストチキン、キャロットライス
第12回 行事食（正月料理）：田作り、松風焼き、伊達巻、栗きんとん、紅白なます、野菜の煮しめ、雑煮
第13回 スペイン料理：パエリア、ソパ・デ・リノン、にんじんのサラダ、シュークリーム
第14回 西洋料理テーブルマナー
第15回 実技試験、筆記試験

評価方法

筆記試験 30%、実技試験 20%、レポート 30%、実習への積極性 20%

使用教材

「フード&クッキング」三訂版、実教出版 500 円

「調理のためのベーシックデータ」女子栄養大学出版部 1800 円

授業外学習の内容

1. 事前にテキストを読んで、調理手順を把握しておくこと。
2. レポートには、調理のポイントと実習内容に関連した事項を調べ、実習メニューの栄養価計算をすること。

備考

1. ユニフォーム、クッキングシューズを着用すること。
2. キーワード：安全、衛生、味覚、応用調理。
3. 担当者とのコンタクト：1号館 405 研究室または調理学研究室に常駐。

基礎栄養学（専門科目）

担当者

永井 俊匡

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

栄養とは何か、その意義について理解することを目標とする。特に、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解し、エネルギー代謝と栄養素の代謝、およびそれらの生理学的意義を理解することを目標とする。

到達目標

1. 栄養と栄養素の用語の違いを、説明できる。
2. 栄養における各栄養素の役割を、説明できる。
3. エネルギー代謝の概要と意義を、説明できる。
4. 各栄養素の消化・吸収の流れを、説明できる。
5. 各栄養素がどう代謝されるかを、説明できる。
6. 健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を、説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 栄養の概念
- 第 2 回 食物の摂取
- 第 3 回 消化・吸収と栄養素の体内動態
- 第 4 回 糖質の栄養 (1) 血糖とその調節
- 第 5 回 糖質の栄養 (2) エネルギー源としての作用、糖質の体内代謝
- 第 6 回 脂質の栄養 (1) 脂質の臓器間輸送
- 第 7 回 脂質の栄養 (2) 脂質の体内代謝、脂肪酸由来の生理活性物質
- 第 8 回 たんぱく質の栄養 (1) たんぱく質・アミノ酸の体内代謝
- 第 9 回 たんぱく質の栄養 (2) 摂取するたんぱく質の量と質の評価
- 第10回 ビタミンの栄養 (1) 脂溶性ビタミン
- 第11回 ビタミンの栄養 (2) 水溶性ビタミン
- 第12回 ミネラルの栄養 (1) 多量ミネラル、微量ミネラル
- 第13回 ミネラルの栄養 (2) 鉄の代謝
- 第14回 水・電解質の栄養学的意義
- 第15回 エネルギー代謝

評価方法

筆記試験 100%

使用教材

「栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学」田地陽一編、羊土社 2012 年、2,800 円。
基本的にテキストに沿って授業を進める。

授業外学習の内容

1. 事前にテキストを予習しておく。
2. テキストのサブノート「栄養科学イラストレイテッド演習版基礎栄養学ノート」（田地陽一編、羊土社 2012 年、2,600 円）を予習として演習しておくことを推奨する。

3. 復習として、テキストおよびサブノートの章末問題を演習する。

備考

受講資格：「有機化学 II」を履修済みであることが望ましい。

キーワード：糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル代謝。

参考書：「健康・栄養科学シリーズ基礎栄養学改訂第 4 版」奥恒行・柴田克己編、南江堂 2012 年、2,800 円。

説明が詳しい。分からないことを調べるときに辞書的な使い方としても役立つ。

担当者とのコンタクト：1 号館 504 研究室または 1 号館 4F 栄養学研究室に常駐。時間がかかりそうな質問・相談は、メールでアポイントメントをとること。メールアドレス：tnagai@takasaki-u.ac.jp

基礎栄養学実験（専門科目）

担当者

永井 俊匡

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年後期 必修 1 単位

講義目標

1. 栄養素の化学的性質・ヒト体内での代謝過程を、実験を通して理解することを目標とする。
2. 栄養素に関する定性実験・定量実験の基礎を身につけることを目標とする。
3. データ処理・科学的考察・レポート記述能力を身につけることを目標とする。

到達目標

1. 各栄養素の消化酵素・消化補助物質の働きを説明できる。
2. タンパク質電気泳動の原理を説明できる。
3. 実験結果の正しい計算、および目的に合ったデータ処理を行うことができる。
4. 実験結果と科学的知識から、適切な結論を導き出すことができる。
5. 論理的かつ読み手に理解しやすい文章で、レポートを記述できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 タンパク質の消化 (1) ガイダンス、試薬・器具等の準備
第 2 回 タンパク質の消化 (2) 卵白の人工消化
第 3 回 タンパク質の消化 (3) 卵白消化物の電気泳動
第 4 回 タンパク質の消化 (4) 電気泳動結果の検討、まとめ講義
第 5 回 脂質の消化 (1) ガイダンス
第 6 回 脂質の消化 (2) 脂質の人工消化
第 7 回 脂質の消化 (3) 酸価測定
第 8 回 脂質の消化 (4) まとめ講義
第 9 回 リボフラビンの抽出 (1) ガイダンス
第10回 リボフラビンの抽出 (2) 牛乳中のリボフラビンの抽出
第11回 リボフラビンの抽出 (3) リボフラビンの定量
第12回 リボフラビンの抽出 (4) まとめ講義

評価方法

レポート (60%)、実験への積極性 (40%)

使用教材

教員が作成した実験書を、各部のガイダンスの日にそれぞれ配布する。

授業外学習の内容

1. 自ら考え、自発的に行動することを重視するので、細かい指示は行わない。したがって事前に実験書を予習し、手順をイメージしておく。
2. 実験原理について、図書資料等で調べておく。

備考

受講資格：「基礎栄養学」を履修済みであることが望ましい。

キーワード：タンパク質、SDS-PAGE、脂質、リボフラビン。

受講のルール：

1. 電卓・キッチンタイマー・ノートパソコン・デジカメは、使用可。
2. 実験中は飲食禁止。ガイダンス等の講義中は飲み物を許可。
3. 実験中は白衣を着用。
4. 安全を第一とし、指示に従う。
5. 薬品類・機器類は、事前に説明を聞いてから使用する。

担当者とのコンタクト：1号館 504 研究室または 1号館 4F 栄養学研究室に常駐。時間がかかりそうな質問・相談は、メールでアポイントメントをとること。メールアドレス：tnagai@takasaki-u.ac.jp

応用栄養学 I (専門科目)

担当者

曽根 保子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の機能等を理解し、健康への影響に関するリスク管理の基本的考え方や方法について理解する。

到達目標

- 1.健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の機能等を説明できる。
- 2.栄養素の健康への影響に関するリスク管理の基本的考え方や方法について説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 栄養素の健康への影響に関するリスク管理の基本的考え方
- 第 2 回 食事摂取基準の策定の根拠と基礎理論 1
- 第 3 回 食事摂取基準の策定の根拠と基礎理論 2
- 第 4 回 エネルギー産生栄養素の機能と健康への影響に関するリスク管理の考え方 1
- 第 5 回 エネルギー産生栄養素の機能と健康への影響に関するリスク管理の考え方 2
- 第 6 回 エネルギー産生栄養素の機能と健康への影響に関するリスク管理の考え方 3
- 第 7 回 エネルギー産生栄養素の機能と健康への影響に関するリスク管理の考え方 4
- 第 8 回 脂溶性ビタミンの機能と健康への影響に関するリスク管理の考え方 1
- 第 9 回 脂溶性ビタミンの機能と健康への影響に関するリスク管理の考え方 2
- 第10回 水溶性ビタミンの機能と健康への影響に関するリスク管理の考え方 1
- 第11回 水溶性ビタミンの機能と健康への影響に関するリスク管理の考え方 2
- 第12回 水溶性ビタミンの機能と健康への影響に関するリスク管理の考え方 3
- 第13回 多量ミネラルの機能と健康への影響に関するリスク管理の考え方 1
- 第14回 微量ミネラルの機能と健康への影響に関するリスク管理の考え方 1
- 第15回 まとめ

評価方法

期末試験(筆記試験)の結果を 80%、毎回の小テストの提出および結果を 20%として評価する。
毎回の授業に出席することを前提とする。

使用教材

1. Nブックス四訂応用栄養学、建帛社、江澤郁子・津田博子編、2014 年
2. 縮刷版日本人の食事摂取基準[2015 年版]、菱田明・佐々木敏監修、第一出版、2014 年
授業および授業の予習・復習に使用する。

授業外学習の内容

1. 授業の該当箇所を予め読み、分からない事柄を調べておく。
2. 授業後は、授業で実施した箇所の復習を行う。
3. 毎回実施する小テストが完答できるまで繰り返し復習する。

備考

キーワード：栄養アセスメント、食事摂取基準、ライフステージ

オフィスアワー：初回の講義でアナウンスする（1 号館 306 研究室）

問い合わせメールアドレス：sone-y@takasaki-u.ac.jp

相談・質問がある場合はできるだけアポイントメントを取るようになしてください。

応用栄養学Ⅱ（専門科目）

担当者

曽根 保子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について十分に理解する。また、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解する。

到達目標

1. 妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について理解している。
2. 身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態の変化について
- 第 2 回 妊娠期における体の構造・機能と栄養状態の変化 1
- 第 3 回 妊娠期における体の構造・機能と栄養状態の変化 2
- 第 4 回 分娩期における体の構造・機能の変化
- 第 5 回 産褥期における体の構造・機能と栄養状態の変化
- 第 6 回 授乳期における体の構造・機能と栄養状態の変化
- 第 7 回 乳児期における体の構造・機能と栄養状態の変化
- 第 8 回 離乳期における体の構造・機能と栄養状態の変化
- 第 9 回 幼児期における体の構造・機能と栄養状態の変化
- 第10 回 学童期・思春期における体の構造・機能と栄養状態の変化
- 第11 回 成人期における体の構造・機能と栄養状態の変化
- 第12 回 更年期における体の構造・機能と栄養状態の変化
- 第13 回 高齢期における体の構造・機能と栄養状態の変化
- 第14 回 ストレス負荷時における体の構造・機能と栄養状態の変化、生活リズムについて
- 第15 回 低温・高温環境、低圧・高圧環境における体の構造・機能と栄養状態の変化

評価方法

期末試験（筆記試験）の結果を 80%，毎回の小テストの提出および結果を 20%として評価する。
毎回の授業に出席することを前提とする。

使用教材

- 1.Nブックス四訂応用栄養学、建帛社、江澤郁子・津田博子編、2014 年
 - 2.縮刷版日本人の食事摂取基準[2015 年版]、菱田明・佐々木敏監修、第一出版、2014 年
- 授業および授業の予習・復習に使用する。

授業外学習の内容

1. 授業の該当箇所を予め読み、分からない事柄を調べておく。
2. 授業後は、授業で実施した箇所の復習を行う。
3. 毎回実施する小テストが完答できるまで繰り返し復習する。

備考

キーワード：栄養アセスメント、食事摂取基準、ライフステージ

オフィスアワー：初回の講義でアナウンスする（1 号館 306 研究室）

問い合わせメールアドレス：sone-y@takasaki-u.ac.jp

相談・質問がある場合はできるだけアポイントメントを取るようになしてください。

応用栄養学実習（専門科目）

担当者

曾根 保子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年前期 必修 1 単位

講義目標

妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について十分に理解し、栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）の基本的考え方を習得する。

到達目標

1. 妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について説明できる。
2. 1 を踏まえた上で、栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）の基本的考え方を説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 栄養状態の栄養アセスメントの基本的考え方
- 第 2 回 乳児期の栄養アセスメントの基本的考え方（離乳前）
- 第 3 回 離乳期の栄養アセスメントの基本的考え方
- 第 4 回 幼児期・学童期の栄養アセスメントの基本的考え方
- 第 5 回 幼児期・学童期の栄養アセスメントの基本的考え方（施設）
- 第 6 回 思春期の栄養アセスメントの基本的考え方
- 第 7 回 成人期の栄養アセスメントの基本的考え方
- 第 8 回 高齢期の栄養アセスメントの基本的考え方
- 第 9 回 高齢期（70 歳）の栄養アセスメントの基本的考え方
- 第 10 回 妊娠前期の栄養アセスメントの基本的考え方
- 第 11 回 妊娠中期・後期の栄養アセスメントの基本的考え方
- 第 12 回 授乳期の栄養アセスメントの基本的考え方
- 第 13 回 まとめ

評価方法

期末試験（課題）の結果を 60%、実習参加態度を 40%として評価する。
毎回の授業に出席することを前提とする。

使用教材

1. NEXT 応用栄養学実習、講談社サイエンティフィック、木戸康博／小林ゆき子編、2013 年
2. 縮刷版日本人の食事摂取基準 [2015 年版]、菱田明・佐々木敏監修、第一出版、2014 年
授業および授業の予習・復習、課題実施時に使用する。

授業外学習の内容

1. 授業の該当箇所を予め読み、分からない事柄を調べておく。
2. 授業後は、授業で取り扱った課題を実施する。
3. 実習のための計画や食材調達などの準備を行うことがある。

備考

キーワード：栄養アセスメント、食事摂取基準、ライフステージ
オフィスアワー：初回の講義でアナウンスする（1 号館 306 研究室）
問い合わせメールアドレス：sone-y@takasaki-u.ac.jp

相談・質問がある場合はできるだけアポイントメントを取るようにしてください。

スポーツ栄養学（専門科目）

担当者

木村 典代

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

身体活動状況に応じた栄養管理の考え方を理解すること。
身体活動時の人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について十分に理解し、身体活動時の栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）ができるようになること。

到達目標

1. 身体活動と生理機能の関係を説明できる。
2. 身体活動時に生じやすい栄養学的障害を説明できる。
3. 身体活動時の糖質・たんぱく質・ビタミン・ミネラルの代謝を説明できる。
4. 身体活動時の水分補給・栄養補給について説明できる。
5. 身体活動基準・指針を理解しメッツ計算ができる。
6. 身体活動時のエネルギー代謝を理解し、消費エネルギー量の計算ができる。
7. 身体活動のメリットを説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 身体活動時の生理機能（呼吸循環器系機能）
- 第 2 回 身体活動時の生理機能（骨格筋機能）
- 第 3 回 身体活動時の生理機能（内分泌・血液生化学・疲労）
- 第 4 回 身体組成・摂食障害・ウエイトコントロール
- 第 5 回 スポーツ性貧血・骨代謝
- 第 6 回 身体活動とエネルギー代謝
- 第 7 回 身体活動と糖質代謝
- 第 8 回 身体活動とたんぱく質代謝
- 第 9 回 コンディション維持とビタミン摂取・サプリメント
- 第10回 水分補給
- 第11回 運動前後の食事
- 第12回 身体活動基準・指針 1
- 第13回 身体活動基準・指針 2
- 第14回 体力と運動処方と運動負荷試験
- 第15回 まとめ運動の健康影響

評価方法

「期末試験」80%、「平常点」20%とする。

平常点は、

1. 毎回予習・復習を行った上で授業に臨んでいるか。
2. 第 5 回、第 11 回、第 14 回の授業内容が終わったあとに実施する小テスト。
3. 積極的な授業への参加の状況を含む。

期末試験は、

1. 身体活動時の生理機能を説明できるか。
2. 身体活動時に生じやすい栄養障害を説明できるか。
3. 身体活動時の糖質・たんぱく質・ビタミン・ミネラルの代謝を説明できるか。
4. 身体活動時の水分補給・栄養補給について説明できるか。

5. 身体活動基準・指針を理解しメッツ計算をつかいこなすことができるか。
 6. 消費エネルギー量の計算ができるか。
 7. 身体活動の健康へのメリットを説明できるかを評価する。
- 評価方法の基準については講義初回時と終了時にアナウンスする。

使用教材

コンディショニングのスポーツ栄養学、市村出版、樋口満編著 2600 円

教科書は基本的に授業の予習・復習用として使用する。講義毎に配布するプリントと教科書およびパワーポイントを併用して講義を進める。

授業外学習の内容

<事前学習>

1. 解剖生理学、生化学、基礎栄養学、応用栄養学 I・II を授業に臨む前によく復習しておくこと。
2. 各回の授業に備えて、教科書の該当箇所に目を通し理解につとめる。
3. わからない単語は調べておく。

<事後学習>

1. 各回の授業終了時に課す課題を実施すること。

備考

キーワード：メタボリックシンドローム・ロコモティブシンドローム予防、身体活動基準・アクティブガイド、エネルギー補給、競技スポーツ、スポーツ障害

オフィスアワー：講義のある曜日の 13:00-17:00 (1 号館 301 研究室)

問い合わせ先：kimura@takasaki-u.ac.jp

相談・質問がある場合はあらかじめアポイントメントを取るようになしてください。

栄養教育論 I (専門科目)

担当者

木村 典代

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるよう健康や生活の質(QOL)の向上につながる主体的な実践力形成の支援に必要な健康・栄養教育の理論や方法を修得する。特に「栄養教育論 I」では栄養教育の定義・目的、行動科学やカウンセリングの理論と方法を修得することを目標とする。

1. 管理栄養士・栄養士が実施する栄養教育と指導の定義や目的・目標を把握する。
2. 栄養教育のアセスメントおよび実施において、必要となる行動科学の基本を修得する。
3. 個人指導の際に必要なカウンセリング技法の理論を習得する。
4. 栄養教育の効果と組織・地域が関係していることを把握する。

到達目標

1. 栄養教育を行う目的を説明できる。
2. 栄養教育のアセスメントおよび実施において必要となる行動科学の理論を説明できる。
3. 栄養教育に必要なカウンセリング技法の理論を説明できる。
4. 組織や地域とづくりと食環境づくりの関係を説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 栄養教育の定義
- 第 2 回 栄養教育の目的と目標
- 第 3 回 食行動変容と栄養教育 1 (刺激・反応理論、ヘルスビリーフモデル)
- 第 4 回 食行動変容と栄養教育 2 (トランスセオレティカルモデル)
- 第 5 回 食行動変容と栄養教育 3 (行動意思理論、社会的認知理論)
- 第 6 回 食行動変容と栄養教育 4 (ソーシャルネットワーク、コミュニティオーガニゼーション)
- 第 7 回 食行動変容と栄養教育 5 (プリシード・プロシードモデル・その他の行動科学モデル)
- 第 8 回 行動科学技法 1
- 第 9 回 行動科学技法 2
- 第10回 カウンセリング技法 1
- 第11回 カウンセリング技法 2
- 第12回 組織・地域づくりと食環境づくり 1
- 第13回 組織・地域づくりと食環境づくり 2
- 第14回 組織・地域づくりと食環境づくり 3
- 第15回 まとめ

評価方法

「期末試験」80%、「平常点」20%とする。平常点は、

1. 毎回予習・復習を行った上で授業に臨んでいるか
2. 第 2 回、第 8 回、第 12 回、第 15 回の授業内容が終わったあとに実施する小テスト、
3. 積極的な授業への参加の状況 を含む

期末試験は、

1. 栄養教育の目的は何か
2. 行動科学理論・モデルのフレームワークができるか
3. カウンセリング技法の種類や手法について理解できているか
4. 栄養教育と組織・地域づくりの関係や食環境整備について理解できているかを問う。

評価方法の基準については講義初回時と終了時にアナウンスする。

使用教材

N ブックス・栄養教育論 下田妙子編著・建帛社・2013 年・2300 円 ISBN9078-4-7679-0463-4

教科書は基本的に授業の予習・復習用として使用する。

講義毎に配布するプリントと教科書およびパワーポイントを併用して講義を進める。

授業外学習の内容

<事前学習>

1. 各回の授業に備えて、教科書の該当箇所に目を通し理解につとめる。
2. わからない単語は調べておく。

<事後学習>

1. 各回の授業終了時に課す課題を実施すること。
2. 自分の生活環境の中で、栄養教育論の中で学んだ知識や技術をどう活かせるか、その可能性について考察をすること。

備考

キーワード：行動変容・行動科学・栄養カウンセリング・食環境・栄養教育マネジメント

オフィスアワー：講義のある曜日の 13:00-17:00 (1 号館 301 研究室)

問い合わせ先：kimura@takasaki-u.ac.jp

相談・質問がある場合はあらかじめアポイントメントを取るようになしてください。

栄養教育論Ⅱ（専門科目）

担当者

木村 典代

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

対象に応じた栄養教育プログラムの作成・評価のために必要な、健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析の方法、栄養教育プログラム実施の理論と方法を講義・演習形式で習得することを目標とする。

1. 栄養教育に必要なアセスメントの種類とその特徴を修得する。
2. 対象に応じた栄養教育の目標の種類とその特徴を修得する。
3. 対象に応じた栄養教育方法とその特徴を修得する。
4. 栄養教育プログラムの作成・実施方法を修得する。

到達目標

1. 栄養教育に必要なアセスメントの種類とその特徴を説明できる。
2. 対象に応じた栄養教育の目標の種類とその特徴を説明できる。
3. 対象に応じた栄養教育の方法とその特徴を説明できる。
4. 栄養教育プログラムの作成・実施方法を説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 栄養教育マネジメントの概要
- 第 2 回 栄養教育マネジメントアセスメント 1
- 第 3 回 栄養教育マネジメントアセスメント 2
- 第 4 回 栄養教育マネジメント目標設定
- 第 5 回 栄養教育マネジメント計画 1
- 第 6 回 栄養教育マネジメント計画 2
- 第 7 回 栄養教育マネジメント教材の特徴
- 第 8 回 栄養教育マネジメント教材作成
- 第 9 回 栄養教育マネジメントグループ討論の方法と実践
- 第10回 栄養教育マネジメントプレゼンテーション
- 第11回 栄養教育マネジメントコミュニケーション
- 第12回 栄養教育マネジメントプログラムの実行 1
- 第13回 栄養教育マネジメントプログラムの実行 2
- 第14回 栄養教育マネジメント評価・改善
- 第15回 栄養教育マネジメントまとめ

評価方法

「期末試験」80%、「平常点」20%とする。平常点は、

1. 毎回予習・復習を行った上で授業に臨んでいるか
2. 第 5 回、第 8 回、第 14 回の授業内容が終わったあとに実施する小テスト
3. 積極的な授業への参加の状況 を含む

期末試験は、

1. 栄養教育マネジメントの一連の流れを理解できているか
2. 栄養教育の計画立案ができるか
3. 栄養教育の実施ができるか
4. 栄養教育実施後の評価改善ができるか

5. 栄養教育プログラムの評価・改善を行うことができるかを問う。
評価方法の基準については講義初回時と終了時にアナウンスする。

使用教材

N ブックス・栄養教育論 下田妙子編著・建帛社・2013 年・2300 円 ISBN9078-4-7679-0463-4
教科書は基本的に授業の予習・復習用として使用する。

授業外学習の内容

<事前学習>

1. 各回の授業に備えて、教科書の該当箇所に目を通し理解につとめる。
2. わからない単語は調べておく。

<事後学習>

1. 各回の授業終了時に課す課題を実施すること。
2. 自分の生活環境の中で、栄養教育論の中で学んだ知識や技術をどう活かせるか、その可能性について考察をすること。

備考

キーワード：行動変容・行動科学・栄養カウンセリング・食環境・栄養教育マネジメント
オフィスアワー：講義のある曜日の 13:00-17:00 (1 号館 301 研究室)
問い合わせ先：kimura@takasaki-u.ac.jp
相談・質問がある場合はあらかじめアポイントメントを取るようになしてください。

栄養教育論Ⅲ（専門科目）

担当者

木村 典代

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年前期 必修 2 単位

講義目標

栄養教育のデザインと総合的な評価の方法とその特徴、および身体的、精神的、社会的状況等ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方や方法を講義・演習形式で修得することを目標とする。

1. 栄養教育のデザインと評価の方法とその特徴を修得する。
2. 対象者の特性に応じた栄養教育の特徴を修得する。
3. 対象者の特性に応じた栄養教育プログラムの作成方法を修得する。

到達目標

1. 栄養教育のデザインと評価の方法とその特徴を説明できる。
2. 対象者の特性に応じた栄養教育の特徴を説明できる。
3. 対象者の特性に応じた栄養教育プログラムを作成できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 栄養教育の評価
- 第 2 回 栄養教育のバイアス
- 第 3 回 妊娠期の栄養教育
- 第 4 回 授乳期の栄養教育
- 第 5 回 乳児期の栄養教育
- 第 6 回 幼児期の栄養教育
- 第 7 回 学童期の栄養教育
- 第 8 回 思春期の栄養教育、身体活動量の多い人への栄養教育
- 第 9 回 成人期の栄養教育 1 職域 単身者 外国人
- 第 10 回 成人期の栄養教育 2 特定保健指導
- 第 11 回 成人期の栄養教育 3 疾病別 1
- 第 12 回 成人期の栄養教育 4 疾病別 2
- 第 13 回 高齢者の栄養教育
- 第 14 回 障害者の栄養教育
- 第 15 回 ライフスタイル・ステージ別栄養教育のまとめ

評価方法

「期末試験」80%、「平常点」20%とする。平常点は、

1. 毎回予習・復習を行った上で授業に臨んでいるか
2. 第 2 回、第 8 回、第 14 回の授業内容が終わったあとに実施する小テスト、
3. 積極的な授業への参加の状況 を含む

期末試験は、

1. 栄養教育の評価・バイアスを理解できているか
2. ライフステージに応じた栄養教育の計画立案ができるか
3. ライフスタイルに応じた栄養教育の計画立案ができるか

評価方法の基準については講義初回時と終了時にアナウンスする。

使用教材

N ブックス・栄養教育論 下田妙子編著・建帛社・2013 年・2300 円 ISBN9078-4-7679-0463-4

教科書は基本的に授業の予習・復習用として使用する。

講義毎に配布するプリントと教科書およびパワーポイントを併用して講義を進める。

授業外学習の内容

<事前学習>

1. 各回の授業に備えて、教科書の該当箇所に目を通し理解につとめる。
2. わからない単語は調べておく。

<事後学習>

1. 各回の授業終了時に課す課題を実施すること。
2. 各回で取り上げるライフステージ・スタイルに応じて栄養教育の指導案を作成していただくこと。

備考

キーワード：行動変容・行動科学・栄養カウンセリング・食環境・栄養教育マネジメント

オフィスアワー：講義のある曜日の 13:00-17:00 (1 号館 301 研究室)

問い合わせ先：kimura@takasaki-u.ac.jp

相談・質問がある場合はあらかじめアポイントメントを取るようになしてください。

栄養教育論実習（専門科目）

担当者

木村 典代

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年後期 必修 1 単位

講義目標

「栄養教育論実習」は、「栄養教育論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」において学んできた基礎的理論を踏まえて、事例をあげた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるようにすることを目標とする。

1. アセスメントにより対象者の特徴や状況を把握する実践的な方法を修得する。
2. 対象者に応じた支援計画をたてる実践的な方法を修得する。
3. 対象者に応じた支援を実施する実践的な方法を修得する。
4. 栄養教育計画・実施内容・対象者の変化を正しく評価し、教育計画を改善する実践的な方法を修得する。
5. カウンセリングテクニック、行動科学スキルの実践的な使いかたを修得する。
6. コミュニケーションスキル・プレゼンテーションスキルの実践的な使い方を修得する。

到達目標

1. アセスメントにより対象者の特徴や状況が把握できる
2. 対象者に応じた支援計画をたてることができる
3. 対象者に応じた支援を実施できる
4. 栄養教育計画・実施内容・対象者の変化を正しく評価でき、教育計画を改善することができる。
5. カウンセリングテクニック、行動科学スキルを使い分けられることができる。
6. コミュニケーションスキル・プレゼンテーションスキルを使い分けられることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 栄養教育の対象の把握
- 第 2 回 個別指導計画
- 第 3 回 個別指導実習 1（対象者 A・B）
- 第 4 回 個別指導実習 2（対象者 C・D）
- 第 5 回 個別指導実習 3（対象者 E・F）
- 第 6 回 集団指導の概要
- 第 7 回 対象者の把握と集団指導計画
- 第 8 回 グループ討論の選択と実施
- 第 9 回 集団指導実習 1
- 第 10 回 集団指導実習 2
- 第 11 回 集団指導実習 3
- 第 12 回 集団支援の評価・改善計画の立て直し
- 第 13 回 まとめ

評価方法

「期末試験」40%、「平常点」60%とする。平常点は、

1. 毎回予習・復習を行った上で授業に臨んでいるか 10%
2. 個別指導実習のレポートと実施 20%
3. 集団指導実習のレポートと実施 20%
4. 積極的な授業参加と課題取り組み姿勢 10%

期末試験は、

1. 個別指導時の栄養教育のポイント
2. 集団指導時の栄養教育のポイント

3. 行動科学理論を用いたアセスメントと栄養教育の理解
評価方法の基準については講義初回時と終了時にアナウンスする。

使用教材

N ブックス・栄養教育論 下田妙子編著・建帛社・2013 年・2300 円 ISBN9078-4-7679-0463-4
教科書は基本的に授業の予習・復習用として使用する。
講義毎に配布するプリントと教科書およびパワーポイントを併用して講義を進める。

授業外学習の内容

<事前学習>

1. 栄養教育論Ⅰで習得した栄養教育の理論的基礎を復習しておくこと。
2. 2年次の栄養情報処理演習習得したパソコンを用いたパワーポイント資料の作り方を確認すること。
3. 栄養教育論Ⅱで習得した栄養教育マネジメントの一連の流れを復習すること。
4. 栄養教育論Ⅲ、応用栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱで習得した知識を用いて栄養教育指導実践を行うので必ずこれらの科目の復習をしておくこと。

<事後学習>

1. 各回の授業時に課す課題を用いて次回の授業が構成されているので必ず、課題を実施すること。
2. 各回の授業で実施した事例に限らず、自分の生活の中の様々な事例を見だし、栄養教育論の中で学んだ知識や技術をどう活かせるか、その可能性について考察をすること。

備考

キーワード：行動変容・行動科学・栄養カウンセリング・食環境・栄養教育マネジメント
オフィスアワー：講義のある曜日の 13:00-17:00 (1号館 301 研究室)
問い合わせ先：kimura@takasaki-u.ac.jp
相談・質問がある場合はあらかじめアポイントメントを取るようになしてください。

臨床栄養学 I (専門科目)

担当者

河原田 律子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、各種疾患別に身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法について修得することを目標とする。

到達目標

傷病者の病態や栄養状態の特徴について、各種疾患の概要（定義・原因・治療方法）に基づいて、身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法について修得する。

「臨床栄養学 I」では、内分泌疾患、肝・胆・腎臓疾患などの臨床的疾患構造と各疾病治療ガイドラインを基に治療および栄養療法を学習、修得する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 内分泌・肥満と代謝疾患 1 (肥満、メタボリックシンドローム)
- 第 2 回 内分泌・代謝疾患 2 (糖尿病)
- 第 3 回 内分泌・代謝疾患 3 (脂質異常症、高尿酸血症・痛風)
- 第 4 回 内分泌・代謝疾患 4 (甲状腺異常・副甲状腺異常・副腎異常)
- 第 5 回 消化器系疾患 1 (口内炎・舌炎、胃食道逆流症、胃・十二指腸潰瘍、たんぱく漏出性胃腸症)
- 第 6 回 消化器疾患 2 (炎症性腸疾患 (クローン病・潰瘍性大腸炎) 過敏性腸症候群、便秘・下痢)
- 第 7 回 肝・胆・膵疾患 1 (急性・慢性肝炎、肝硬変、肝不全、脂肪肝・非アルコール性脂肪性肝炎)
- 第 8 回 肝・胆・膵疾患 2 (胆石・胆嚢炎、急性・慢性膵炎)
- 第 9 回 循環器疾患 1 (高血圧、動脈硬化症)
- 第 10 回 循環器疾患 2 (狭心症・心筋梗塞、心不全)
- 第 11 回 呼吸器疾患 (COPD、気管支喘息、肺炎)
- 第 12 回 腎臓疾患 1 (急性・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群)
- 第 13 回 腎臓疾患 2 (急性・慢性腎不全、糖尿病性腎症、CKD)
- 第 14 回 腎臓疾患 3 (尿路結石症、血液透析・腹膜透析)
- 第 15 回 血液系疾患 (貧血、出血性疾患等)

評価方法

筆記試験 80%、平常点 20% (出席状況・小テスト等を含む)

使用教材

栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学疾患別編、羊土社、2,800 円 (税別)

授業外学習の内容

授業前：教科書の指定箇所(シラバス参照)を読んでおく事。

授業後：授業内容の理解度の確認のため、單元ごとに小テストを行います。毎回授業内容の復習をしておくこと。

備考

質問がある場合は、4 階の河原田研究室まで気軽に来てください。

河原田研究室：4 階 406 研究室・臨床栄養学実習室 nasu@takasaki-u.ac.jp

臨床栄養学Ⅱ（専門科目）

担当者

河原田 律子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年前期 必修 2 単位

講義目標

傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、各種疾患別に身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法について修得することを目標とする。

到達目標

傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、各種疾患の概要（定義・原因・治療方法）に基づいて、身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法について修得する。

「臨床栄養学Ⅱ」では、免疫系疾患・小児疾患・妊娠期疾患における臨床的疾患構造と各疾病治療ガイドラインを基に治療および栄養療法を学習、修得する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 免疫・アレルギー系疾患
- 第 2 回 感染症
- 第 3 回 運動器系疾患（骨粗鬆症、骨軟化症・くる病、変形性関節症等）
- 第 4 回 クリティカルケア（外傷、熱傷、集中治療）
- 第 5 回 障害者に対するケア（精神障害、重症心身障害）
- 第 6 回 精神・神経系疾患（脳出血・脳梗塞、認知症、パーキンソン病・症候群、摂食障害、精神疾患）
- 第 7 回 摂食・嚥下障害（咀嚼・嚥下障害等）
- 第 8 回 栄養障害 1（栄養失調症、PEM）
- 第 9 回 栄養障害 2（ビタミン欠乏症・過剰症、ミネラル欠乏症・過剰症）
- 第 10 回 周術期の管理（術前・術後管理、消化管切除術前・術後等）
- 第 11 回 がん（消化管のがん、消化管以外のがん、末期医療、緩和医療）
- 第 12 回 小児疾患 1（消化不良症、周期性嘔吐症、アレルギー疾患、小児肥満、先天性代謝異常）
- 第 13 回 小児疾患 2（小児糖尿病、小児腎臓病）
- 第 14 回 妊娠期・授乳期の疾患（肥満、貧血、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群）
- 第 15 回 高齢期の疾患（誤嚥、転倒、失禁、褥瘡）

評価方法

筆記試験 80%、平常点 20%（出席状況・小テスト等を含む）

使用教材

栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学疾患別編、羊土社、2,800 円（税別）

授業外学習の内容

授業前：教科書の指定箇所（シラバス参照）を読んでおく事。

授業後：授業内容の理解度の確認のため、單元ごとに小テストを行います。毎回授業内容の復習をしておくこと。

備考

質問がある場合は、4 階の河原田研究室まで気軽に来てください。

河原田研究室：4 階 406 研究室・臨床栄養学実習室 nasu@takasaki-u.ac.jp

臨床栄養管理論（専門科目）

担当者

竹内 真理

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年前期 必修 2 単位

講義目標

傷病者の病態や栄養状態の特長に基づいて、適切な栄養管理（栄養マネジメント）を行うために、具体的な栄養スクリーニングおよび栄養アセスメントの手技を修得し、栄養補給、栄養教育などの栄養ケアプランの立案、作成、実施、評価の方法を修得する。

到達目標

栄養スクリーニングおよび栄養アセスメントが出来る。

栄養補給、栄養教育などの栄養ケアプランの立案、作成、実施、評価が出来る。

傷病者の病態や栄養状態の特長に基づいて、適切な栄養管理（栄養マネジメント）を行うことが出来る。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 栄養アセスメントの意義と栄養障害
- 第 2 回 栄養スクリーニングの手技
- 第 3 回 栄養アセスメント 1、身体計測、臨床検査
- 第 4 回 栄養アセスメント 2、臨床診査（問診と身体観察）
- 第 5 回 栄養アセスメント 3、栄養・食事調査
- 第 6 回 栄養アセスメント 4、必要栄養量の算定
- 第 7 回 栄養・食事療法と栄養補給法 1、経口栄養補給法
- 第 8 回 栄養・食事療法と栄養補給法 2、経腸栄養法
- 第 9 回 栄養・食事療法と栄養補給法 3、経静脈栄養法
- 第10回 栄養ケアの目標設定と計画の立案
- 第11回 栄養ケアの実施とモニタリング、評価
- 第12回 フィードバックとリアセスメント
- 第13回 嚥下障害と口腔ケア
- 第14回 褥瘡の栄養管理
- 第15回 チーム医療と管理栄養士の役割

評価方法

筆記試験 80%、平常点 20%。

評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

使用教材

栄養食事療法の実習栄養ケアマネジメント第 9 版、本田佳子編、医歯薬出版、2808 円。テキストに沿って授業を進めます。臨床栄養管理第 3 版、渡邊早苗他編、医歯薬出版、3240 円、参考書として使用します。

上記 2 冊は臨床栄養学実習 I および II についても使用します。

授業外学習の内容

事前学習：シラバスを参照した上で、教科書の指定箇所を読んでおくこと。

事後学習：授業中に配布したプリントを復習し、内容を十分理解すること。

備考

臨床栄養活動論（専門科目）

担当者

竹内 真理

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年後期 必修 2 単位

講義目標

傷病者の病態や栄養状態の特長に基づいて、適切な栄養管理（栄養マネジメント）を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解する。具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について理解する。医療・介護制度やチーム医療における役割について理解する。

到達目標

適切な栄養管理（栄養マネジメント）を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解できる。具体的な栄養アセスメント（栄養状態の評価・判定）、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について理解できる。医療・介護制度やチーム医療における役割について理解できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 臨床栄養学の基礎、意義と目的、疾病と栄養
- 第 2 回 チーム医療、在宅医療
- 第 3 回 医療保険制度、介護保険制度
- 第 4 回 栄養ケアマネジメントの概要
- 第 5 回 栄養ケアプログラムのプラン・目標設定
- 第 6 回 栄養ケアプログラムの実施と評価
- 第 7 回 傷病者の栄養アセスメント、栄養スクリーニング
- 第 8 回 必要栄養量の算定
- 第 9 回 食事療法・栄養補給の方法
- 第10回 薬と栄養・食物の相互作用
- 第11回 栄養ケア計画書の作成と実施
- 第12回 問題志向型システム（POS）の活用と SOAP に基づく記録
- 第13回 傷病者への栄養教育
- 第14回 栄養ケアの評価、臨床経過のモニタリング、リアセスメント
- 第15回 評価と評価結果のフィードバック

評価方法

筆記試験 80%、平常点 20%。

評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

使用教材

栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学基礎編、本田佳子他編、羊土社、2014 年 2 月、2916 円。
テキストに沿って授業を進めます。

授業外学習の内容

事前学習：シラバスを参照した上で、教科書の指定箇所を読んでおくこと。

事後学習：授業中に配布したプリントを復習し、内容を十分理解すること。

備考

臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、臨床栄養管理論を履修していることが望ましい。

1 号館 308 研究室（内線 7308）

臨床栄養学実習 I (食事療法実習) (専門科目)

担当者

河原田 律子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年前期 必修 1 単位

講義目標

傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、各種疾患別に身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法について修得することを目標とする。

到達目標

「臨床栄養学実習 I」では、「臨床栄養学 I・II」で学んできた傷病者の病態や栄養状態に基づいた栄養管理法の理論をもとに、臨床現場における急性および慢性疾患の病期・病態に応じた適正な食事デザインを作成でき、精度の高い食事を提供することができる知識や技能を学ぶ。各食種の献立は、常食を基に展開し、献立に合わせた適切な調理方法・食材の使い分けを理解し、それに基づいた献立作成や調理作業について修得する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 栄養学の基礎 (栄養食事療法)、特別治療食の種類 (成分栄養管理)、常食の献立作成 (演習)
- 第 2 回 常食から全粥・軟菜食への献立展開 (演習)
- 第 3 回 常食から全粥・軟菜食への献立展開 (実習)
- 第 4 回 常食からエネルギーコントロール食の献立展開 (演習)
- 第 5 回 常食からエネルギーコントロール食の献立展開 (実習)
- 第 6 回 常食からたんぱく質コントロール食の献立展開 (演習)
- 第 7 回 常食からたんぱく質コントロール食の献立展開 (実習)
- 第 8 回 常食から脂質コントロール食の献立展開 (演習)
- 第 9 回 常食から脂質コントロール食の献立展開 (実習)
- 第10回 食塩制限食の献立 (演習・実習)
- 第11回 鉄負荷食の献立 (演習・実習)
- 第12回 食物アレルギー対応食の献立 (演習・実習)

評価方法

課題提出 70%、平常点(出席状況・実習態度等を含む)30%

使用教材

「実践臨床栄養学実習」長浜幸子・長崎洋三・手塚緑第一出版 2,400 円 (税別)
 「糖尿病食事療法のための食品交換表」日本糖尿病学会編文光堂 900 円 (税別)：エネルギーコントロール食で使用
 「腎臓病食品交換表」黒川清・中尾俊之医歯薬出版 1,300 円 (税別)：たんぱく・ナトリウムコントロール食で使用
 「栄養食事療法の実習」本田佳子編医歯薬出版 2,500 円 (税別)：2 年後期に購入済み
 使用方法：授業時に配布するプリントと併用して用いる。

授業外学習の内容

授業前：シラバスの指定箇所を読み、すぐに課題の献立作成が出来るように準備しておく事。
 献立作成が課題の時は、授業時に達成度のチェックをします。
 授業後：課題献立は、次回の献立実習の時までに完成させて提出 (献立評価のみ実習当日に記入)。

備考

質問がある場合は、4 階の河原田研究室まで気軽に来てください。

河原田研究室：4 階 406 研究室・臨床栄養学実習室 nasu@takasaki-u.ac.jp

臨床栄養学実習Ⅱ（臨床栄養ケアマネジメント実習）（専門科目）

担当者

竹内 真理

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年後期 必修 1 単位

講義目標

傷病者の病態や栄養状態の特長に基づいて、適切な栄養管理（栄養マネジメント）を行うために、具体的な栄養スクリーニングおよび栄養アセスメントの手技、および栄養補給、栄養教育、多領域との連携などに基づいた栄養ケアプランの立案、作成、実施、評価する技術を修得する。また、これらのスキルをベッドサイドで活用できる。

到達目標

傷病者の病態や栄養状態の特長に基づいて、ベッドサイドにおいて、具体的な栄養スクリーニングおよび栄養アセスメントが出来る。また、栄養補給、栄養教育、多領域との連携などに基づいた栄養ケアプランの立案、作成、実施、評価をすることが出来る。適切な栄養管理（栄養ケアマネジメント）を行うことが出来る。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 職業倫理、栄養スクリーニングと栄養アセスメント 1（臨床診査、臨床検査）
- 第 2 回 栄養アセスメント 2（身体計測、メタボリックアナライザー）
- 第 3 回 栄養アセスメント 3（栄養・食事調査）
- 第 4 回 栄養アセスメント 4（必要栄養量の算定）
- 第 5 回 栄養補給法（半固形栄養）
- 第 6 回 経腸栄養剤の種類と選択
- 第 7 回 栄養管理計画書の作成（症例検討 1）
- 第 8 回 口腔ケアと摂食・嚥下障害
- 第 9 回 摂食・嚥下障害と嚥下訓練食
- 第 10 回 POS（叙述的記録）に基づく SOAP での栄養ケア記録
- 第 11 回 総合演習（各種課題症例検討）
- 第 12 回 グループワークと発表

評価方法

筆記試験 50%、レポート提出 30%、平常点 20%。
評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

使用教材

改定臨床栄養学実習フローチャートで学ぶ臨床栄養管理中村富予他編建帛社 2808 円。
テキストに沿って授業をすすめます。

授業外学習の内容

事前学習：シラバスを参照した上で、教科書の指定箇所を読み実習に臨める準備をしておくこと。
事後学習：課題のレポートを完成させ、必ず提出し、内容を十分理解すること。

備考

臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、臨床栄養管理論を履修していることが望ましい。
1 号館 308 研究室（内線 7308）

公衆栄養学 I (専門科目)

担当者

五十嵐 美絵

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する現状を理解する。また、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供している現在の公衆栄養プログラムの理論と方法を習得する。

「公衆栄養学 I」では、基本的な公衆栄養関連法規の他、健康・栄養問題の現状と課題、要因を理解し、健康増進と疾病予防を目指す栄養政策や公衆栄養活動の現状について学ぶ。

到達目標

1. 公衆栄養の意義と目的、公衆栄養関連法規の内容が説明できる。
2. 日本や諸外国及び、地域や職域等の健康・栄養問題の現状と課題が説明できる。
3. 健康・栄養問題を取り巻く、自然、社会、文化的要因が分析、評価できる。
4. 健康・栄養課題を解決するため現在行われている健康づくり及び食環境づくりのプログラムについて説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 公衆栄養学の概念
 第 2 回 健康・栄養問題の現状と課題 (1) 少子高齢化における健康・栄養問題
 第 3 回 健康・栄養問題の現状と課題 (2) 食を取り巻く環境の変化
 第 4 回 健康・栄養問題の現状と課題 (3) 諸外国の健康・栄養問題
 第 5 回 健康づくり施策と公衆栄養活動 (1) 健康づくり施策と公衆栄養活動の役割、栄養士法
 第 6 回 健康づくり施策と公衆栄養活動 (2) 地域保健法、健康増進法
 第 7 回 健康づくり施策と公衆栄養活動 (3) 国民健康・栄養調査
 第 8 回 健康づくり施策と公衆栄養活動 (4) 健康づくり施策の経緯、国民健康づくり運動
 第 9 回 健康づくり施策と公衆栄養活動 (5) 健康日本 21 と地方計画
 第 10 回 健康づくり施策と公衆栄養活動 (6) 健康づくりを進めるための指針・ツール
 第 11 回 健康づくり施策と公衆栄養活動 (7) 食環境づくり施策の展開 (食料自給、栄養表示)
 第 12 回 健康づくり施策と公衆栄養活動 (8) 食育基本法と食育推進基本計画
 第 13 回 健康づくり施策と公衆栄養活動 (9) 健康づくり対策ハイリスクアプローチ (特定保健指導等)
 第 14 回 健康づくり施策と公衆栄養活動 (10) 諸外国の健康・栄養政策
 第 15 回 公衆栄養学 I まとめ

評価方法

出席状況・授業態度 10%、小テスト 20%、期末試験 (筆記試験) 70%

使用教材

第 8 巻「公衆栄養学」地域・国・地球レベルでの栄養マネジメント、特定非営利活動法人日本栄養改善学会監修、徳留裕子／伊達ちぐさ編 (医歯薬出版株式会社) 本体 2,800 円。
 授業時に配布するプリントと併用する。

授業外学習の内容

指定した教科書の関連部分を読み、また参考図書などを利用して予習、復習すること。(特に表、図、語句の説

明部分)

備考

参考図書・ホームページ：

- ・健康・栄養科学シリーズ「公衆栄養学」（改訂第 4 版）田中平三他編（南江堂）
- ・「管理栄養士・栄養士必携」データ・資料集（公社）日本栄養士会編（第一出版）
- ・「国民衛生の動向」（最新版）厚生労働協会編（厚生統計協会）
- ・「厚生労働省国民健康・栄養調査報告国民栄養の現状」健康・栄養情報研究会編（第一出版）
- ・厚生労働省、農林水産省、文部科学省、内閣府、国立健康・栄養研究所、食品安全委員会のホームページ

公衆栄養学Ⅱ（専門科目）

担当者

五十嵐 美絵

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年前期 必修 2 単位

講義目標

「公衆栄養学Ⅱ」では、「公衆栄養学Ⅰ」で学んだ基礎と現状を土台とし、地域、職域等の健康・栄養問題と要因の把握、分析、評価、判定と栄養上のハイリスク集団を特定する能力を養う。同時に、保健・医療・福祉・介護システムの中で、適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの立案・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。

さらに、公衆栄養活動に必要な各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解する。

到達目標

1. 地域、職域等の健康・栄養問題とその要因の分析、評価、判定ができる。
2. 適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの立案、実施、評価、フィードバックを行う総合的な公衆栄養マネジメントの理論と方法がわかる。
3. 各種サービスやプログラムの調整、社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 栄養疫学の概要 (1) 公衆栄養活動における栄養疫学の概念、食事摂取量調査法
 第 2 回 栄養疫学の概要 (2) 疫学的手法、地域健康・栄養活動への活用
 第 3 回 公衆栄養マネジメント (1) マネジメントの考え方、公衆栄養アセスメントの目的・方法
 第 4 回 公衆栄養マネジメント (2) 食事摂取基準の集団への活用
 第 5 回 公衆栄養マネジメント (3) 地域の実態把握の理論モデル
 第 6 回 公衆栄養マネジメント (4) 地域の実態把握の方法
 第 7 回 公衆栄養マネジメント (5) 行政、関連する組織の連携
 第 8 回 公衆栄養マネジメント (6) 公衆栄養プログラムの目標設定
 第 9 回 公衆栄養マネジメント (7) 公衆栄養プログラムの目標設定
 第10回 公衆栄養マネジメント (8) 公衆栄養プログラムの計画、社会資源の把握と管理
 第11回 公衆栄養マネジメント (9) 公衆栄養プログラムの実施、計画策定、住民参加
 第12回 公衆栄養マネジメント (10) 公衆栄養プログラムの評価の種類、デザイン
 第13回 地域公衆栄養活動 (1) 公衆栄養プログラム事例：食環境、ライフステージ別、ハイリスク集団
 第14回 地域公衆栄養活動 (2) 地域における実践事例の紹介
 第15回 公衆栄養学Ⅱ まとめ

評価方法

出席状況・授業態度 10%、小テスト 20%、期末試験（筆記試験） 70%

使用教材

第 8 巻「公衆栄養学」地域・国・地球レベルでの栄養マネジメント、特定非営利活動法人日本栄養改善学会監修、徳留裕子／伊達ちぐさ編（医歯薬出版株式会社）本体 2,800 円。

授業時に配布するプリントと併用する。

授業外学習の内容

・指定した教科書の関連部分を読み、参考図書なども利用して予習、復習する。(特に表、図、語句の説明部分)

備考

参考図書・ホームページ：

- ・健康・栄養科学シリーズ「公衆栄養学」(改訂第 4 版) 田中平三他編 (南江堂)
- ・「管理栄養士・栄養士必携」データ・資料集 (公社) 日本栄養士会編 (第一出版)
- ・「国民衛生の動向」(最新版) 厚生労働協会編 (厚生統計協会)
- ・「厚生労働省国民健康・栄養調査報告国民栄養の現状」健康・栄養情報研究会編 (第一出版)
- ・厚生労働省、農林水産省、文部科学省、内閣府、国立健康・栄養研究所、食品安全委員会のホームページ

公衆栄養学実習（専門科目）

担当者

五十嵐 美絵

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年後期 必修 1 単位

講義目標

「公衆栄養学実習」では、「公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ」において学んだ理論を基盤として、理論的な考え方で実践へ展開するための具体的な技能や姿勢を身につける。グループワーク、発表、ディスカッションを行うので、自発的、積極的に参加することを必要とする。

到達目標

1. 地域や職域等の健康・栄養問題とその要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定できる。
2. 地域等の健康・栄養アセスメントをもとに、地域公衆栄養活動計画が作成できる。
3. グループのチームワークを固め、お互いの意義を高める方法がわかる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション、公衆栄養アセスメントのための情報収集
- 第 2 回 食事調査の実際 (1) 食事調査法の概要
- 第 3 回 食事調査の実際 (2) 食事調査記録の集計
- 第 4 回 食事調査の実際 (3) 食事調査データ解析 食事摂取基準による栄養素等摂取量の評価
- 第 5 回 食事調査の実際 (4) 国民健康・栄養調査法
- 第 6 回 公衆栄養活動の創造的なアイデアを生み出すために
- 第 7 回 公衆栄養活動計画策定の実際 (1) 公衆栄養活動計画と展開方法
- 第 8 回 公衆栄養活動計画策定の実際 (2) 優先課題の選定と重点目標の設定、評価計画の立案
- 第 9 回 公衆栄養活動計画策定の実際 (3) 実践事例の作成
- 第10回 公衆栄養活動計画策定の実際 (4) 実践事例の作成
- 第11回 公衆栄養活動計画策定の実際 (5) 実践事例の発表（全体発表）
- 第12回 公衆栄養活動計画策定の実際 (6) 実践事例のブラッシュアップ
- 第13回 公衆栄養活動計画策定実習の振り返り、まとめ

評価方法

出席状況、授業態度、グループ活動による発表、ワークシート提出状況 40%、期末試験（レポート）60%

使用教材

授業時に配布するプリント

授業外学習の内容

- ・実習で作成したワークシートを実習後整理し提出すること。
- ・アセスメントに必要な情報を収集して参加すること。
- ・食事摂取基準を復習しておくこと。

備考

参考図書・ホームページ：

- ・「食事調査マニュアル」はじめの一步から実践・応用まで（改訂 2 版）特定非営利活動法人日本栄養改善学会監修

- ・「管理栄養士・栄養士必携」データ・資料集（公社）日本栄養士会編（第一出版）
- ・「国民衛生の動向」（最新版）厚生労働協会編（厚生統計協会）
- ・「厚生労働省国民健康・栄養調査報告国民栄養の現状」健康・栄養情報研究会編（第一出版）
- ・厚生労働省、農林水産省、文部科学省、内閣府、国立健康・栄養研究所、食品安全委員会のホームページ

給食経営管理 I (専門科目)

担当者

神戸 美恵子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

給食施設における管理栄養士の役割は、対象（喫食）者の健康の保持・増進、心身の健全な成長及び疾病予防と治療を促すための食事管理と栄養教育を行うことである。そのため、給食施設における管理栄養士の役割を理解し、さらに、特定多数の人々の健康状態・栄養状態の改善・維持・向上・QOL の向上を目標とした栄養・食事管理を効率的、かつ効果的に継続して実施していくための生産、安全・衛生、施設設備について理解する。また、各施設における給食の位置づけを理解し、給食運営に応用する能力を養う。

到達目標

- ・給食の意義及び運営について説明できる。
- ・特定多数の人々に食事を提供する給食施設における食事の提供にかかわる栄養、食事管理について説明できる。
- ・給食の運営方法とそのマネジメントについて理解する。
- ・各施設、対象（喫食）者に応じた給食経営管理について理解する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 給食の概要 (1) 給食の概念と給食システム
- 第 2 回 給食の概要 (2) 給食を提供する施設と関連法規
- 第 3 回 給食の概要 (3) 医療施設、高齢者・介護福祉施設と関連法規
- 第 4 回 給食の概要 (4) 児童福祉施設、障害者福祉施設と関連法規
- 第 5 回 給食の概要 (5) 学校、事業所、その他の給食施設と関連法規
- 第 6 回 栄養・食事管理 (1) 栄養・食事の概要とアセスメント
- 第 7 回 栄養・食事管理 (2) 栄養・食事の計画
- 第 8 回 栄養・食事管理 (2) 栄養・食事計画実施、評価、改善
- 第 9 回 給食の生産（調理）(1) 食材
- 第10回 給食の生産（調理）(2) 生産（管理）
- 第11回 給食の生産（調理）(3) 提供
- 第12回 給食の安全・衛生 (1) 安全・衛生の概念
- 第13回 給食の安全・衛生 (2) 安全・衛生の実際
- 第14回 給食の安全・衛生 (3) 事故・災害時対策
- 第15回 給食の施設・設備

評価方法

筆記試験 90%、レポート 10%、平常点（授業参加度・貢献度等）を加味して総合的に判断する。
評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする

使用教材

サクセス管理栄養士講座給食経営管理論第一出版 2012 年 4 月 1 日 2,200 円

授業外学習の内容

指定したテキストの授業範囲を事前に読んでおくこと
毎回授業内容のまとめの課題を出すので、次回必ず提出すること

備考

給食経営管理Ⅱ（専門科目）

担当者

神戸 美恵子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

給食施設における管理栄養士の役割は、対象（喫食）者の健康の保持・増進、心身の健全な成長及び疾病予防と治療を促すための食事管理と栄養教育を行うことである。そのため、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法について学ぶ。また、食料の生産から消費までの流通のしくみやマーケティングについて学び、これらを踏まえ、給食運営や関係の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養面・安全面・経済面全般のマネジメントについて理解する。

到達目標

- ・給食運営管理の概念について説明することができる。
- ・食品の生産、流通、加工、消費の仕組みや現状について説明できる。
- ・食品流通や消費の課題について考察することができる。
- ・給食を取り巻く環境や経済情勢に応じたマーケティング手法について理解する。
- ・栄養管理、生産管理、安全・衛生管理に関するマネジメントについて説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 給食経営管理の概念 (1) 経営管理の概要、給食経営と組織
 第 2 回 給食経営管理の概念 (2) 給食とマーケティング
 第 3 回 給食の原価
 第 4 回 食品の消費と流通 (1) 食生活の変化
 第 5 回 食品の消費と流通 (2) フードマーケティングと食品流通
 第 6 回 食品の消費と流通 (3) 食品市場と食品流通
 第 7 回 食品の消費と流通 (4) 新しい食品消費の課題
 第 8 回 給食の品質
 第 9 回 給食の人事・事務
 第10回 給食経営管理の実際 (1) 食事計画
 第11回 給食経営管理の実際 (2) 栄養計画
 第12回 給食経営管理の実際 (3) 安全・衛生管理
 第13回 給食経営管理の実際 (4) 施設・設備管理
 第14回 給食経営管理の実際 (5) 組織管理・経済管理
 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験 90%、レポート 10%、平常点（授業参加度・貢献度等）を加味して総合的に判断する。
 評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

使用教材

サクセス管理栄養士講座給食経営管理論第一出版 2012 年 4 月 1 日 2,200 円
 日本人の食事摂取基準、2012 年度版調理のためのベーシックデータ食品成分表、日本標準食品成分表、電卓

授業外学習の内容

指定したテキストの授業範囲を事前に読んでおくこと毎回授業内容のまとめの課題を出すので、次回必ず提出

すること

備考

給食経営管理実習 I (専門科目)

担当者

神戸 美恵子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年後期 必修 1 単位

講義目標

給食運営や関連の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織等）を総合的に判断し、栄養面、安全面全般のマネジメントを行う能力を養う。組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、組織管理のマネジメントを行う能力を養うことを目標とする。

関連教科で学習した基本的な知識や技術をもとに、「給食経営管論 I、II」で学習した栄養・食事管理、施設・設備管理、生産（調理）管理、品質管理、組織管理などについて、健康な大学生を対象にした給食提供実習を行うことより、給食計画から評価までの一連の作業を実践することができるようになる。

到達目標

1. 健康な人を対象に、給食提供を経営管理の PDCA サイクルに従い実施することができる。
2. 調理学実習 I、II の献立を大量調理に展開することができる。
3. HACCP に基づく衛生管理について理解することができる。
4. 給食組織運営やチームワークやコミュニケーション力を身に付けることができる。
5. 給食経営管理業務に関する基本的な方法、技術を取得することができる。
6. 提供給食を活用した望ましい 5 日間（昼食）の献立を作成することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション（実習の目的、方法、日程、グループ編成等、厨房説明）
- 第 2 回 給食経営管理計画（1）PDCA、食事計画、栄養計画、献立計画
- 第 3 回 給食経営管理計画（2）食材計画、作業計画、評価計画
- 第 4 回 大量調理と衛生管理について
- 第 5 回 献立作成
- 第 6 回 試作
- 第 7 回 献立に基づく作業計画
- 第 8 回 給食提供実習事前準備、確認
- 第 9 回 給食提供実習（1）献立作成担当：
- 第 10 回 給食提供実習（2）調理担当
- 第 11 回 給食提供実習（3）洗浄担当
- 第 12 回 給食提供実習（4）事務・情報処理担当：
- 第 13 回 給食提供実習の評価と改善、期間献立作成

評価方法

レポート 20%、平常点（授業参加度・貢献度等）80%として総合的に評価する。
評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

使用教材

- ・給食経営管理論テキスト、日本人の食事摂取基準、2012 年度版調理のためのベーシックデータ食品成分表、日本標準食品成分表
- ・白衣、実習用白ズボン、実習用帽子、クッキングシューズ、包丁セット、電卓

授業外学習の内容

定期的に献立課題を出すので、期日までに作成すること日常生活の中で調理技術を高めておくこと

備考

給食経営管理実習Ⅱ（専門科目）

担当者

神戸 美恵子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年前期 必修 1 単位

講義目標

給食運営や関連の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。マーケティングの原理や応用を理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。

マーケティングの原理や応用を理解し、「給食経営管理実習Ⅰ」で身に付けた知識や技術をもとに、経済面を含め給食運営管理全般のマネジメントを行う能力を高めることを目標とする。

給食におけるマーケティングを行い、それをもとに課題を設定し、給食経営管理の PDCA サイクルに基づいた給食提供実習を行ったり、新調理システム（真空調理）についても実習を行うことにより、マネジメント能力を高めることができる。

到達目標

1. 給食におけるマーケティングについて理解することができる。
2. 課題に沿った給食提供を経営管理の PDCA サイクルに従い実施することができる。
3. 栄養面、安全面、経済面全般について円滑にマネジメントすることができる。
4. HACCP に基づく衛生管理について説明することができる。
5. 新調理システム（真空調理）について理解することができる。
6. 提供給食を活用した望ましい 3 日間（1 日 3 食）の献立を作成することができる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション、マーケティングⅠ
- 第 2 回 マーケティングⅡ、課題整理
- 第 3 回 献立に基づく作業計画
- 第 4 回 給食提供実習事前準備、確認
- 第 5 回 給食提供実習（1）献立作成担当：
- 第 6 回 給食提供実習（2）調理担当
- 第 7 回 給食提供実習（3）洗浄担当
- 第 8 回 給食提供実習（4）事務・情報処理担当：
- 第 9 回 給食提供実習の評価とまとめ
- 第10回 給食提供実習報告会
- 第11回 期間献立作成
- 第12回 真空調理
- 第13回 まとめ

評価方法

レポート 20%、平常点（授業参加度・貢献度等）80%として総合的に評価する。

評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

使用教材

- ・給食経営管理論テキスト、日本人の食事摂取基準、2012 年度版調理のためのベーシックデータ食品成分表、日本標準食品成分表
- ・白衣、実習用白ズボン、実習用帽子、クッキングシューズ、包丁セット、電卓

授業外学習の内容

定期的に献立課題を出すので、期日までに作成すること日常生活の中で調理技術を高めておくこと

備考

総合演習 I (臨地実習前後教育) (専門科目)

担当者

新任 (神戸)

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年前期 必修 1 単位

講義目標

事前指導では、臨地実習施設における管理栄養士の役割、業務内容、知識や技術について再度確認を行う。さらに、実践の場で働く外部講師によるより具体的な指導により各施設の理解を深め、自己課題を設定するとともに臨地実習に臨む意欲を高める。また、社会人としての知識やマナーを修得する。

実習後は、報告会においてプレゼンテーション技術を活用した発表を行い、グループ討議を通して、実習成果を共有する。

到達目標

- ・施設ごとの特徴や管理栄養士業務について理解することができる。
- ・関連科目で修得した知識や技術を確認することができる。
- ・各自の実習施設について情報を収集することができる。
- ・自己課題を設定することができる。
- ・実習態度やマナーについて理解することができる。

講義内容と講義計画

第 1 回 臨地実習の意義と目的・目標

第 2 回 社会人としてのマナーについて

第 3 回 臨地実習課題の取り組み、実習ノートの書き方について

第 4 回 給食の運営、給食経営管理の臨地実習について

第 5 回 公衆栄養の臨地実習と保健所管理栄養士の職務について

第 6 回 学校給食の実際と管理栄養士の職務について

第 7 回 事業所給食の実際と管理栄養士の職務について (外部講師)

第 8 回 福祉施設の実際と管理栄養士の職務について (外部講師)

第 9 回 実習課題の設定

第 10 回 実習課題の検討

第 11 回 臨地実習に臨む心構え・注意事項・事前訪問の諸注意

第 12 回 自己評価と実習のまとめ

評価方法

事前指導各回におけるレポート 80%、平常点 (授業参加度・貢献度等) 20%として総合的に判断する。評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

使用教材

臨地・校外実習のてびき木戸詔子・福井富穂化学同人 2 版 1,800 円

2013 年度版管理栄養士・栄養士必携 (データ・資料集) 日本栄養士会編第一出版 2,500 円

授業外学習の内容

1. シラバスの確認をしておくこと
2. 前回の授業内容を確認しておくこと
3. 知識や技術の再確認・予習しておくこと

総合演習Ⅱ（臨床栄養学実習事前事後学習）（専門科目）

担当者

岡村信一、竹内真理

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年後期 国家試験受験必修 1 単位

講義目標

「総合演習Ⅱ」では専門分野を横断し幅広い視野から栄養評価や栄養ケアマネジメントが行えるような総合的な知識と技能を養うことを目的とする。

到達目標

1. 各専門科目で修得してきた学修内容を集約して栄養評価をすることができる。
2. 各専門科目で修得してきた学修内容を集約して栄養ケアマネジメントを実施することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 管理栄養士の役割と使命、職業倫理
- 第 2 回 食事摂取基準を理解し、評価するための演習課題(1)
- 第 3 回 食事摂取基準を理解し、評価するための演習課題(2)
- 第 4 回 食事摂取基準を理解し、評価するための演習課題(3)
- 第 5 回 疾病の治療ガイドラインを理解し評価するための演習課題(1)
- 第 6 回 疾病の治療ガイドラインを理解し評価するための演習課題(2)
- 第 7 回 疾病の治療ガイドラインを理解し評価するための演習課題(3)
- 第 8 回 疾病の治療ガイドラインを理解し評価するための演習課題(4)
- 第 9 回 健康関連指針・法律を評価するための演習課題 (1)
- 第10回 健康関連指針・法律を評価するための演習課題 (2)
- 第11回 健康関連指針・法律を評価するための演習課題 (3)
- 第12回 まとめ

評価方法

筆記試験 100%、評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

使用教材

1. 栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方・考え方・ケーススタディ・奈良信雄・医歯薬出版・2014年・2500円
2. 教科書は授業および予習・復習で使用する。

授業外学習の内容

1. 授業前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。
2. 授業終了時に復習をしておくこと。
3. 他教科で関連する項目を学ぶ際には、積極的にその部分を復習すること。

備考

総合演習Ⅲ（専門科目）

担当者

国家試験科目担当教員全員

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 4 年通年 国家試験受験必修 1 単位

講義目標

「総合演習Ⅲ」では「総合演習Ⅱ」で学んだ知識・技能を基に、専門分野を横断して幅広い視野から栄養評価や栄養ケアマネジメントが行えるような実践力や応用力を養うことを目的とする。

到達目標

管理栄養士が社会で活動する多様な分野において、適切な栄養評価と栄養ケアマネジメントを展開・応用することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 食事摂取基準を調理・給食提供へ展開するための演習課題（個人への活用）（1）
- 第 2 回 食事摂取基準を調理・給食提供へ展開するための演習課題（個人への活用）（2）
- 第 3 回 食事摂取基準を調理・給食提供へ展開するための演習課題（集団への活用）（1）
- 第 4 回 食事摂取基準を調理・給食提供へ展開するための演習課題（集団への活用）（2）
- 第 5 回 食事摂取基準を調理・給食提供へ展開するための演習課題（集団への活用）（3）
- 第 6 回 各種疾病に応じた食事提供、栄養指導へ展開するための症例・事例研究（1）
- 第 7 回 各種疾病に応じた食事提供、栄養指導へ展開するための症例・事例研究（2）
- 第 8 回 各種疾病に応じた食事提供、栄養指導へ展開するための症例・事例研究（3）
- 第 9 回 各種疾病に応じた食事提供、栄養指導へ展開するための症例・事例研究（4）
- 第10回 各種疾病に応じた食事提供、栄養指導へ展開するための症例・事例研究（5）
- 第11回 各種健康関連の指針や法律を理解し、地域健康政策や栄養指導へ展開するための症例・事例研究（1）
- 第12回 各種健康関連の指針や法律を理解し、地域健康政策や栄養指導へ展開するための症例・事例研究（2）
- 第13回 各種健康関連の指針や法律を理解し、地域健康政策や栄養指導へ展開するための症例・事例研究（3）
- 第14回 各種健康関連の指針や法律を理解し、地域健康政策や栄養指導へ展開するための症例・事例研究（4）
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験 100%

使用教材

授業時に配布するプリント、各科目にて使用した教科書

授業外学習の内容

3 年生までに各科目で学んできたことの応用科目であるため、事前に関係分野の復習を十分しておくこと。

備考

臨地実習 I (給食運営) (専門科目)

担当者

神戸美恵子、新任

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年後期 必修 1 単位

講義目標

給食現場での管理栄養士の実践力を身につけるために、「給食経営管理論 I、II」、「給食経営管理実習 I、II」および関連科目で学んだ基本的な知識や技術をもとに、特定多数人を対象とした大量調理について、計画から評価までの一連の実習を行う。実践活動の場での実体験を通して、必要とされる給食の運営に関する専門的知識及び技術の統合を図る。

到達目標

1. 栄養・食事・食材管理（献立作成）等を理解することができる。
2. 安全で衛生的に食事を提供することができる。
3. 施設に応じた給食の生産・配膳
4. 提供サービスについて理解することができる。
5. 給食実務に関する事務処理を行うことができる。

講義内容と講義計画

学内 事前学習

- 1) 給食運営について
- 2) 実習課題の確認

学外（特定給食施設：事業所、学校、福祉施設等）において、以下の内容について修得する。

- 1) 特定給食施設の概要、施設の特性、給食の目標、目的
- 2) 特定給食施設における給食業務の法的根拠
- 3) 特定給食施設における管理栄養士の実務
- 4) 給食システム
- 5) 栄養・食事計画
- 6) 献立作成
- 7) 会計・原価計画
- 8) 食材の計画と管理
- 9) 生産（調理）の計画と実際
- 10) マニュアルに基づく安全・衛生管理の実際
- 11) 栄養教育
- 12) 事務処理
- 13) 自己課題に基づいた調査研究

学内 事後学習

- 1) 実習のまとめ（実習目的の到達度、課題の確認、実習全体の自己評価・改善）
- 2) 実習報告会

評価方法

実習先からの評価票（実習態度、実習内容等）80%、実習ノート 10%、実習報告会内容 10%、巡回指導教員からの報告等を総合的に評価する。

使用教材

・臨地実習の手引き、臨地実習ノート、日本標準食品成分表 2010、日本人の食事摂取基準 2010 年版、2013 年

授業外学習の内容

<事前準備>

- ・実習先の特徴を調べる
- ・給食の運営に関する今までの講義・実習の復習をしておく
- ・実習課題を設定し情報を収集する

<実習中>

- ・実習内容の復習、実習ノートの記入
- ・提出、実習課題に取り組む

<実習後>

- ・報告会における発表の準備（レジメ、プレゼンテーション）をする

備考

<提出物>

- ・丁寧に書くこと
- ・指示提出時間厳守

<実習中の注意事項>

- ・挨拶、守秘義務等励行すること
- ・実習に対して真剣に臨むこと

臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）（専門科目）

担当者

神戸美恵子、新任

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年後期 国家試験受験必修 1 単位

講義目標

「臨地実習Ⅰ」を踏まえ、給食運営や関連する資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。さらに、マーケティングの原理や応用を理解するとともに、組織管理などの基本的な考え方や方法を修得する。また、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得する。

到達目標

- ・施設の特徴を理解し、給食全般のマネジメントを理解することができる。
- ・実践活動の場での課題に気付くことができる。
- ・課題解決策を検討することができる。
- ・多（他）職種との連携について理解することができる。

講義内容と講義計画

学内

- 1) 給食施設における管理栄養士の役割
- 2) 実習課題の確認

学外（特定給食施設：事業所、学校、福祉施設等）において、以下の内容について修得する。

- 1) 特定給食施設の概要および給食経営管理
- 2) 栄養・食事評価
- 3) 給食の組織、人事管理と労務管理
- 4) 調理施設・設備設計
- 5) 機器・設備の保全管理
- 6) 食材の流通と購買管理
- 7) 安全・衛生管理
- 8) 給食の品質保証と標準化
- 9) 給食経営と関係
- 10) 原価計算と損益
- 11) 会計・原価管理の評価
- 12) 事故対策・災害対策
- 13) 施設課題に基づいた調査研究

学内 事後学習

- 1) 実習のまとめ（実習目的の到達度、課題の確認、実習全体の自己評価・改善）
- 2) 実習報告会

評価方法

実習先からの評価票（実習態度、実習内容等）80%、実習ノート 10%、実習報告会内容 10%、巡回指導教員からの報告を総合的に評価する。

使用教材

・臨地実習の手引き、臨地実習ノート、日本標準食品成分表 2010、日本人の食事摂取基準 2010 年版、2013 年

授業外学習の内容

<事前準備>

- ・実習先の特徴を調べる
- ・給食の運営に関する今までの講義・実習の復習をしておく
- ・実習課題を設定し情報を収集する

<実習中>

- ・実習内容の復習、実習ノートの作成・提出、実習課題に取り組む。

<実習後>

- ・報告会における発表の準備（レジメ、プレゼンテーション）をする。

備考

<提出物>

- ・丁寧に書くこと。
- ・指示提出時間厳守

<実習中の注意事項>

- ・挨拶、守秘義務等励行すること
- ・実習に対して真剣に臨むこと

臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）（専門科目）

担当者

竹内真理、河原田律子、新任

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 4 年前期 国家試験受験必修 2 単位

講義目標

実践活動の場（病院）における課題発見や問題解決を通して、病態や栄養状態の評価・判定を行い、専門知識・技術の統合化を図って的確な栄養ケアマネジメントを行うために必要な知識や技能を修得する事を目標とする。

到達目標

栄養学・臨床栄養学・栄養教育論の講義や実習で学んだ知識や技術を活かし、病院における課題発見や問題解決を通して、病態や栄養状態に基づく栄養評価・判定を行い、的確なマネジメントが行える専門知識・技術の統合化を図る。また、チーム医療を経験し、管理栄養士として必要な知識や技能を修得する。

講義内容と講義計画

学内（事前学修）

- 1) 病院管理栄養士の役割と活動
- 2) 実習課題の確認

学外（病院）において以下の内容について習得する。

- 1) 栄養部門の業務概要・栄養管理業務の概要
- 2) 施設利用者を対象とした栄養食事管理
- 3) 栄養管理システム
- 4) 栄養アセスメント
- 5) 栄養ケアプラン
- 6) 栄養補給法
- 7) クリニカルパス
- 8) チーム医療(栄養サポートチーム、褥瘡チーム等)
- 9) 病棟カンファレンス症例研究
- 10) 個別栄養指導・集団栄養指導
- 11) 栄養指導報告書作成
- 12) 実習課題の発表

学内 事後学習

- 1) 実習のまとめ（実習目的の到達度、課題の確認、実習全体の自己評価・改善）
- 2) 実習報告会

評価方法

実習先からの評価票（実習態度・取り組み等）60%、実習報告会 20%、課題レポート 10%、実習ノート 10%、巡回指導教員からの報告なども含め総合的に評価する。

使用教材

臨地・校外実習のてびき木戸詔子・福井富穂化学同人 1,800 円（税別）、臨地実習ノート（実習前に配布）
実習に関する教科書や資料（臨床栄養学に関連する教科書・食品成分表等）

授業外学習の内容

< 事前準備 >

- ・実習先の特徴を調べ、病院の特性にあった実習課題について考える。
- ・臨床栄養学に関する講義や実習で学んだことを復習する。

<実習中>

- ・実習内容の復習、実習ノートの作成・提出、実習課題に取り組む。

<実習後>

- ・実習課題についてレポート提出。
- ・実習で学んだ内容の復習、実習ノートの作成、実習報告会の準備を行う。

備考

受講資格：臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・臨床栄養管理論・臨床栄養学実習Ⅰの修得が必須。

質問がある場合は、担当教員：竹内 mtakeuchi@takasaki-u.ac.jp、河原田 nasu@takasaki-u.ac.jp に聞きに来てください。

臨地実習Ⅳ（公衆栄養学）（専門科目）

担当者

五十嵐美絵、新任

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 4 年前期 国家試験受験必修 1 単位

講義目標

実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。

臨地実習Ⅳでは、実践活動の場で、「公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ」、「公衆栄養学実習」で修得した公衆栄養マネジメントの理論と方法がどのように行われているかを学ぶことでその統合を図り、身につけた専門的知識、技術を実践現場に活かす方法を探ることを目的とする。

到達目標

1. 健康・栄養問題を取り巻く様々な情報を収集・分析し、総合的に評価・判定して行う、健康増進等計画策定・推進の方法が理解できる。（各事業の意味づけ）
2. 対象に応じた適切な健康関連サービスを提供するプログラムの作成、実施、評価の過程を通じて総合的な公衆栄養マネジメントに必要な事項が理解できる。（食生活相談、集団指導などの技法）
3. 上記を通して、実践活動の場での課題発見、解決を行い、今まで学んだ専門的知識及び技術の統合を図り、それを実践の場に活かす方法を考えることができる。

講義内容と講義計画

【保健所、保健センター共通内容】

管内の現況、市町村内の状況 ・ 組織及び機構 ・ 衛生行政の概要 ・ 管理栄養士の業務の概要、栄養関係法令（法的根拠）

【保健所における内容】

1. 地域保健による栄養体制の整備
 - ① 地域の実態把握、分析
 - ② 施策化
 - ③ 政策評価
 - ④ 専門的な栄養指導、食生活支援
 - ⑤ 住民に対する健康教育、栄養相談
 - ⑥ 健康なまちづくり地区組織等の育成
 - ⑦ 健康危機管理体制の整備
 - ⑧ 関係機関団体との連携
 - ⑨ 食環境整備（食に関する情報の整備、外食・調理済み加工食品等の栄養成分表示の推進等）
2. 特定給食施設への栄養管理指導
3. 市町村に対する栄養改善事業支援と連絡調整
4. 人材育成・活用

【市町村保健センターにおける内容】

1. 地域保健栄養体制の整備
 - ① 「健康日本 21」 地方計画や地域保健医療計画等への参画、栄養改善事業の企画・評価
 - ② 健康づくり・栄養関連情報等の収集と住民への提供
 - ③ 関係機関団体との連携
2. 栄養相談（母子、学童・思春期、成人、高齢者などへの一般的栄養指導）
3. 住民に対する健康教育（各種教室・講習会の企画・実施・評価）
4. 地区組織の育成・支援（患者会・自治会等の健康づくり活動への支援）
5. 啓発事業（健康まつり・栄養展の企画・実施・評価）

6. 人材の育成・活用（在宅栄養士の育成と活用）

評価方法

実習の出席、実習態度 50%、臨地実習記録 50%、実習先からの評価票、実習自己評価、巡回指導教員からの報告、実習報告会の報告内容なども含め総合的に評価する。

使用教材

「臨地・校外実習の手引き」、「臨地実習記録」、「管理栄養士・栄養士必携」

授業外学習の内容

- ・実習先の施設の特徴を調べる
- ・公衆栄養に関する講義、実習の復習
- ・実習内容の復習
- ・臨地実習記録への記載
- ・実習課題の調査、解決への学習
- ・実習報告会の準備

備考

受講資格：公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ・公衆栄養学実習の修得が必須。

特別講座（食育・公衆栄養学コース）（卒業研究または演習）

担当者

渡辺由美、神戸美恵子、五十嵐美絵、深見匡

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年後期 必修 2 単位

講義目標

食育・公衆栄養学分野に関する専門的な知識を修得し、各研究分野の理解を深め、充実した研究成果をあげることを目標とする。

到達目標

所属ゼミに関連する各分野の専門的な知識を横断的に吸収し、合同セミナー（研究紹介）を通じて研究に関するディスカッション能力を身につけ、卒業研究に反映することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 栄養疫学 (1)
- 第 3 回 栄養疫学 (2)
- 第 4 回 乳幼児期の食育 (1)
- 第 5 回 乳幼児期の食育 (2)
- 第 6 回 学童・思春期の食育 (1)
- 第 7 回 学童・思春期の食育 (2)
- 第 8 回 青年期の食育 (1)
- 第 9 回 青年期の食育 (2)
- 第10 回 壮年期の食育
- 第11 回 高齢期の食育
- 第12 回 公衆栄養マネジメントの方法（日本の栄養政策）
- 第13 回 地域での栄養プログラム展開（事例の検討）
- 第14 回 合同セミナー（研究紹介）(1)
- 第15 回 合同セミナー（研究紹介）(2)

評価方法

評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

使用教材

適宜プリントを配布する。

授業外学習の内容

卒業研究に関連した論文を講読する。

備考

特別講座（食品科学コース）（卒業研究または演習）

担当者

綾部園子、松岡寛樹、村松芳多子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年後期 必修 2 単位

講義目標

食品科学の各分野に関する専門的な知識を修得することを目的とし、合同セミナー（研究紹介）を通じて各研究分野への理解を深める。

到達目標

所属するゼミに関連する各分野の専門的な知識を横断的に吸収し、研究に関するディスカッション能力を身につけ、卒業研究に反映することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 食品の機能性物質の単離と同定 (1) FT-IR スペクトル法
- 第 3 回 食品の機能性物質の単離と同定 (2) NMR スペクトル法
- 第 4 回 食品の機能性物質の単離と同定 (3) LC/MS
- 第 5 回 食品の機能性物質の単離と同定 (4) GC/MS
- 第 6 回 食品の嗜好性の主観的・客観的評価 (1) 官能評価
- 第 7 回 食品の嗜好性の主観的・客観的評価 (2) 色の測定
- 第 8 回 食品の嗜好性の主観的・客観的評価 (3) 物性測定
- 第 9 回 食品の嗜好性の主観的・客観的評価 (4) 筋電位測定
- 第10回 微生物学の話題
- 第11回 微生物学と免疫
- 第12回 微生物の単離と同定 (1) 環境中の微生物の同定
- 第13回 微生物の単離と同定 (2) 微生物の DNA 解析
- 第14回 合同セミナー（研究紹介）(1)
- 第15回 合同セミナー（研究紹介）(2)

評価方法

議論への参加度 50%、研究紹介 50%、授業への参加度で 10%までの加点あり

使用教材

適宜プリントを配布

授業外学習の内容

1. 卒業研究に関連した論文を講読する。
2. 関連する既習事項を確認しておく。

備考

特別講座（栄養科学・スポーツ栄養学コース）（卒業研究または演習）

担当者

田中進・木村典代・大家千枝子・永井俊匡・曾根保子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年後期 必修 2 単位

講義目標

栄養科学・スポーツ栄養の各分野に関する専門的な知識を修得することを目標とし、合同セミナー（研究紹介）を通じて各研究分野の理解を深める。

到達目標

所属するゼミに関連する各分野の専門的知識を横断的に吸収することにより、卒業研究に応用することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 分子生物学 (1) 分子生物学の歴史
- 第 3 回 分子生物学 (2) 細胞間情報伝達
- 第 4 回 分子生物学 (3) 遺伝子発現の制御
- 第 5 回 分子栄養学 (1) 細胞内情報伝達
- 第 6 回 分子栄養学 (2) 遺伝子多型と栄養
- 第 7 回 分子栄養学 (3) 分子栄養学の研究手法
- 第 8 回 栄養生理学 (1) 脂質の生理
- 第 9 回 栄養生理学 (2) ビタミンの生理
- 第 10 回 栄養生理学 (3) 体質と栄養素との関連
- 第 11 回 スポーツ栄養学 (1) 競技スポーツと栄養問題
- 第 12 回 スポーツ栄養学 (2) トップスポーツと栄養サポート
- 第 13 回 スポーツ栄養学 (3) ドーピングとサプリメント
- 第 14 回 合同セミナー研究紹介 (1)
- 第 15 回 合同セミナー研究紹介 (2)

評価方法

評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

使用教材

適宜プリントを使用。

授業外学習の内容

合同セミナーのプレゼンテーションにむけての準備

備考

特別講座（臨床栄養学コース）（卒業研究または演習）

担当者

岡村信一、下川哲昭、竹内真理、河原田律子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年後期 必修 2 単位

講義目標

臨床栄養学分野に関する専門的な知識を横断的に修得し、卒業研究内容についてあらゆる観点から考察し、充実した研究成果をあげることを目標とする

到達目標

所属ゼミに関連する分野の知識を横断的に吸収し、研究内容についてディスカッションすることができる。また、卒業研究内容をまとめて発表することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 解剖学・生理学 (1)
- 第 3 回 解剖学・生理学 (2)
- 第 4 回 解剖学・生理学 (3)
- 第 5 回 臨床医学・病理学 (1)
- 第 6 回 臨床医学・病理学 (2)
- 第 7 回 臨床医学・病理学 (3)
- 第 8 回 臨床栄養学の基礎 (1)
- 第 9 回 臨床栄養学の基礎 (2)
- 第 10 回 臨床栄養学の基礎 (3)
- 第 11 回 臨床栄養学 (1)
- 第 12 回 臨床栄養学 (2)
- 第 13 回 臨床栄養学 (3)
- 第 14 回 合同セミナー (研究紹介) (1)
- 第 15 回 合同セミナー (研究紹介) (2)

評価方法

評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

使用教材

適宜プリントを使用する。

授業外学習の内容

合同セミナーのプレゼンテーションにむけての準備

備考

卒業研究（卒業研究または演習）

担当者

健康栄養学科 教員

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 4 年前期 必修 4 単位

講義目標

管理栄養士養成教育の集大成として、本学科では卒業研究を課す。学生にそれぞれの専門領域とテーマを選択させ、その担当教員により年間指導計画を立案し、実験・調査・実習等の研究の指導を行う

到達目標

科学的思考や手法を応用する能力や、表現力を養い、卒業研究を創造的に完成させる

講義内容と講義計画

- ・食物による腸管透過性変化に関する検討,食物に含まれるリン脂質代謝酵素の役割に関する研究
- ・幼児の食育に関する研究、副材料を添加した粥の性状に関する研究、真空調理の最適調理条件の検討および微生物の消長に関する研究
- ・人間の健康をめぐる諸問題に関する実態調査と要因分析
- ・微量栄養素の細胞性免疫に対する影響の分子栄養学的研究、界面活性剤の免疫に対する影響解析
- ・スポーツ栄養に関する研究、競技選手の栄養サポートスポーツ食育に関する研究、健康増進に関する食事と運動を組合わせた調査・介入研究
- ・塩蔵野菜の生理活性に関する有研究、イソチオシアナート由来化合物の抗遺伝毒性に関する構造活性相関、ダイコン塩蔵下におけるアミノ酸、脂肪酸、糖、辛味成分の動態解析
- ・学校給食、栄養教諭、学校における食育に関する研究、若者の食生活に関する研究
- ・栄養政策、公衆栄養活動に関する研究
- ・食にかかわる様々な取り組みや教育実践を切り口として、人間の発達の問題や人間が暮らしやすい社会のあり方について考察する
- ・食品の摂取と食後血糖上昇の影響について、1型糖尿病罹患児における管理栄養士の役割等について
- ・下仁田ネギの辛味成分に関する遺伝子の解析、ポリフェノールの体内動態の解析、PFC バランスの違いによる肝臓代謝の変化、咀嚼の脳への影響、味覚受容体の解析
- ・ビタミン C による初期免疫応答促進効果の研究、メタボリックシンドロームと赤血球膜中リン脂質の脂肪酸組成との関連解析、微侵襲性システムを利用した糖負荷試験の研究
- ・糖尿病モデルラットを用いた分子栄養学的研究
- ・きのこの機能性と嗜好性に関する食品栄養学的研究、きのこの摂取と健康に関連するヒトを対象とした調査・研究
- ・香辛料および野菜の機能性とおいしさに関する研究 等

評価方法

研究貢献度、論文内容、研究発表、試問結果によって各指導教員が評価する。

使用教材

各教員による

授業外学習の内容

備考

栄養教諭論（教職関係科目）

担当者

三井 久味子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

生活環境の急速な変化に対応するために、食教育の必要性が問われてきた。食に関する教育は、生涯を通して健康的な生き方や自己実現を図ることが基礎基本である。本講義では栄養教諭としての授業への参画できる能力を養うことを目的とする。

到達目標

栄養教諭の役割を把握すること。栄養教諭としての資質を高めること

講義内容と講義計画

- 第 1 回 学校・学校教育とは
- 第 2 回 学習指導要領とは
- 第 3 回 教育課程とは
- 第 4 回 学校における栄養教諭(法的根拠・役割)
- 第 5 回 学校教育構想への位置づけ
- 第 6 回 健康教育の中の学校給食
- 第 7 回 学校栄養教諭の教育構想
- 第 8 回 「構想からメニューまで」の考え方
- 第 9 回 年間指導計画の作成 1
- 第10回 年間指導計画の作成 2
- 第11回 年間指導計画の作成 3
- 第12回 年間指導計画の作成 4
- 第13回 学校給食と学習指導(特別活動)
- 第14回 学校給食と学習指導(教科)
- 第15回 学校給食と学校保健委員会

評価方法

授業態度・意欲 60%、レポート 40%で評価する。

使用教材

資料（構想からメニューまで）
学習指導要領(文部科学省)、栄養教諭論のための学校栄養教育論（笠原賀子監修）

授業外学習の内容

1. 学校教育の中での位置づけとしての学校給食であることについて意識の転換を図る。
2. 学校給食を思い起こしながら、関心を深める。
3. 常に、教育には「目標」や「ねらい」があり、学校給食も当然の事として考えを深める。
4. 学校教育目標や、学校給食目標を調べる。

備考

学校食指導各論（教職関係科目）

担当者

三井 久味子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 3 年後期 必修 2 単位

講義目標

学校教育の本来のねらいをふまえ、全教育活動と連携連動する学校給食を目指す中で必要な教育技術を学ぶ。毎日の食指導と授業との関連を学習指導案の作成や模擬授業を通して学ぶ。

到達目標

学校現場で食の指導を実施するための指導案を作成できる。作成に当たっては、ねらい・内容・評価という一連の流れを大事にする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 学校指導の目的や意義
- 第 2 回 学校教育目標とリンクする授業展開
- 第 3 回 教科を補完する授業
- 第 4 回 年間指導計画の作成
- 第 5 回 単元構想・計画と授業
- 第 6 回 一時間の授業の展開
- 第 7 回 学習指導案の作成 1
- 第 8 回 学習指導案の作成 2
- 第 9 回 学習指導案の作成 3
- 第 10 回 学習指導案の作成 4
- 第 11 回 学習指導案の作成 5
- 第 12 回 学習指導案の作成 6
- 第 13 回 模擬授業 1
- 第 14 回 模擬授業 2
- 第 15 回 模擬授業 3

評価方法

授業態度・意欲 60%、レポート 40%で評価する。

使用教材

教材：学習指導案
学習指導要領（文部科学省） 食に関する指導参考資料（文部科学省）

授業外学習の内容

- ・前年度の学習指導案を参考に、個々人が家庭学習で検討してくる。
- ・学校指導要領を通して教科と学校給食のコラボレーションを図る為に全教育活動で、指導が行われることを理解する。
- ・教科の学習指導案の作成にあたって、自分が求める教科書を選定する。

備考

教師論（教職関係科目）

担当者

深見 匡

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

本講義を通して【到達目標】に掲げる内容を修得し、法令で定める「教育職員（教員）」の責務を踏まえ、教職に携わる者に相応しい資質や知識技能を獲得することを目的とする。

到達目標

教職を目指す者として必要となる①教育学の原理、思想、歴史の基礎的な知識、②現代の教育問題の基礎的な知識、③教職に携わる者として求められる資質や教育方法上の基礎的スキルを修得することを目指し、④教育問題を考察する際にはこれらの修得した知識やスキルを活用することができるようになること。

講義内容と講義計画

授業計画の概要は以下の通り。詳細は初回の授業で提示する。

- 第 1 回 ガイダンス（授業計画、試験・評価方法など）
- 第 2 回 教職にかかわる諸制度①（公教育法制）
- 第 3 回 教職にかかわる諸制度②（学校教育）
- 第 4 回 教職にかかわる諸制度③（学校教育）
- 第 5 回 教職にかかわる諸制度④（教員養成制度）
- 第 6 回 教職にかかわる諸制度⑤（教員の職務）
- 第 7 回 教職にかかわる諸制度⑥（教員の職務）
- 第 8 回 教職にかかわる諸制度⑦（教員と基本的人権・政治）
- 第 9 回 教育の原理①（人間の発達）
- 第10回 教育の原理②（人間と社会）
- 第11回 現代の教育をめぐる諸課題①（学力問題）
- 第12回 現代の教育をめぐる諸課題②（生徒指導）
- 第13回 現代の教育をめぐる諸課題③（教育改革）
- 第14回 国際比較を通して考える
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への出席を含む平常点（30%＝貢献度・授業態度・提出物など）、期末試験（70%）を総合して評価する。評価の詳細については授業時に指示する。

使用教材

テキストや資料は毎回の授業で配布する。

授業外学習の内容

配布したテキストや資料について、授業時に指示した課題を行うこと。

備考

授業時に指示する授業外課題を行うこと。また、教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求めたい。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における様々な情報収集や、教育実践への関わりを大事にしてもらいたい。

教育基礎論（教職関係科目）

担当者

深見 匡

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

教育学を学ぶ上での基礎的な知識となる、①教育の原理、思想、歴史、教育制度、現代的諸問題、様々な教育実践について理解し、概括的に知識を習得すること。②その際、様々な教育事象について、歴史や社会構造をふまえた観点から分析・理解・説明などができるようになること。

到達目標

①【講義目標】に記した内容を理解・修得し、②実際の教育問題の考察や解決にあたり、獲得した知識を活用できるようになること

講義内容と講義計画

授業計画の概要は以下の通り。詳細は初回の授業で提示する。

- 第 1 回 ガイダンス（授業計画、試験・評価方法など）
- 第 2 回 教育の原理と思想①（社会の中の教育）
- 第 3 回 教育の原理と思想②（教育への認識）
- 第 4 回 教育の原理と思想③（発達の理論）
- 第 5 回 近代公教育の歴史①（近代）
- 第 6 回 近代公教育の歴史②（現代）
- 第 7 回 公教育の諸制度①（教育基本法他）
- 第 8 回 公教育の諸制度②（教育課程）
- 第 9 回 公教育の諸制度③（教育課程）
- 第10回 現代の教育をめぐる諸課題（教育問題と教育実践）
- 第11回 現代の教育をめぐる諸課題（学力問題）①
- 第12回 現代の教育をめぐる諸課題（学力問題）②
- 第13回 国際比較の観点から見る日本の教育①
- 第14回 国際比較の観点から見る日本の教育②
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への出席を含む平常点（30%＝貢献度・授業態度・提出物など）、期末試験（70%）を総合して評価する。評価の詳細については授業時に指示する。

使用教材

テキストや資料は毎回の授業で配布する。

授業外学習の内容

配布したテキストや資料について、授業時に指示した課題を行うこと。

備考

授業時に指示する授業外課題を行うこと。また、教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求めたい。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における様々な情報収集や、教育実践への関わりを大事にもらいたい。

教育心理学（教職関係科目）

担当者

角野 善司

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 必修 2 単位
健康栄養学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

本講義は、教育心理学を学ぶことを通じて、教育場面において、教師が児童生徒を理解し効果的な教育を行うためにはどのようにしたらよいかを、多様な観点から心理学的に考えようとするものである。講義を通じて学び考えたことを、児童生徒と接する際のヒントにしてほしい。

到達目標

1. 人間の発達の基本原理および発達に影響を及ぼす諸要因の働きについて説明できる。
2. 人間の学習過程（とりわけ動機づけ過程）について説明できる。
3. 障害児の発達・学習の過程について説明できる。
4. 教育評価の意義・目的・心理的影響について説明できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 教育心理学とは
- 第 2 回 発達観の変遷 (1) 生涯発達
- 第 3 回 発達観の変遷 (2) 社会・文化と人間発達
- 第 4 回 発達の規定因 (1) 遺伝・環境論争
- 第 5 回 発達の規定因 (2) 遺伝・環境論争 その後
- 第 6 回 教育の最適期
- 第 7 回 発達段階と発達課題
- 第 8 回 学習への動機づけ
- 第 9 回 内発的動機づけ
- 第 10 回 原因帰属
- 第 11 回 学習性無力感
- 第 12 回 知的障害児の発達と学習
- 第 13 回 肢体不自由児の発達と学習
- 第 14 回 発達障害児の発達と学習
- 第 15 回 教育評価

評価方法

小テスト 30%、学期末テスト 50%、学期末レポート 20%。

使用教材

「教育心理学」 田中智志・橋本美保(監修) 遠藤 司(編著) 一藝社 2014 年 2,200 円+税

授業外学習の内容

前回の授業内容を十分に理解していなければ、次の授業は理解できない。毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、次回授業で扱う内容については、予めテキストの該当箇所を読んでおくように。

備考

教育制度論（教職関係科目）

担当者

深見 匡

開講学科と時期・単位

全学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

本講義を通して、「到達目標」に掲げる内容を理解・修得し、教育制度のあり方が教育の実質と深い関わりを持つことについて理解できるようになること。

到達目標

教職を目指す者が修得すべき教育学の基礎的な知識のうち、主として教育制度に関わる事項について習得することを目標とする。その際、社会の中にあつて教育を組織する枠組みである教育制度について、①近現代における（公）教育制度の歴史、②現行制度の仕組みと役割、③教育改革の諸構想の観点を中心に学ぶ。

講義内容と講義計画

授業計画の概要は以下の通り。詳細は初回の授業で提示する。

- 第 1 回 ガイダンス（授業計画、試験・評価方法について）
- 第 2 回 教育の組織化
- 第 3 回 教育の歴史①（近代公教育）
- 第 4 回 教育の歴史②（現代公教育）
- 第 5 回 教育の諸制度①（日本国憲法と教育基本法）
- 第 6 回 教育の諸制度②（学校体系）
- 第 7 回 教育の諸制度③（教育内容）
- 第 8 回 教育の諸制度④（教科書制度）
- 第 9 回 教育の諸制度⑤（学校と校務分掌）
- 第10回 教育の諸制度⑥（教育行政）
- 第11回 現代的課題①（学級編制など）
- 第12回 現代的課題②（教育の多様化・能力主義）
- 第13回 現代的課題③（参加と選択）
- 第14回 国際比較を通して考える
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への出席を含む平常点（30%：参加度、授業態度、提出物など）、期末試験（70%）を総合して評価する。評価の詳細については適宜授業中に指示をする。

使用教材

テキストや資料は毎回の授業で配布する。

授業外学習の内容

配布したテキストや資料について、授業時に指示した課題を行うこと。

備考

授業時に指示する授業外課題を行うこと。また、教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求めたい。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における様々な情報収集や、教育実践への関わりを大事にもらいたい。

道徳教育の研究（教職関係科目）

担当者

深見 匡

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年前期 必須 2 単位

講義目標

①道徳心や規範意識の形成は「道徳」の時間だけではなく学校教育全体で追求されるべきこと。②「道徳」のような個人の内心に働きかける公教育の営みは、複雑な法的・社会的問題をはらむこと。③「道徳」を日常生活的な規範基準としてのみ捉えず、様々な価値判断の基準として捉えること。「道徳」教育の学習は以上の諸点の学習であることを理解できるようになること。

到達目標

①【講義目標】の内容を理解・修得し、②実際の教育問題や、価値に関わる問題の考察や解決にあたり、獲得した知識を活用できるようになること。

講義内容と講義計画

授業計画の概要は下記の通り。詳細は初回の授業で提示する。

- 第 1 回 ガイダンス（授業計画、評価方法等について）
- 第 2 回 道徳の定義・理論（社会の価値体系としての道徳）
- 第 3 回 現代の公教育法制と道徳の時間について①
- 第 4 回 現代の公教育法制と道徳の時間について②
- 第 5 回 道徳の理論（ピアジェ他）
- 第 6 回 道徳の理論（コールバーグ他）
- 第 7 回 道徳の理論（ロールズ他）
- 第 8 回 公教育と道徳の歴史（戦前日本）
- 第 9 回 公教育と道徳の歴史（戦後日本）
- 第 10 回 道徳教育の実際（道徳の問題群と諸実践）①人権
- 第 11 回 道徳教育の実際（道徳の問題群と諸実践）②いじめ
- 第 12 回 道徳教育の実際（道徳の問題群と諸実践）③いじめ
- 第 13 回 国際比較の観点からみた日本の道徳教育①
- 第 14 回 国際比較の観点からみた日本の道徳教育②
- 第 15 回 まとめ

評価方法

授業への出席を含む平常点（30%：参加度、授業態度、提出物など）、期末試験（70%）を総合して評価する。評価の詳細については適宜授業中に指示をする。

使用教材

テキストや資料は毎回の授業で配布する。

授業外学習の内容

配布したテキストや資料について、授業時に指示した課題を行うこと。

備考

授業時に指示する授業外課題を行うこと。また、教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求めたい。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における様々な情報収集や、教育実践への関わりを大事にしてもらいたい。

教育課程・方法論（教職関係科目）

担当者

森部 英生

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 前期 必修 2 単位

講義目標

教育の仕事には、教師の深い教養と優れた人格のみならず、教育課程全体の理解と豊かで適切な方法・技術が不可欠です。この授業は、教育の成否を左右するとも言える教育の課程と方法について、歴史を踏まえながら、考察しようと思います。

到達目標

以下について学生の理解・実践力をつけます。
・教育課程が単なるプログラムではないこと、
・教育方法が単なるテクニックとは異なること、
・教育の内容と方法には長い積み重ねがあること、
・正確な知識と実践力を身につけて教育現場に臨めるようにすること。

講義内容と講義計画

授業はおおむね次のように進めていこうと考えます。

- 第 1 回 オリエンテーション 教育課程・方法の意義
- 第 2 回 教育課程の変遷
- 第 3 回 学習指導要領
- 第 4 回 教育課程と教育方法 第 1 回小テスト予定
- 第 5 回 教育の目的・目標と教育方法
- 第 6 回 教育方法・教育実践の歩み
- 第 7 回 模擬授業
- 第 8 回 まとめ 第 2 回小テスト予定

評価方法

評価は、授業中に行う 3 回の小テスト（約 70%）、授業貢献度（発言、質問、授業中の態度など。約 30%）、で行う。

使用教材

教材は適宜プリントを配布。

授業外学習の内容

授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。また、小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

学生諸君自身が学校時代に受けてきた種々の授業を思い出しながら、授業の意味と方法を問い直し、その有する重要性について深く自覚しつつ授業に参加することを望みます。

教育課程・特別活動論（教職関係科目）

担当者

富岡 栄

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 年 必修 2 単位

講義目標

学校教育には学習指導の他に特別活動の領域があり、ともに教育課程において児童・生徒の教育に重要な役割を果たしています。この授業では、学校教育において重要な位置を占めている特別活動を、教育課程との関連において、その歴史、意味、実践などを幅広く考察します。

到達目標

以下について学生の理解・実践力をつけます。
・特別活動の意義・歴史と変遷、
・学校における様々な特別活動の諸相。

講義内容と講義計画

授業はおおむね次のように進めていこうと考えます。

第 1 回 オリエンテーション 教育課程と特別活動

第 2 回 学習指導要領における特別活動

第 3 回 学級活動と生徒会活動

第 4 回 学校行事 第 1 回小テスト予定

第 5 回 クラブ・部活動

第 6 回 学校保健・安全指導

第 7 回 給食指導

第 8 回 まとめ 第 2 回小テスト予定

評価方法

評価は、授業中に行う 3 回の小テスト（約 70%）、授業貢献度（発言、質問、授業中の態度など。約 30%）、で行う。

使用教材

教材は適宜プリントを配布。

授業外学習の内容

授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。また、小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

学生諸君自身が学校時代に受けてきた種々の学校行事等を思い出しながら、学校における特別活動の意味を問い直し、その有する重要性について深く自覚しつつ授業に参加することを望みます。

生徒指導論（教職関係科目）

担当者

宮川 清

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

教職を志す学生が、生徒に事故指導力を付けさせるための働きかけが『生徒指導』である。生徒指導は、学校教育の現場において極めて重要で、それに関わる理論は教育学・心理学・社会学等を始めとする広範な行動科学である。これらの基礎基本にあたる総合的な知識・指導力を扶養する。

到達目標

教職を志す学生が、学校現場で活用される生徒指導の諸理論・諸技術を身につけ、生徒一人一人が現代社会によりよく生きる自己教育力を発揮できるような確かな指導力を育成する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 本能と知能（理性と学習）
- 第 2 回 学習成立の原理（条件反射、試行錯誤、洞察、模倣）
- 第 3 回 学習の心理 I
- 第 4 回 学習の心理 II
- 第 5 回 集団心理：ピグマリオン効果・リンゲルマン効果等
- 第 6 回 発達課題と発達段階
- 第 7 回 青年期の心理 I
- 第 8 回 青年期の心理 II
- 第 9 回 モラトリアムとアイデンティティの確立
- 第10回 欲求不満とストレス問題
- 第11回 ストレス対策と耐性の育成
- 第12回 教育相談と思春期クリニック
- 第13回 生徒指導の手法と事例研究 I
- 第14回 生徒指導の手法と事例研究 II（RolePlay Debate の理論）
- 第15回 RolePlay と Debate の実習

評価方法

日常の授業活動：レポート、演習課題、教育小論文（50%）、学期末テスト（50%）の二本立て

使用教材

図解「心理学のすべて」（今年度版）日本実業出版¥1,500

授業外学習の内容

学んだ各理論や処理方法を定着させるために、前回の授業内容に関わる小テストなどを行うので、復習しておく事

備考

宮川 清のメールアドレス：mi-ki-hi@mars.sannet.ne.jp

教育相談（教職関係科目）

担当者

宮内 洋

開講学科と時期・単位

全学科 3 年後期 必修 2 単位

講義目標

- ①教育相談の意義や基本的な考え方について理解する。
- ②教師として児童・生徒の相談にのり、自己実現を援助するために必要な心構えならびに技術を習得する。
- ③教育相談の考え方を授業の中で活用し、生徒の学びを受容的・共感的に支える方法について理解する。

到達目標

- ①教育相談の意義と基本的な役割について説明ができる。
- ②相談の基本的な技法についてその特徴や目的を説明できる。また、これらの技法を授業内での演習やロールプレイで実際に活用することができる。
- ③教育相談の代表的な活用例である不登校について、その背景を理解し、教育的配慮の方法について説明できる。
- ④教育実習の研究授業のなかで、生徒との教育相談的関わりが必要とされる場面を具体的に想定し、シナリオとして作成することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 教育相談とはなにか？：恋愛相談と教育相談
- 第 2 回 教育相談の世界を体験しよう：演習とロールプレイ
- 第 3 回 教育相談の実際：教員経験者によるゲスト講義
- 第 4 回 教育相談の基礎①：フロイトの精神分析に学ぶ：「無意識」と「夢」
- 第 5 回 教育相談の基礎②：フロイトの精神分析に学ぶ：事例検討
- 第 6 回 教育相談の基礎③：来談者中心主義に学ぶ：「受容」と「共感」
- 第 7 回 教育相談の基礎④：来談者中心主義に学ぶ：「自己一致」とはなにか
- 第 8 回 教育相談の基礎⑤：来談者中心主義と教育相談：ロールプレイによる演習
- 第 9 回 教育相談の基礎⑤：解決志向アプローチと教育相談
- 第10回 教育相談の基礎⑥：解決志向アプローチ：事例検討
- 第11回 教育相談の心を活かした授業展開①：研究授業のシミュレーション
- 第12回 教育相談の心を活かした授業展開②：グループワークとディスカッション
- 第13回 教育相談と学校社会①：映画「パリ 20 区、僕たちのクラス」に学ぶ（前半）
- 第14回 教育相談と学校社会②：映画「パリ 20 区、僕たちのクラス」に学ぶ（後半）
- 第15回 まとめ

評価方法

コミュニケーションカード 30%、シナリオ 30%、期末試験 40%により総合的に評価する。

使用教材

必要に応じてプリントを配布する

授業外学習の内容

レポート課題の作成と毎回の授業についてコミュニケーションカードを記入・提出することを課します。コミュニケーションカードには、当該授業で印象に残ったこととその理由を B5 版用紙 1 枚程度にまとめ、その週のうちに提出することとします。

備考

事前・事後指導（教職関係科目）

担当者

神戸美恵子、深見匡、曾根保子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 4 年前期 必修 1 単位

講義目標

講義の目的は、事前実習では、栄養教育実習が円滑に行えるよう①栄養教育実習についての包括的な知識を獲得し、②栄養教育実習に必要となるスキルを習得すること。また、実習後は、③実習にて習得した知識や技能をさらに深め、④「教育実習報告会」において自身の実践の総括ができる力をつけること。

到達目標

講義目的】に掲げる内容を理解・修得し、②栄養指導上の実際的な諸課題について必要な対処ができるようになること

講義内容と講義計画

授業計画の概要は下記の通り。詳細は初回の授業で提示する。

(1)事前指導

第 1 回栄養教育実習の意義・目的・心構え

第 2 回栄養教育実習の実際①

第 3 回栄養教育実習の実際②

第 4 回実習指導案の作成・検討①

第 5 回実習指導案の作成・検討②

(2)事後指導

第 6 回実習の反省①

第 7 回実習の反省②

第 8 回「教育実習報告会」

評価方法

授業への出席を含む平常点(50%)、提出物・レポート・報告内容等 (50%) で総合的に評価する。詳細は授業中に指示する。

使用教材

文部科学省著「食に関する指導の手引き」東山書房 2010 (1,260 円)を購入。

「教育実習の手引き」(授業時に配布する)

授業外学習の内容

授業時に指示する課題を行うこと。

備考

栄養教育実習（教職関係科目）

担当者

神戸美恵子、深見匡、曾根保子

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 4 年前期 必修 1 単位

講義目標

小中学校において 5 日間の栄養教育実習を行う。栄養教育実習では以下を目的とする。①栄養教育について体験的・総合的な認識を得ること、②大学で習得した教科や教職に関する知識や理論、技術を生かし、学校現場での児童・生徒の発達に即した実践的指導を行うこと、③教育実践に関する問題解決や創意工夫に必要な研究的な態度や能力を養うこと、④教育者としての愛情と使命感を深め、教員としての能力や適性についての自覚を得ること。

到達目標

①【講義目標】に記した内容を理解・修得し、②栄養教育上の実際的な諸課題について必要な対処ができるようになること。

講義内容と講義計画

実習校での実習について

- (1) 校長・指導教諭等からの指導
- (2) 児童及び生徒への個別な相談、指導の実習
- (3) 児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習
- (4) 食に関する指導の連携・調整の実習
- (5) 学校の教育活動の参観や参加
- (6) 保護者や地域との連携について

評価方法

教育実習期間中の出席状況（25%）、実習ノートの内容（25%）、実習学校からの評価（50%）などを参考に、総合的に評価する。

使用教材

「教育実習の手引き」（授業時に配布）

授業外学習の内容

実習後の指示に従うこと。

備考

学外での実習に相応しい責任や態度をよく自覚して臨むこと。なお、栄養教諭の教科科目（「栄養教諭論」「学校食指導各論」）を履修していない場合は 4 年次に教育実習に出ることはできない。また、「履修ガイド」の「栄養教諭教職課程・栄養教育実習の履修承認基準」の規定に注意すること。

教職実践演習（栄養教諭）（教職関係科目）

担当者

神戸美恵子、深見匡

開講学科と時期・単位

健康栄養学科 4 年後期 必修 2 単位

講義目標

栄養教諭養成課程の最終的な段階として、①栄養教諭に求められる様々な資質(食の指導の専門家としての専門的知識や実践的スキル、教科指導や生徒指導の専門家としての専門的知識や実践的スキルなど)の確認を行い、②各学生のそうした資質の習得状況を踏まえて、必要な補足やいっそうの充実を行うことを目的とする。

到達目標

【講義目標】にある内容を理解・修得し、②栄養教育上の実際的な諸課題について必要な対処ができるようになること

講義内容と講義計画

授業計画は以下の通り。詳細は初回の授業時に提示する。

- 第 1 回 導入 これまでの振り返り
- 第 2 回 教職の意義・教員の職務と責任についての演習
- 第 3 回 食に関する指導と食の全体計画についての演習
- 第 4 回 児童生徒の発達を踏まえた指導についての演習
- 第 5 回 カウンセリングや集団指導についての演習
- 第 6 回 給食時間の指導についての演習
- 第 7 回 特別活動おける食に関する指導についての演習
- 第 8 回 教科における食に関する指導についての演習
- 第 9 回 「食生活学習教材」の活用(演習)
- 第 10 回 他の教職員との連携・協力についての演習
- 第 11 回 保護者・地域との連携についての演習
- 第 12 回 学校現場の見学・調査
- 第 13 回 模擬授業の実践・相互評価・討論 1
- 第 14 回 模擬授業の実践・相互評価・討論 2
- 第 15 回 総括

評価方法

授業への貢献度や出席状況を含む平常点 (50%)、レポートと期末試験 (50%) を総合して評価する。評価方法の詳細については授業中に指示をする。

使用教材

授業時に指示する。

授業外学習の内容

実習後の指示に従うこと。

備考